

14.2イ-801



4.21

801

北海道農事試験場業務概要

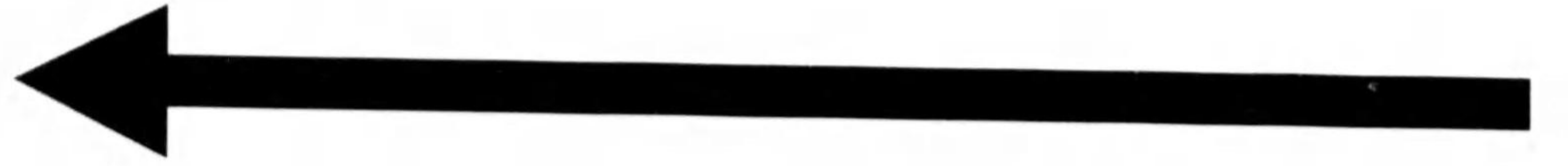
同場編

後編

昭和十四年度



始



14

801

昭和十四年度

北海道農事試驗場業務概要 後編

北海道農事試驗場

後編 指導獎勵上参考に資すべき
試験及調査成績

目次

一、種藝及園藝に関する試験及調査成績……………一

甲 種藝に関する試験及調査成績……………一

(一) 水稻「早生白毛」に関する試験成績(上川支場、その他)……………一

(二) 水稻「水稻農林十五號」に関する試験成績(上川支場、その他)……………七

(三) 水稻「福糯」に関する試験成績(上川支場、その他)……………三

(四) 水稻「水稻選野一號」に関する試験成績(渡島支場)……………三

(五) 水稻品種選抜試験成績(日高試作場)……………三

(六) 水稻直播播種量試験成績(美深試作場)……………三

(七) 水稻苗仕立法に関する試験成績(瀬棚試作場)……………四〇

(八) 水稻温床苗代に於ける灌水量に関する試験成績(本場)……………四〇



1424
801

- (九) 水稻温床及冷床苗代に於ける床土の深さに關する試験成績(本場)..... 四
- (八) 春播小麦品種選抜試験成績(美唄泥炭地試験地、日高試作場)..... 五
- (七) 玉蜀黍品種選抜試験成績(幸震高丘地試験地、稚内試作場)..... 六
- (六) 黍「早生黒糯」、「朝鮮糯」、「早生朝鮮」に關する試験成績(幸震高丘地試験地、本場)..... 七
- (五) 水田稗移植期節試験成績(日高試作場)..... 八
- (四) 蕎麥品種選抜試験成績(釧路試作場)..... 九
- (三) 大豆「奥原一號」に關する試験成績(十勝支場)..... 一〇
- (二) 小豆品種選抜試験成績(瀬棚試作場)..... 一一
- (一) 春播菜種播種期節試験成績(日高試作場)..... 一二
- (一〇) 春播菜種間引の距離竝に時期に關する試験成績(日高試作場)..... 一三
- (九) 除蟲菊の收穫期に關する試験成績(和寒除蟲菊試験地)..... 一四
- (八) 飼料用稗「松崎」に關する試験成績(本場、檜山、俱知安及瀬棚試作場)..... 一五
- (七) 飼料用胡蘿蔔品種選抜試験成績(本場、根室支場、俱知安、美深、天鹽、釧路及稚内試作場、早來火山灰地試験地)..... 一六
- (六) ケール適否試験成績(本場、十勝、根室及渡島支場、俱知安、天鹽及釧路)..... 一七
- (五) ライ麥青刈試験成績(俱知安試作場)..... 一八
- (四) 牧草播種期節試験成績(幸震高丘地試験地、釧路試作場)..... 一九

- (三) クローバー類採種時期に關する試験成績(釧路試作場)..... 二〇
- (二) 泥炭地に於ける牧草地造成に關する試験成績(釧路試作場)..... 二一
- (一) 泥炭地に於ける綠肥作物適否試験成績(釧路試作場)..... 二二
- 乙 園藝に關する試験及調査成績..... 二三
- (一) 玉蜀黍(甘味種)「ストーエルスエバグリーン」に關する試験成績(渡島支場)..... 二四
- (二) 罐壇詰原料莢菜豆「サツトンストールシユガー」、「エバグリーン」及「スーパラチーブ」に關する試験成績(本場)..... 二五
- (三) 罐壇詰原料豌豆「アラスカ」及「ブライドオブキャナーズ」に關する試験成績(本場)..... 二六
- (四) 樹苺「ラーザム」、「ニユボウ」、「ゴールドデンクキーン」及「ブラツクキヤツプ一號」に關する試験成績(本場)..... 二七
- 二、土壤及肥料に關する試験及調査成績..... 二八
- 甲 土性及土地改良に關する試験及調査成績..... 二九
- (一) 北見及天鹽國日本海沿岸地方の土壤統に關する調査成績(本場)..... 三〇
- 乙 肥料に關する試験及調査成績..... 三一
- (一) 燕麥、蕎麥、馬鈴薯、菊芋對三要素試験成績(幸震高丘地試験地)..... 三二
- (二) 新墾地に於ける牧草對三要素試験成績(釧路試作場)..... 三三
- (三) 泥炭地の開墾法と三要素に關する試験成績(釧路試作場)..... 三四
- (四) 燕麥對三要素適量査定試験成績(檜山試作場)..... 三五

(五)	除蟲菊對三要素適量查定試驗成績(和寒除蟲菊試驗地)	一六
(六)	甜菜對綠肥跡地磷酸及加里適量查定試驗成績(十勝支場)	一六
(七)	馬鈴薯對加里用量試驗成績(美瑛試作場)	一三
(八)	水稻對堆肥施用量試驗成績(日高試作場)	一四
(九)	除蟲菊對堆肥施用量試驗成績(和寒除蟲菊試驗地)	一六
(一〇)	石狩國に於ける堆肥對三要素用量試驗成績(本場(委託試驗))	一七
(一一)	石狩、後志及十勝國に於ける窒素質肥料肥效比較並に配合試驗成績(本場(委託試驗))	一〇
(一二)	除蟲菊對窒素質肥料肥效比較試驗成績(和寒除蟲菊試驗地)	一四
(一三)	除蟲菊對肥料配合割合試驗成績(和寒除蟲菊試驗地)	一四
(一四)	除蟲菊對肥料施用量試驗成績(和寒除蟲菊試驗地)	一四
(一五)	水稻對石灰窒素施用法試驗成績(渡島支場)	一〇
三、病理及昆蟲に關する試験及調査成績		
甲 病理に關する試験及調査成績		
(一)	馬鈴薯疫病對粉劑效果に關する試験成績(十勝支場)	一五
(二)	大豆萎黃病と輪作との關係試驗成績(本場)	一五
(三)	昭和十四年本道に於て發生せる特に注意すべき病害に關する調査成績(本場)	一五
乙 昆蟲に關する試験及調査成績		
(一)	砒酸石灰液の甜菜夜盜蟲殺蟲效果比較試驗成績(本場)	一六
(二)	櫻桃羽斑實蝨防除試驗成績(本場(委託試驗))	一六
(三)	昭和十四年本道に於て發生せる特に注意すべき害蟲に關する調査成績(本場)	一七
四、蠶桑に關する試験及調査成績		
(一)	春蠶一代雜種比較試驗成績(本場)	一七
(二)	新用途繭用夏蠶一代雜種比較試驗成績(本場)	一七
五、農産加工に關する試験及調査成績		
(一)	罐壇詰用莢菜豆收穫期試驗成績(本場)	一七
(二)	罐壇詰莢菜豆褪色防止法試驗成績(本場)	一七
(三)	莢菜豆罐壇詰注入液調味法試驗成績(本場)	一七
(四)	罐詰原料梨「身不知」追熟に關する試験成績(本場)	一八
(五)	罐詰原料梨「身不知」の果實の大き對果肉歩止及品質に關する試験成績(本場)	一八
(六)	梨「身不知」罐詰殺菌法試驗成績(本場)	一八
(七)	梨「身不知」罐詰注入液試驗成績(本場)	一八
六、農具に關する試験及調査成績		
		一八

(一)	砒酸石灰液の甜菜夜盜蟲殺蟲效果比較試驗成績(本場)	一六
(二)	櫻桃羽斑實蝨防除試驗成績(本場(委託試驗))	一六
(三)	昭和十四年本道に於て發生せる特に注意すべき害蟲に關する調査成績(本場)	一七
四、蠶桑に關する試験及調査成績		
(一)	春蠶一代雜種比較試驗成績(本場)	一七
(二)	新用途繭用夏蠶一代雜種比較試驗成績(本場)	一七
五、農産加工に關する試験及調査成績		
(一)	罐壇詰用莢菜豆收穫期試驗成績(本場)	一七
(二)	罐壇詰莢菜豆褪色防止法試驗成績(本場)	一七
(三)	莢菜豆罐壇詰注入液調味法試驗成績(本場)	一七
(四)	罐詰原料梨「身不知」追熟に關する試験成績(本場)	一八
(五)	罐詰原料梨「身不知」の果實の大き對果肉歩止及品質に關する試験成績(本場)	一八
(六)	梨「身不知」罐詰殺菌法試驗成績(本場)	一八
(七)	梨「身不知」罐詰注入液試驗成績(本場)	一八
六、農具に關する試験及調査成績		
		一八

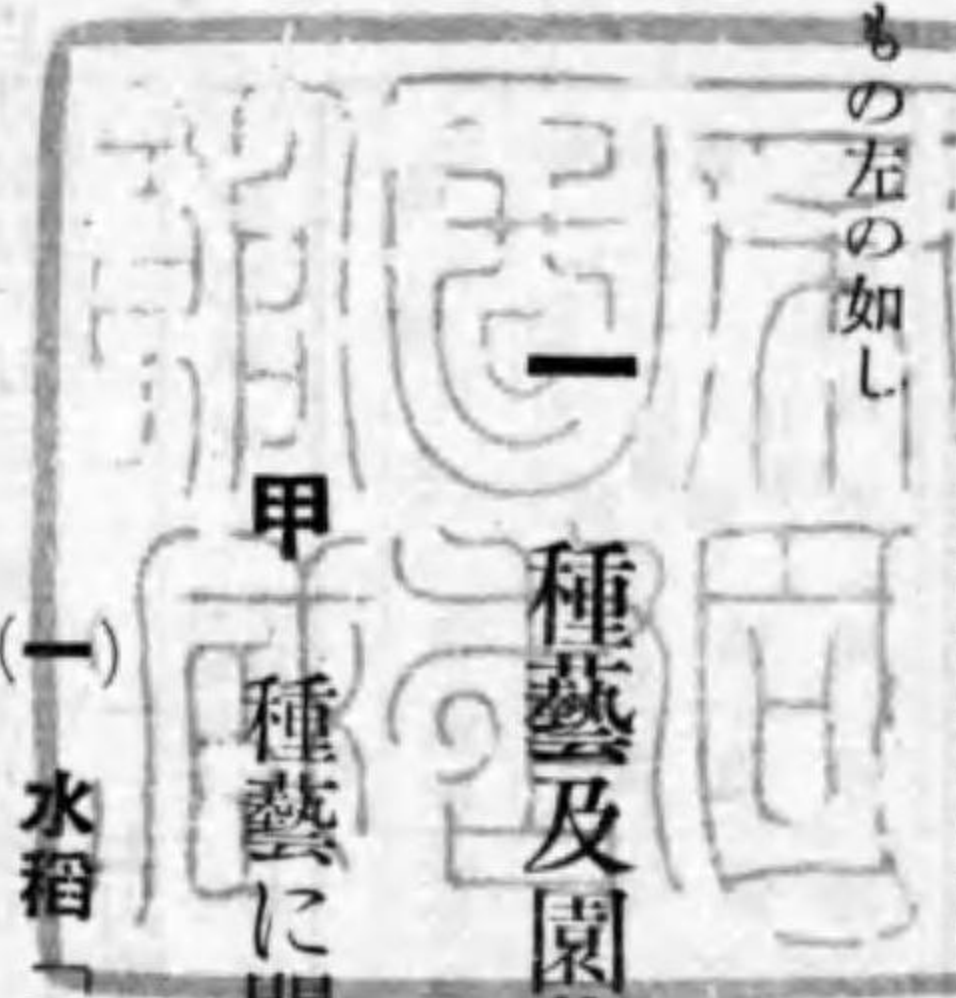
(一) 赤クローバー種子の脱粒に関する試験成績(本場) 一六

(二) 一頭曳麥類刈取機調査成績(本場) 一七

後編

指導奨励上参考に資すべき試験及調査成績

本年度に於て完了せる若は未完了なるも特に發表の必要を認めたる試験及調査成績のうち、昭和十五年自二月二十六日至三月五日開催の北海道農事試験場本支場長並に試作場長協議會に於て、指導奨励上参考に資すべき事項として協議決定せるもの左の如し



一 種藝及園藝に関する試験及調査成績
 甲 種藝に関する試験及調査成績
 (一) 水稻「早生白毛」に関する試験成績

本品種は上川支場に於て昭和三年「坊主二號」を母とし、「中生愛國」を父として人工交配を行ひ育成せるものにして、主として空知支廳管内の濕地及泥炭地並に沿海の比較的低温多風なる地方等特殊地帯に適する優良品種に決定し、「早生白毛」と命名せり。

本品種の特性は、出穂期、成熟期は「坊主二號」より稍早く、結實日數少なき傾向あり。草丈は「富國」に類似し稍短く

莖稈は細く強剛にして稍耐肥性に富み、「坊主二號」より強きも「富國」より稍弱く、倒伏の虞比較的少なし。分蘗は「富國」に及ばざるも「坊主二號」より多し。穂は短く、粒着密にして、白色中長の芒を有し、稈は鮮黄白色を呈し、結實良好にして不完全粒、不稔粒等比較的少なし。稻熱病には抵抗性を有し、冷害にも比較的強く、濕地、泥炭地或は風の多き地方等に適す。玄米收量は「富國」よりは少なきも「坊主二號」より多く、玄米は中形中粒、腹白少なく、品質稍良好にして精白歩合は「坊主二號」より優り、食味も稍良好なり。其の成績左の如し

一 上川支場試験成績

自昭和十一年
至同十四年

品 種 名	葉		莖		稈		米		耐病性
	色	形状	葉勢	形状	草丈	穂數	粒着	芒	
坊主二號(標準)	稍淡	廣	廣	中	長	多	多	長	中
富國(比較)	濃	狹	直	同	短	少	少	短	中
早生白毛	同	同	同	同	同	同	同	同	同

(一) 特性調査

自昭和十一年
至同十四年

品 種 名	生育及收量調査		生育		收量		品質	
	出穂期	成熟期	結實日數	生育日數	玄米收量	平均	精白歩合	玄米反當收量
坊主二號(標準)	八月五日	九月九日	三三	一七	三、八〇	一〇〇	八〇	二、七三
富國(比較)	八月九日	九月九日	三三	一七	三、七〇	一〇〇	八〇	二、七三
早生白毛	八月五日	九月九日	三三	一七	三、七〇	一〇〇	八〇	二、七三

備考 生育調査は自昭和十一年至同十四年四箇年平均、莖稈重量は自昭和九年至同十四年六箇年平均。

(三) 耐肥性調査

直播 昭和十一年、同十二年

品 種 名	標準肥料		五割減		標準肥料		五割増	
	出穂期	成熟期	草丈	穂數	出穂期	成熟期	草丈	穂數
坊主二號(標準)	八月九日	九月九日	一八	一八	八月九日	九月九日	一八	一八
富國(比較)	八月九日	九月九日	一八	一八	八月九日	九月九日	一八	一八
早生白毛	八月九日	九月九日	一八	一八	八月九日	九月九日	一八	一八

(四) 精白調査

昭和十四年

品 種 名	玄米		白米		摘	要
	重量	等級	重量	等級		
坊主二號(標準)	三、三三	三等	三、三三	一等	清水無砂精米機により一等白を標準として精白せり 二耗の篩を通りたるものは碎米とせり	
富國(比較)	三、三三	三等	三、三三	一等		
早生白毛	三、三三	三等	三、三三	一等		

二 各地の農事試験機關に於ける試験成績

試験機關名	品 種 名	出穂期		成熟期		草丈	穂長	一穂倒伏		平均		精白歩合	反當玄米收量
		月日	月日	月日	月日			昭	同	昭	同		
北海道農事 試験場 (本場)	坊主五號	八月九日	九月九日	八月九日	九月九日	一八	一八	中	同	三、九六	一〇〇	八〇	二、七三
	富國	八月八日	九月九日	八月八日	九月九日	一七	一七	無	同	三、九六	一〇〇	八〇	二、七三
	早生白毛	八月七	九月九	八月七	九月九	一七	一七	無	同	三、九六	一〇〇	八〇	二、七三

(3) 精白歩合は二等白を標準として試験せる成績なり。
 (4) 「水稻農林十一號」は年に依り試験圃を異にするを以て参考として記載せり。

二 生育調査 自昭和十四年
至同十四年

品 種 名	發芽 期	發芽 良否	始 出 穂 期	出 穂 期	抽 穂 期	日 穂 揃 日 數	日 出 穂 迄 日 數	期 成 熟 日 數	日 結 實 日 數	日 生 育 日 數	多 少	稻 熱 病 少 多	稻 泥 負 少 多	倒 伏 少 多	稈 長	穂 長	穂 數	有 效 歩 合
水稻農林十五號	五月二日	良	七月五日	七月六日	七月七日	五日	五日	六月六日	四月二日	二二日	無	無	無	無	五〇	一四二	三	三七
走坊主二號	五月三日	同	七月三日	七月八日	七月八日	五日	七日	六月九日	二月六日	二六日	少	同	同	同	六二	一六四	三	七四
水稻農林十一號 (比較)	五月三日	同	七月三日	七月八日	七月八日	五日	七日	六月九日	二月六日	二六日	少	同	同	同	六〇	一四七	三	七四
水稻農林十一號 (參考)	五月三日	同	七月三日	七月八日	七月八日	五日	七日	六月九日	二月六日	二六日	少	同	同	同	六〇	一四七	三	七四

備考 (1) 本成績は標準栽培區に於ける調査結果なり。
 (2) 「水稻農林十一號」は年に依り圃場を異にするを以て参考として記載せり。

三 收量調査 自昭和十四年
至同十四年

品 種 名	年 次	標 準			栽 培 區			多 肥			栽 培 區		
		米重量	同 上 對 比 較 品 種 比 率	精 粒 歩 合	米重量	同 上 對 比 較 品 種 比 率	精 粒 歩 合	米重量	同 上 對 比 較 品 種 比 率	精 粒 歩 合	米重量	同 上 對 比 較 品 種 比 率	精 粒 歩 合
水稻農林十五號	昭和十年	三、三三〇	一〇二	五、五%	三、三三〇	一〇二	五、五%	三、三三〇	一〇二	五、五%	三、三三〇	一〇二	五、五%
	同十一年	三、二二四	九八	五、五%	三、二二四	九八	五、五%	三、二二四	九八	五、五%	三、二二四	九八	五、五%
	同十二年	三、九七七	一〇三	五、五%	三、九七七	一〇三	五、五%	三、九七七	一〇三	五、五%	三、九七七	一〇三	五、五%
	同十三年	三、九四四	一〇三	五、五%	三、九四四	一〇三	五、五%	三、九四四	一〇三	五、五%	三、九四四	一〇三	五、五%
平 均	三、二七八	一〇三	五、五%	三、二七八	一〇三	五、五%	三、二七八	一〇三	五、五%	三、二七八	一〇三	五、五%	

品 種 名	年 次	標 準			栽 培 區			多 肥			栽 培 區		
		米重量	同 上 對 比 較 品 種 比 率	精 粒 歩 合	米重量	同 上 對 比 較 品 種 比 率	精 粒 歩 合	米重量	同 上 對 比 較 品 種 比 率	精 粒 歩 合	米重量	同 上 對 比 較 品 種 比 率	精 粒 歩 合
走坊主二號 (比較)	昭和十年	三、三三〇	一〇〇	五、五%	三、三三〇	一〇〇	五、五%	三、三三〇	一〇〇	五、五%	三、三三〇	一〇〇	五、五%
	同十一年	三、二二四	九八	五、五%	三、二二四	九八	五、五%	三、二二四	九八	五、五%	三、二二四	九八	五、五%
	同十二年	三、八二五	一〇〇	五、五%	三、八二五	一〇〇	五、五%	三、八二五	一〇〇	五、五%	三、八二五	一〇〇	五、五%
	同十三年	三、八七三	一〇〇	五、五%	三、八七三	一〇〇	五、五%	三、八七三	一〇〇	五、五%	三、八七三	一〇〇	五、五%
平 均	三、二九一	一〇〇	五、五%	三、二九一	一〇〇	五、五%	三、二九一	一〇〇	五、五%	三、二九一	一〇〇	五、五%	
水稻農林十一號 (參考)	昭和十年	三、六八六	九〇	五、五%	三、六八六	九〇	五、五%	三、六八六	九〇	五、五%	三、六八六	九〇	五、五%
	同十一年	三、九一一	九〇	五、五%	三、九一一	九〇	五、五%	三、九一一	九〇	五、五%	三、九一一	九〇	五、五%
	同十二年	三、三〇二	九〇	五、五%	三、三〇二	九〇	五、五%	三、三〇二	九〇	五、五%	三、三〇二	九〇	五、五%
	同十三年	三、四八六	九〇	五、五%	三、四八六	九〇	五、五%	三、四八六	九〇	五、五%	三、四八六	九〇	五、五%
平 均	三、一八五	九〇	五、五%	三、一八五	九〇	五、五%	三、一八五	九〇	五、五%	三、一八五	九〇	五、五%	

備考 (1) 標準栽培區に於ける陌當施肥量は堆肥七、五六二疋、魚粕一五一・二疋、硫酸アンモニヤ一三・四疋、過燐酸石灰二二六・八疋は五割増なり。
 (2) 播種期は昭和十四年の五月十七日なるを除けば各年共五月十六日なり。
 (3) 坪當株數並に一株播種粒數は七二株(七・五寸×六・六寸)二〇粒内外播なり。
 (4) 「水稻農林十一號」の昭和十一年及同十四年以外の成績は他と試験圃を異にするを以て本成績は参考として記載せり。

二 道内試験機關に於ける試験成績
 北見支場試験成績 直播 昭和十二年、同十四年

品 種 名	試験年次	出穂		出穂		成熟		結實		生育		病熱		倒伏		稈長		穂長		穂數		米重		同對		玄米		玄米		品質		稈重		反當	
		期	日	期	日	期	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日		
水 稻 農 林 十 五 號	昭 和 十 三 年	平	八・三	八・三	八・三	九・九	九・九	四・一	四・一	二・〇	二・〇	無	無	中	六・六	一・三	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	
		同	八・三	八・三	八・三	九・九	九・九	四・一	四・一	二・〇	二・〇	無	無	中	六・六	一・三	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	
走 坊 主 二 號	昭 和 十 三 年	平	八・三	八・三	八・三	九・九	九・九	四・一	四・一	二・〇	二・〇	無	無	中	六・六	一・三	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	
		同	八・三	八・三	八・三	九・九	九・九	四・一	四・一	二・〇	二・〇	無	無	中	六・六	一・三	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇
水 稻 農 林 十 五 號	昭 和 十 三 年	平	八・三	八・三	八・三	九・九	九・九	四・一	四・一	二・〇	二・〇	無	無	中	六・六	一・三	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	
		同	八・三	八・三	八・三	九・九	九・九	四・一	四・一	二・〇	二・〇	無	無	中	六・六	一・三	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	

備考 (1) 昭和十三年度本試験は施行せず。
 (2) 陌當施肥量は堆肥 一、三四四疋、魚粕四五四疋、硫酸アンモニヤ一三疋、過燐酸石灰一八九疋、硫酸加里七六疋施用せり。
 (3) 播種期は年に依り多少遅速あるも適期を失せず、昭和十二年は五月十八日、同十四年は五月二十五日なり。
 (4) 坪當株數並に一株播種粒數は七二株二〇粒内外播なり。

(一) 美深試作場試験成績
 自昭和十一年
 至同十四年

品 種 名	試験年次	出穂		出穂		成熟		結實		生育		病熱		倒伏		稈長		穂長		穂數		米重		同對		玄米		玄米		品質		稈重		反當	
		期	日	期	日	期	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日			
水 稻 農 林 十 五 號	昭 和 十 一 年	平	八・一	八・一	八・一	九・八	九・八	四・一	四・一	二・〇	二・〇	無	無	中	六・六	一・三	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇		
		同	八・一	八・一	八・一	九・八	九・八	四・一	四・一	二・〇	二・〇	無	無	中	六・六	一・三	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	
走 坊 主 二 號	昭 和 十 一 年	平	八・一	八・一	八・一	九・八	九・八	四・一	四・一	二・〇	二・〇	無	無	中	六・六	一・三	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	
		同	八・一	八・一	八・一	九・八	九・八	四・一	四・一	二・〇	二・〇	無	無	中	六・六	一・三	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	
水 稻 農 林 十 五 號	昭 和 十 一 年	平	八・一	八・一	八・一	九・八	九・八	四・一	四・一	二・〇	二・〇	無	無	中	六・六	一・三	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	
		同	八・一	八・一	八・一	九・八	九・八	四・一	四・一	二・〇	二・〇	無	無	中	六・六	一・三	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	

(二) 少 肥 栽 培 昭 和 十 三 年

品 種 名	試験年次	出穂		出穂		成熟		結實		生育		病熱		倒伏		稈長		穂長		穂數		米重		同對		玄米		玄米		品質		稈重		反當	
		期	日	期	日	期	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日			
水 稻 農 林 十 五 號	昭 和 十 三 年	平	七・三	七・三	七・三	九・三	九・三	四・一	四・一	二・〇	二・〇	無	無	中	六・六	一・三	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇		
		同	七・三	七・三	七・三	九・三	九・三	四・一	四・一	二・〇	二・〇	無	無	中	六・六	一・三	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	
走 坊 主 二 號	昭 和 十 三 年	平	七・三	七・三	七・三	九・三	九・三	四・一	四・一	二・〇	二・〇	無	無	中	六・六	一・三	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	
		同	七・三	七・三	七・三	九・三	九・三	四・一	四・一	二・〇	二・〇	無	無	中	六・六	一・三	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	
水 稻 農 林 十 五 號	昭 和 十 三 年	平	七・三	七・三	七・三	九・三	九・三	四・一	四・一	二・〇	二・〇	無	無	中	六・六	一・三	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	
		同	七・三	七・三	七・三	九・三	九・三	四・一	四・一	二・〇	二・〇	無	無	中	六・六	一・三	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	

備考 (1) 標準肥栽培區の陌當施肥量は堆肥 七、五六三疋、魚粕 一八九疋、硫酸アンモニヤ 七六疋、過燐酸石灰 三〇二疋にして少肥區栽培はその三割減なり。

(2) 播種期は昭和十四年の五月十八日なりしを除けば各年五月十六日なり。
 (3) 坪當株數に一株播種粒數は七二株二〇粒内外播なり。
 (4) 昭和十三年度「水稻農林十五號」は雀害の爲減收。
 (三) 播種期に關する適應性檢定 昭和十四年

品 種 名	播 種 期	出 穂		迄の 出 穂		期 成 熟		結 實		出 穂		少 病 多 稈		多 倒 伏		稈 長		米 重 量		比 率		立 重 量		粒 重 量		品 質		稈 重 量		反 當 量	
		期	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日
十水 稻農 林 號林	五月十五日	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八
	同 二十日	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八
	同 二十五日	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八
	同 三十日	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八
	六月 四日	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八
走坊主二號	五月十五日	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八
	同 二十日	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八
	同 二十五日	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八
	同 三十日	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八
	六月 四日	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八

(四) 播種密度に關する適應性檢定 昭和十四年

品 種 名	苗 立 株 數	出 穂 期	迄の 出 穂		期 成 熟		結 實		出 穂		少 病 多 稈		多 倒 伏		稈 長		米 重 量		比 率		立 重 量		粒 重 量		品 質		稈 重 量		反 當 量		
			日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	
十水 稻農 林 號林	一〇	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	
	一五	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	
	二〇	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	
	二五	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八
	三〇	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八
走坊主二號	一〇	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	
	一五	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	
	二〇	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	
	二五	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	
	三〇	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	

備考 (三)及(四)の耕種法は標準耕種法に準じ特記すべき事項なし。
 俱知安試作場試驗成績 自昭和十一年 至同十四年

品 種 名	試 驗 年 次	出 穂		迄の 出 穂		期 成 熟		結 實		出 穂		少 病 多 稈		多 倒 伏		稈 長		米 重 量		比 率		立 重 量		粒 重 量		品 質		稈 重 量		反 當 量	
		期	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	
十水 稻農 林 號林	昭和十一年	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	
	同 十二年	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	
	同 十三年	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八
	同 十四年	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八
	平均	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八
走坊主二號	昭和十一年	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	
	同 十二年	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	
	同 十三年	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八
	同 十四年	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八
	平均	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八

備考 (1) 陌當施肥量は堆肥一〇、〇〇〇疋、魚粕二七〇疋、硫酸アンモニヤ一二〇疋、過燐酸石灰三〇〇疋、硫酸加里一〇〇疋なり。
 (2) 播種期は昭和十一年は五月二十九日、同十二年及同十四年は五月二十四日、同十三年は五月二十五日なり。
 (3) 坪當株數竝に一株播種粒數は七二株二〇粒内外なり。

四 十勝支場試験成績 自昭和十一年至同十四年

品 種 名	試 験 年 次	出 穂		出 穂 日 数		成 熟 日 数		結 實 日 数		病 害 多 少		稈 倒 伏 多 少		稈 長		穗 長		穗 數		陌 當 玄 米 重 量 比 較 率		玄 米 立 重 量		品 質		陌 當 莖 反 當 玄 米 容 量		
		期	日	期	日	期	日	期	日	少	多	少	多	本	本	本	本	本	本	本	本	本	本	本	本	本	本	本
水 稻 農 林 十 五 號	昭 和 十 一 年	八、九	八、九	九、一	九、一	九、二	九、二	九、三	九、三	無	無	無	無	一、三	一、三	一、三	一、三	一、三	一、三	一、三	一、三	一、三	一、三	一、三	一、三	一、三	一、三	一、三
	昭 和 十 二 年	七、三	七、三	八、四	八、四	九、八	九、八	九、九	九、九	無	無	無	無	一、四	一、四	一、四	一、四	一、四	一、四	一、四	一、四	一、四	一、四	一、四	一、四	一、四	一、四	
走 坊 主 一 號	昭 和 十 一 年	八、三	八、三	八、七	八、七	九、一	九、一	九、二	九、二	無	無	無	無	一、三	一、三	一、三	一、三	一、三	一、三	一、三	一、三	一、三	一、三	一、三	一、三	一、三	一、三	
走 坊 主 二 號	昭 和 十 三 年	八、六	八、六	八、九	八、九	九、三	九、三	九、四	九、四	無	無	無	無	一、三	一、三	一、三	一、三	一、三	一、三	一、三	一、三	一、三	一、三	一、三	一、三	一、三	一、三	
走 坊 主 二 號	昭 和 十 三 年	八、八	八、八	八、九	八、九	九、三	九、三	九、四	九、四	無	無	無	無	一、三	一、三	一、三	一、三	一、三	一、三	一、三	一、三	一、三	一、三	一、三	一、三	一、三	一、三	
走 坊 主 二 號	昭 和 十 三 年	八、八	八、八	八、九	八、九	九、三	九、三	九、四	九、四	無	無	無	無	一、三	一、三	一、三	一、三	一、三	一、三	一、三	一、三	一、三	一、三	一、三	一、三	一、三	一、三	
走 坊 主 二 號	昭 和 十 三 年	八、八	八、八	八、九	八、九	九、三	九、三	九、四	九、四	無	無	無	無	一、三	一、三	一、三	一、三	一、三	一、三	一、三	一、三	一、三	一、三	一、三	一、三	一、三	一、三	
走 坊 主 二 號	昭 和 十 三 年	八、八	八、八	八、九	八、九	九、三	九、三	九、四	九、四	無	無	無	無	一、三	一、三	一、三	一、三	一、三	一、三	一、三	一、三	一、三	一、三	一、三	一、三	一、三	一、三	

備考 (1) 陌當施肥量は堆肥七、五〇〇疋、魚粕三七五疋、過燐酸石灰一八七疋、硫酸加里七五疋なり。
 (2) 播種期は昭和十一年の五月十七日、その他は五月十六日なり。
 (3) 坪當株數竝に一株播種粒數は七二株二〇粒内外播なり。

三 道内各地に於ける試作成績

(一) 上川支廳管内に於ける試作成績

(二) 中央部地方

試 験 地	品 種 名	試 験 年 次	出 穂		出 穂 日 数		成 熟 日 数		稈 長		穗 長		穗 數		品 質		反 當 收 量		摘 要
			期	日	期	日	本	本	本	本	本	本	本	本	本	本	本		
石狩國上川郡 永山村六丁目	水稻農林十五號	昭和十三年	七、三	七、三	八、三	八、三	八、三	八、三	一、三	一、三	一、三	一、三	一、三	一、三	一、三	一、三	一、三	一、三	
石狩國上川郡 永山村八丁目	水稻農林十五號	昭和十四年	七、三	七、三	八、三	八、三	八、三	八、三	一、三	一、三	一、三	一、三	一、三	一、三	一、三	一、三	一、三	一、三	
石狩國上川郡 東農村字近文十線二十一號	水稻農林十五號	昭和十二年	七、三	七、三	八、三	八、三	八、三	八、三	一、三	一、三	一、三	一、三	一、三	一、三	一、三	一、三	一、三	一、三	雀害〇・五割
石狩國上川郡 樂村字千代ヶ岡(聖台土功地)	水稻農林十五號	昭和十四年	八、一	八、一	九、一	九、一	九、一	九、一	一、三	一、三	一、三	一、三	一、三	一、三	一、三	一、三	一、三	一、三	
鷹栖國上川郡 鷹栖村字近文二十二線十一號	水稻農林十五號	自昭和十三年至同十四年平均	八、三	八、三	九、二	九、二	九、二	九、二	一、三	一、三	一、三	一、三	一、三	一、三	一、三	一、三	一、三	一、三	
石狩國上川郡 上江別村別字	水稻農林十五號	自昭和十三年至同十四年平均	七、三	七、三	八、二	八、二	八、二	八、二	一、三	一、三	一、三	一、三	一、三	一、三	一、三	一、三	一、三	一、三	
石狩國上川郡 東川村東七番地	水稻農林十五號	自昭和十三年至同十四年平均	八、二	八、二	九、二	九、二	九、二	九、二	一、三	一、三	一、三	一、三	一、三	一、三	一、三	一、三	一、三	一、三	
北十二番地	走坊主二號	二箇年平均	八、二	八、二	九、二	九、二	九、二	九、二	一、三	一、三	一、三	一、三	一、三	一、三	一、三	一、三	一、三	一、三	

石狩國上川郡上川村字ルベシベ三十四線二十番地	水稲農林十五號 走坊主二號	自昭和十一年 至同十三年 三箇年平均	八、三 九、九 五、九 一、三六 三、上 下	八、三 九、九 五、九 一、三六 三、上 下	一、二二五 九、〇 一、〇〇〇 九、〇 一、〇〇〇 二、〇〇〇	一、二二五 九、〇 一、〇〇〇 九、〇 一、〇〇〇 二、〇〇〇	二、三三 二、六 二、〇 二、〇 二、〇 二、〇	摘要
石狩國空知郡東山村字西達布	水稲農林十五號 走坊主二號	自昭和十二年 至同十四年 三箇年平均	八、六 九、四 五、四 一、三〇 三、上 下	八、六 九、四 五、四 一、三〇 三、上 下	一、四〇三 一、三三六 一、〇〇〇 九、八 一、〇〇〇 二、〇〇〇	一、四〇三 一、三三六 一、〇〇〇 九、八 一、〇〇〇 二、〇〇〇	二、八四 二、〇 二、〇 二、〇 二、〇 二、〇	摘要

(二) 北部地方 (通稱宗谷線地方)

天鹽國上川郡下川村字二十二線	水稲農林十五號 走坊主二號	自昭和十二年 至同十四年 三箇年平均	八、三 九、九 五、九 一、三六 三、上 下	八、三 九、九 五、九 一、三六 三、上 下	一、五三八 一、六九 一、六九 一、三六 一、〇〇〇 一、〇〇〇	一、五三八 一、六九 一、六九 一、三六 一、〇〇〇 一、〇〇〇	一、〇〇 一、〇〇 一、〇〇 一、〇〇 一、〇〇 一、〇〇	摘要
天鹽國上川郡上別村字奧上別	水稲農林十五號 走坊主二號	昭和十二年	七、二 九、二 五、二 一、三三 三、上 下	七、二 九、二 五、二 一、三三 三、上 下	一、四三六 一、三〇 一、三〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇	一、四三六 一、三〇 一、三〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇	一、〇〇 一、〇〇 一、〇〇 一、〇〇 一、〇〇 一、〇〇	摘要
天鹽國上川郡上別村字上士別	水稲農林十五號 走坊主二號	自昭和十三年 至同十四年 二箇年平均	七、七 九、九 五、九 一、三六 三、上 下	七、七 九、九 五、九 一、三六 三、上 下	一、四〇四 一、三〇 一、三〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇	一、四〇四 一、三〇 一、三〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇	一、〇〇 一、〇〇 一、〇〇 一、〇〇 一、〇〇 一、〇〇	摘要
天鹽國上川郡東六十一番地	水稲農林十五號 走坊主二號	昭和十四年	七、九 九、七 五、七 一、三六 三、上 下	七、九 九、七 五、七 一、三六 三、上 下	一、五〇〇 一、三〇 一、三〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇	一、五〇〇 一、三〇 一、三〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇	一、〇〇 一、〇〇 一、〇〇 一、〇〇 一、〇〇 一、〇〇	摘要
天鹽國上川郡名寄町字六線	水稲農林十五號 走坊主二號	昭和十二年及 十三年 二箇年平均	七、〇 九、二 五、五 一、三六 三、上 下	七、〇 九、二 五、五 一、三六 三、上 下	一、四九六 一、三〇 一、三〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇	一、四九六 一、三〇 一、三〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇	一、〇〇 一、〇〇 一、〇〇 一、〇〇 一、〇〇 一、〇〇	摘要

天鹽國中川郡美深町字十七線	水稲農林十五號 走坊主二號	同	七、三 九、三 五、八 一、三九 三、上 下	七、三 九、三 五、八 一、三九 三、上 下	一、四〇四 一、三〇 一、三〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇	一、四〇四 一、三〇 一、三〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇	一、〇〇 一、〇〇 一、〇〇 一、〇〇 一、〇〇 一、〇〇	摘要
天鹽國中川郡美深町字四線	水稲農林十五號 走坊主二號	同	七、二 九、三 五、八 一、三九 三、上 下	七、二 九、三 五、八 一、三九 三、上 下	一、四〇四 一、三〇 一、三〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇	一、四〇四 一、三〇 一、三〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇	一、〇〇 一、〇〇 一、〇〇 一、〇〇 一、〇〇 一、〇〇	摘要

留萌支廳管内に於ける試作成績

天鹽國上川郡天鹽町字南更岸	水稲農林十五號 走坊主二號	自昭和十二年 至同十四年 三箇年平均	八、六 九、九 五、五 一、三五 三、上 下	八、六 九、九 五、五 一、三五 三、上 下	一、二二七 一、〇〇 一、〇〇 一、〇〇 一、〇〇 一、〇〇	一、二二七 一、〇〇 一、〇〇 一、〇〇 一、〇〇 一、〇〇	一、〇〇 一、〇〇 一、〇〇 一、〇〇 一、〇〇 一、〇〇	摘要
天鹽國天鹽郡遠別村原野九號	水稲農林十五號 走坊主二號	自昭和十一年 至同十四年 四箇年平均	八、五 九、七 五、七 一、三七 三、上 下	八、五 九、七 五、七 一、三七 三、上 下	一、二二二 一、〇〇 一、〇〇 一、〇〇 一、〇〇 一、〇〇	一、二二二 一、〇〇 一、〇〇 一、〇〇 一、〇〇 一、〇〇	一、〇〇 一、〇〇 一、〇〇 一、〇〇 一、〇〇 一、〇〇	摘要
天鹽國苦前郡羽幌町字朝日	水稲農林十五號 走坊主二號	自昭和十三年 至同十四年 二箇年平均	八、四 九、四 五、四 一、三五 三、上 下	八、四 九、四 五、四 一、三五 三、上 下	一、一六四 一、〇〇 一、〇〇 一、〇〇 一、〇〇 一、〇〇	一、一六四 一、〇〇 一、〇〇 一、〇〇 一、〇〇 一、〇〇	一、〇〇 一、〇〇 一、〇〇 一、〇〇 一、〇〇 一、〇〇	摘要
天鹽國苦前郡羽幌町字築別	水稲農林十五號 走坊主二號	昭和十二年	八、二 九、四 五、四 一、三五 三、上 下	八、二 九、四 五、四 一、三五 三、上 下	一、〇七三 一、〇〇 一、〇〇 一、〇〇 一、〇〇 一、〇〇	一、〇七三 一、〇〇 一、〇〇 一、〇〇 一、〇〇 一、〇〇	一、〇〇 一、〇〇 一、〇〇 一、〇〇 一、〇〇 一、〇〇	摘要

三 網走支廳管内に於ける試作成績

試験地	品 種 名	試験年次	出穂期	成熟期	稈長	穂長	穂數	反當收量	摘 要
北見國紋別郡 瀧ノ上村第二區	水稻農林十五號	自昭和十二年 至同十四年 三箇年平均	八月一日	九月八日	六九	一四・五	三三	一三六・三 一〇九・九 一〇九・九	同上
北見國紋別郡 東二線別村	水稻農林十五號	昭和十四年	八月二日	九月二日	六六	一四・五	三三	一三六・三 一〇九・九 一〇九・九	同上
北見國常呂郡留 邊藥町字東武華	水稻農林十五號	自昭和十二年 至同十四年 三箇年平均	八月六日	九月八日	七〇	一三・八	三三	一四〇・六 一三三・七 一三〇・五	同上
北見國網走郡美 幌町原野第九區	水稻農林十五號	昭和十二年	八月二日	九月二日	六八	一四・三	三三	一四〇・六 一三三・七 一三〇・五	同上
十勝國上川郡 新得町字風足	水稻農林十五號	自昭和十二年 至同十三年 二箇年平均	八月二日	九月六日	六六	一四・四	三三	一四〇・六 一三三・七 一三〇・五	同上
十勝國中川郡 豐頃村字 下ノヤウシ	水稻農林十五號	昭和十三年	八月四日	九月四日	六六	一三・九	三三	一三三・〇 一〇九・九 一〇九・九	同上

五 釧路國支廳管内に於ける試作成績

試験地	品 種 名	試験年次	出穂期	成熟期	稈長	穂長	穂數	反當收量	摘 要
十勝國河東郡 鹿追村字 クアクウシ	水稻農林十五號	昭和十二年	七月二八日	九月八日	六五	一七・〇	三三	一三三・四 一二二・一	同上
釧路國阿寒郡 阿寒村二十四線 四十五番地	水稻農林十五號	自昭和十三年 至同十四年 二箇年平均	八月二日	九月二日	六六	一四・四	三三	一四〇・六 一三三・七 一三〇・五	同上

六 日高支廳管内に於ける試作成績

試験地	品 種 名	試験年次	出穂期	成熟期	稈長	穂長	穂數	反當收量	摘 要
日高國沙流郡 右左府第三區	水稻農林十五號	自昭和十二年 至同十三年 二箇年平均	八月二日	九月二日	六六	一四・四	三三	一四〇・六 一三三・七 一三〇・五	同上
日高國機似郡 機似村字二七	水稻農林十五號	自昭和十二年 至同十三年 二箇年平均	八月二日	九月二日	六六	一四・四	三三	一四〇・六 一三三・七 一三〇・五	同上

七 膽振支廳管内に於ける試作成績

試験地	品 種 名	試験年次	出穂期	成熟期	稈長	穂長	穂數	反當收量	摘 要
膽振國勇拂郡 川村字クナシロ	水稻農林十五號	昭和十三年	八月六日	九月八日	六六	一三・七	三三	一三三・〇 一〇九・九 一〇九・九	同上

八 空知支廳管内に於ける試作成績

鶴川村字井目戸	水稲農林十五號	昭和十二年	八、二	九、三	七、三	一、二	三、三	一、八	七、七	六三〇	一〇〇	摘	要
水稲農林十五號	走坊主二號	昭和十二年	八、二	九、三	七、三	一、二	三、三	一、八	七、七	六三〇	一〇〇	摘	要
石狩國雨龍郡	品	試驗年次	出穗	成熟	稈長	穗長	穗數	反當收量	摘	要			
沼田村字×ツツ	水稲農林十五號	昭和十三年	八、九	九、九	七、三	一、六	三、五	一、八	七、八	一〇〇	一〇〇	摘	要
走坊主二號	水稲農林十五號	昭和十三年	八、九	九、九	七、三	一、六	三、五	一、八	七、八	一〇〇	一〇〇	摘	要
北龍村字惠倍別	水稲農林十五號	昭和十四年	八、一	九、二	六、五	一、一	三、三	一、七	八、九	一〇〇	一〇〇	摘	要
走坊主二號	水稲農林十五號	昭和十四年	八、一	九、二	六、五	一、一	三、三	一、七	八、九	一〇〇	一〇〇	摘	要
石狩國雨龍郡	品	試驗年次	出穗	成熟	稈長	穗長	穗數	反當收量	摘	要			
幌加内村	水稲農林十五號	昭和十四年	八、三	九、七	六、四	一、一	三、四	一、七	九、〇	一〇〇	一〇〇	摘	要
走坊主二號	水稲農林十五號	昭和十四年	八、三	九、七	六、四	一、一	三、四	一、七	九、〇	一〇〇	一〇〇	摘	要
秩父別龍村	水稲農林十五號	昭和十三年	八、二	九、三	七、一	一、二	三、六	一、八	八、〇	一〇〇	一〇〇	摘	要
走坊主二號	水稲農林十五號	昭和十三年	八、二	九、三	七、一	一、二	三、六	一、八	八、〇	一〇〇	一〇〇	摘	要
石狩國雨龍郡	品	試驗年次	出穗	成熟	稈長	穗長	穗數	反當收量	摘	要			
雨龍	水稲農林十五號	昭和十二年	八、二	九、九	六、三	一、五	三、七	一、七	八、七	一〇〇	一〇〇	摘	要
走坊主二號	水稲農林十五號	昭和十二年	八、二	九、九	六、三	一、五	三、七	一、七	八、七	一〇〇	一〇〇	摘	要
石狩國樺戸郡	品	試驗年次	出穗	成熟	稈長	穗長	穗數	反當收量	摘	要			
月形村字札比内	水稲農林十五號	昭和十四年	八、三	九、二	六、四	一、一	三、四	一、七	九、〇	一〇〇	一〇〇	摘	要
走坊主二號	水稲農林十五號	昭和十四年	八、三	九、二	六、四	一、一	三、四	一、七	九、〇	一〇〇	一〇〇	摘	要
石狩國樺戸郡	品	試驗年次	出穗	成熟	稈長	穗長	穗數	反當收量	摘	要			
十津川村字日進	水稲農林十五號	昭和十三年	八、五	九、六	六、五	一、三	三、七	一、七	八、七	一〇〇	一〇〇	摘	要
走坊主二號	水稲農林十五號	昭和十三年	八、五	九、六	六、五	一、三	三、七	一、七	八、七	一〇〇	一〇〇	摘	要

九 後志支廳管内に於ける試作成績

石狩國樺戸郡	品	試驗年次	出穗	成熟	稈長	穗長	穗數	反當收量	摘	要			
新十津川村	水稲農林十五號	昭和十二年	八、八	九、六	六、四	一、一	三、六	一、八	八、七	一〇〇	一〇〇	摘	要
走坊主二號	水稲農林十五號	昭和十二年	八、八	九、六	六、四	一、一	三、六	一、八	八、七	一〇〇	一〇〇	摘	要
石狩國樺戸郡	品	試驗年次	出穗	成熟	稈長	穗長	穗數	反當收量	摘	要			
新十津川村	水稲農林十五號	昭和十四年	八、八	九、四	六、四	一、一	三、六	一、八	八、九	一〇〇	一〇〇	摘	要
走坊主二號	水稲農林十五號	昭和十四年	八、八	九、四	六、四	一、一	三、六	一、八	八、九	一〇〇	一〇〇	摘	要
石狩國樺戸郡	品	試驗年次	出穗	成熟	稈長	穗長	穗數	反當收量	摘	要			
音江村字内大部	水稲農林十五號	昭和十四年	八、二	九、二	六、四	一、一	三、七	一、八	九、〇	一〇〇	一〇〇	摘	要
走坊主二號	水稲農林十五號	昭和十四年	八、二	九、二	六、四	一、一	三、七	一、八	九、〇	一〇〇	一〇〇	摘	要
石狩國空知郡	品	試驗年次	出穗	成熟	稈長	穗長	穗數	反當收量	摘	要			
芦別村字三又	水稲農林十五號	昭和十二年	八、四	九、八	六、四	一、一	三、八	一、九	九、一	一〇〇	一〇〇	摘	要
走坊主二號	水稲農林十五號	昭和十二年	八、四	九、八	六、四	一、一	三、八	一、九	九、一	一〇〇	一〇〇	摘	要
石狩國空知郡	品	試驗年次	出穗	成熟	稈長	穗長	穗數	反當收量	摘	要			
芦別村字下吉別	水稲農林十五號	昭和十四年	八、三	九、六	六、四	一、一	三、八	一、九	九、一	一〇〇	一〇〇	摘	要
走坊主二號	水稲農林十五號	昭和十四年	八、三	九、六	六、四	一、一	三、八	一、九	九、一	一〇〇	一〇〇	摘	要
石狩國空知郡	品	試驗年次	出穗	成熟	稈長	穗長	穗數	反當收量	摘	要			
熱志國歌東郡	水稲農林十五號	昭和十三年	八、八	九、三	六、四	一、一	三、八	一、九	九、一	一〇〇	一〇〇	摘	要
走坊主二號	水稲農林十五號	昭和十三年	八、八	九、三	六、四	一、一	三、八	一、九	九、一	一〇〇	一〇〇	摘	要
後志國歌東郡	品	試驗年次	出穗	成熟	稈長	穗長	穗數	反當收量	摘	要			
熱志國白井川	水稲農林十五號	昭和十三年	八、八	九、三	六、四	一、一	三、八	一、九	九、一	一〇〇	一〇〇	摘	要
走坊主二號	水稲農林十五號	昭和十三年	八、八	九、三	六、四	一、一	三、八	一、九	九、一	一〇〇	一〇〇	摘	要
石狩國虻田郡	品	試驗年次	出穗	成熟	稈長	穗長	穗數	反當收量	摘	要			
太村字富士見町	水稲農林十五號	昭和十三年	八、八	九、三	六、四	一、一	三、八	一、九	九、一	一〇〇	一〇〇	摘	要
走坊主二號	水稲農林十五號	昭和十三年	八、八	九、三	六、四	一、一	三、八	一、九	九、一	一〇〇	一〇〇	摘	要

三 水稻「福糯」に関する試験成績

本品種は本場に於て昭和三年「小川糯」を母とし「松本糯」を父として人工交配を行ひ、雜種第二代より上川支場に於て試験を行ひ育成せるものにして、「榮糯」の獎勵地域及それより稍早熟を要する地方に適する優良品種に決定し、「福糯」と命名せり。

本品種の特性は、出穂期は「山崎糯」或は「榮糯」と大差なきも、成熟期は夫れ等より數日早し。草丈は「榮糯」に類似し稍短稈なり。分蘗は「榮糯」と大差なく中位、莖稈は太く耐肥性に富み「榮糯」よりも強剛にして倒伏の虞少なし。穂は短く粒着密にして短芒を有し、芒及護穎は出穂當時は淡綠色なるも、成熟期には褐色を呈す。稈は褐黃白色なり。随つて成熟期に於ては他品種と容易に識別し得るの便宜あり。玄米收量は「榮糯」より稍少なき傾向あるも、「山崎糯」に比し遙に増收を示せり。玄米は中粒、中形、純白色を呈し、品質は「榮糯」より良好にして精白歩合もそれより稍優り、餅としての質良好にして食味亦良好なり。其の成績左の如し

一 上川支場試験成績

自昭和十一年
至同十四年

Table with columns for variety names (福, 榮, 山, 崎), characteristics (色, 葉, 莖, 稈, etc.), and other metrics. Includes sub-sections like (一) 特性調査 and (二) 生育及收量調査.

(二) 生育及收量調査

自昭和十一年
至同十四年

Table with columns for variety names (福, 榮, 山, 崎) and various agricultural metrics such as maturity dates, yield, and quality.

(三) 耐倒伏性調査

直播 昭和十三年

Table with columns for fertilizer types (標準肥料, 標準三肥料, 標準五肥料) and their effects on rice varieties (福, 榮, 山, 崎), including maturity, yield, and lodging.

標準肥料は
堆肥 七、五三
魚粕 三、三三
硫酸アンモニア 二、二二
硫酸アンモニア 一、九八
硫酸アンモニア 一、八六
硫酸アンモニア 一、七四
硫酸アンモニア 一、六二
硫酸アンモニア 一、五〇
硫酸アンモニア 一、三八
硫酸アンモニア 一、二六
硫酸アンモニア 一、一四
硫酸アンモニア 一、〇二
硫酸アンモニア 八八
硫酸アンモニア 七六
硫酸アンモニア 六四
硫酸アンモニア 五二
硫酸アンモニア 四〇
硫酸アンモニア 二八
硫酸アンモニア 一六
硫酸アンモニア 〇四

(四) 耐肥性調査 直播 昭和十四年

標準七肥料増の	山崎	榮	福
糯糯糯	糯糯糯	糯糯糯	糯糯糯
八月五日	八月五日	八月五日	八月五日
九月八日	九月八日	九月八日	九月八日
八月八日	八月八日	八月八日	八月八日
八二八	八二八	八二八	八二八
一三八	一三八	一三八	一三八
三五本	三五本	三五本	三五本
無多	無多	無多	無多

(五) 播種疎密調査 直播 昭和十三年

標準肥料増の	榮	福	品名	出穂期	成熟期	草丈	穂長	穂數	倒伏	收量	割合	立重量	反當玄米收量
糯糯糯	糯糯糯	糯糯糯	糯糯糯	八月四日	九月七日	八三六	一四一	三六	無	三四七	一〇〇	八二七	九〇四
糯糯糯	糯糯糯	糯糯糯	糯糯糯	八月五日	九月八日	八六三	一四六	三六	中	三四七	一〇〇	八二七	九〇四
糯糯糯	糯糯糯	糯糯糯	糯糯糯	八月六日	九月九日	八八九	一五五	三六	無	三四七	一〇〇	八二七	九〇四
糯糯糯	糯糯糯	糯糯糯	糯糯糯	八月六日	九月九日	八六三	一四六	三六	無	三四七	一〇〇	八二七	九〇四
糯糯糯	糯糯糯	糯糯糯	糯糯糯	八月六日	九月九日	八六三	一四六	三六	無	三四七	一〇〇	八二七	九〇四
糯糯糯	糯糯糯	糯糯糯	糯糯糯	八月六日	九月九日	八六三	一四六	三六	無	三四七	一〇〇	八二七	九〇四
糯糯糯	糯糯糯	糯糯糯	糯糯糯	八月六日	九月九日	八六三	一四六	三六	無	三四七	一〇〇	八二七	九〇四
糯糯糯	糯糯糯	糯糯糯	糯糯糯	八月六日	九月九日	八六三	一四六	三六	無	三四七	一〇〇	八二七	九〇四
糯糯糯	糯糯糯	糯糯糯	糯糯糯	八月六日	九月九日	八六三	一四六	三六	無	三四七	一〇〇	八二七	九〇四
糯糯糯	糯糯糯	糯糯糯	糯糯糯	八月六日	九月九日	八六三	一四六	三六	無	三四七	一〇〇	八二七	九〇四

(六) 精白調査 昭和十四年

品名	株間距離	坪當出穂期	成熟期	草丈	穂長	穂數	收量	割合	立重量	反當玄米收量
糯糯糯	七・五×六・六	六三	八月三日	六八三	一三三	三四本	三八九	一〇〇	八三三	一〇三・九
糯糯糯	七・五×七・五	六三	八月三日	六八三	一三三	三四本	三八九	一〇〇	八三三	一〇三・九
糯糯糯	七・五×六・六	六三	八月三日	六八三	一三三	三四本	三八九	一〇〇	八三三	一〇三・九
糯糯糯	七・五×七・五	六三	八月三日	六八三	一三三	三四本	三八九	一〇〇	八三三	一〇三・九
糯糯糯	七・五×六・六	六三	八月三日	六八三	一三三	三四本	三八九	一〇〇	八三三	一〇三・九
糯糯糯	七・五×七・五	六三	八月三日	六八三	一三三	三四本	三八九	一〇〇	八三三	一〇三・九

(七) 製餅調査 昭和十四年

(イ) 搗餅調査

品名	升重量	等級	供試量	歩合	精米機	白米	檢査
糯糯糯	三九二	二等	二〇〇〇	九〇五	〇〇九	〇〇五	清水式無砂精米機により昭和十三年度の一等を標準として精白せり
糯糯糯	三九二	二等	二〇〇〇	九〇五	〇〇九	〇〇五	二耗の篩を通りたるものは碎米とせり
糯糯糯	三九二	二等	二〇〇〇	九〇五	〇〇九	〇〇五	
糯糯糯	三九二	二等	二〇〇〇	九〇五	〇〇九	〇〇五	
糯糯糯	三九二	二等	二〇〇〇	九〇五	〇〇九	〇〇五	
糯糯糯	三九二	二等	二〇〇〇	九〇五	〇〇九	〇〇五	

(ロ) 餅質調査

品名	供試量	白米一升重量	供試重(〇〇に對する)	練數	杵數	摘
糯糯糯	九五〇	三八三	一〇九	一一三	一五二	二〇〇
糯糯糯	九五〇	三八三	一〇九	一一三	一五二	二〇〇
糯糯糯	九五〇	三八三	一〇九	一一三	一五二	二〇〇
糯糯糯	九五〇	三八三	一〇九	一一三	一五二	二〇〇
糯糯糯	九五〇	三八三	一〇九	一一三	一五二	二〇〇
糯糯糯	九五〇	三八三	一〇九	一一三	一五二	二〇〇

(ハ) 餅質調査

品名	硬化の早晚	色澤	光澤	粗密	粘着	難煮	易溶	長伸	食味
糯糯糯	早	暗鈍白	中	中	同	同	同	同	同
糯糯糯	早	暗鈍白	中	中	同	同	同	同	同
糯糯糯	早	暗鈍白	中	中	同	同	同	同	同
糯糯糯	早	暗鈍白	中	中	同	同	同	同	同
糯糯糯	早	暗鈍白	中	中	同	同	同	同	同
糯糯糯	早	暗鈍白	中	中	同	同	同	同	同

二 各地の農事試験機關に於ける試験成績

上川支廳								試驗施行箇所
永山村(一)	永山村(二)	東鷹栖村	神樂村	東旭川村	比布村	愛別村	神居村	
福榮	福榮	福榮	福榮	福榮	福榮	福榮	福榮	品名
福榮	福榮	福榮	福榮	福榮	福榮	福榮	福榮	出穂期
八・三	八・四	八・五	八・五	八・七	八・四	八・三	八・三	成熟期
八・三	八・三	八・三	八・三	八・三	八・三	八・三	八・三	草丈
八・三	八・三	八・三	八・三	八・三	八・三	八・三	八・三	穂長
八・三	八・三	八・三	八・三	八・三	八・三	八・三	八・三	穂數
八・三	八・三	八・三	八・三	八・三	八・三	八・三	八・三	米當玄米量
八・三	八・三	八・三	八・三	八・三	八・三	八・三	八・三	割合量
八・三	八・三	八・三	八・三	八・三	八・三	八・三	八・三	玄米一立重量
八・三	八・三	八・三	八・三	八・三	八・三	八・三	八・三	品質
八・三	八・三	八・三	八・三	八・三	八・三	八・三	八・三	反當玄米收量

三 各地に於ける委託試驗成績

昭和十四年

美深試作場	日高試作場	瀨棚試作場	北見支場		北海道農事(本場)		試驗機關名
			福榮	榮一	福榮	榮一	
福榮	福榮	福榮	福榮	福榮	福榮	福榮	品名
八・一〇	八・一六	八・二二	八・三三	八・三三	八・六六	八・六六	出穂期
九・二五	九・三三	九・三三	九・二二	九・二二	九・四四	九・四四	成熟期
一〇・一〇	一〇・一〇	一〇・一〇	一〇・一〇	一〇・一〇	一〇・一〇	一〇・一〇	草丈
一八・七	一八・七	一八・七	一八・七	一八・七	一八・七	一八・七	穂長
一六	一六	一六	一六	一六	一六	一六	穂數
無	無	無	無	無	無	無	倒伏
昭和三十四年	昭和三十四年	昭和三十四年	昭和三十四年	昭和三十四年	昭和三十四年	昭和三十四年	同當玄米收量
四七・三	四七・三	四七・三	四七・三	四七・三	四七・三	四七・三	平均
一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	割合量
五〇・八	五〇・八	五〇・八	五〇・八	五〇・八	五〇・八	五〇・八	米當玄米量
四七・三	四七・三	四七・三	四七・三	四七・三	四七・三	四七・三	割合量
一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	玄米一立重量
七九・八	七九・八	七九・八	七九・八	七九・八	七九・八	七九・八	品質
一四・四	一四・四	一四・四	一四・四	一四・四	一四・四	一四・四	反當玄米收量
同	同	同	同	同	同	同	摘要

支			知			空					
月形村	雨龍村	砂川町	北龍村	芦別村	音江村	福榮糯	改其糯一號	福榮糯	改其糯一號	福榮糯	改其糯一號
八三五	八二九	八二〇	八二九	八二二	八二二	八二九	八二二	八二九	八二二	八二九	八二二
九一〇	九二二	九二〇	九二二	九二二	九二二	九二二	九二二	九二二	九二二	九二二	九二二
八四八	七七三	七六九	八七九	八八八	八八八	八八八	八八八	八八八	八八八	八八八	八八八
一三六	一五五	一五六	一五六	一五六	一五六	一五六	一五六	一五六	一五六	一五六	一五六
三〇	三七	三八	三三	三四	三五	三三	三四	三五	三三	三四	三五
二四九五	二九八三	三、五四	二、七三	二、七五	二、七五	二、七三	二、七五	二、七五	二、七三	二、七五	二、七五
九七	一六	一〇〇	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一
七八	七八	七五三	八二	八三	八三	八二	八三	八三	八二	八三	八三
一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇
六六〇	七六九	六七八	七〇〇	七〇〇	七〇〇	七〇〇	七〇〇	七〇〇	七〇〇	七〇〇	七〇〇

内管廳支萌留			内管				
新十津川村	羽幌町	苦前村	小平藥村	美瑛村(二)	美瑛村(一)	中富良野村	富良野町
八三八	八二七	八二七	八二七	八二七	八二七	八二七	八二七
九二二	九二二	九二二	九二二	九二二	九二二	九二二	九二二
八三八	八二七	八二七	八二七	八二七	八二七	八二七	八二七
一三六	一五六	一五六	一五六	一五六	一五六	一五六	一五六
三〇	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三
二四九五	二、九七	二、九七	二、九七	二、九七	二、九七	二、九七	二、九七
九七	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇
七八	七八	七八	七八	七八	七八	七八	七八
一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇
六六〇	七六九	七六九	七六九	七六九	七六九	七六九	七六九

内 管 支 山 榑			内 管 支 狩 石		
利 別 村	東 瀬 棚 村	山 崎 村	厚 田 村	惠 庭 村	常 別 村
福 榮 山 福 榮 山 福 榮 山	福 榮 山 福 榮 山 福 榮 山	福 榮 山 福 榮 山 福 榮 山	福 榮 改 福 榮 改 福 榮 改	福 榮 改 福 榮 改 福 榮 改	福 榮 改 福 榮 改 福 榮 改
八二二 八二五 八二二	八二五 八二五 八二六	八二五 八二五 八二六	八二五 八二三 八二五	八二四 八二四 八二四	八二六 八二六 八二六
九三〇 九二九 九二二	九二五 九二四 九二五	九二五 九二四 九二五	九三三 九三二 九三〇	九三三 九三三 九三〇	九三〇 九三〇 九三〇
八四三 九二一 九六四	一〇三三 九八七 一〇四六	一〇三三 九八七 一〇四六	九三一 八八四 九三一	八〇三 七六九 七四三	八一八 八三三 八一八
三三四 二二五 一九五	一七五 一八五 一九五	一七五 一八五 一九五	一六二 一七〇 一七〇	一五八 一五八 一四五	一五二 一五八 一五三
一七 一八 三三	一六 一五 一六	一六 一五 一六	一四 一三 一九	一九 一八 三三	三〇 三〇 三〇
三二七 三四七 三四三	四三〇 四二二 三九九	四三〇 四二二 三九九	四二五 四二二 四二二	三六六 三六六 三六六	四〇八 四〇七 四〇八
一〇八 一四 一〇〇	一〇九 一二五 一〇〇	一〇九 一二五 一〇〇	九三 一〇三 一〇〇	一〇三 一〇三 一〇〇	一〇四 一〇三 一〇〇
八六三 八六三 八五三	八三四 八〇七 八二三	八三四 八〇七 八二三	四七八 四七八 四九八		
二の上 同 三の上	二の中 三の上 二の下	二の中 三の上 二の下			
八六六 九二一 八〇三	一四〇 二九三 一〇四	一四〇 二九三 一〇四	一〇〇 二二〇 一〇〇	九七五 九七五 九四三	一〇八〇 一一一〇 一〇八〇

内 管 支					
岩 見 澤 町 (二)	岩 見 澤 町 (一)	角 田 村 (二)	角 田 村 (一)	幌 向 村 (二)	幌 向 村 (一)
福 榮 改 福 榮 改 福 榮 改	福 榮 改 福 榮 改 福 榮 改	福 榮 改 福 榮 改 福 榮 改	福 榮 改 福 榮 改 福 榮 改	福 榮 改 福 榮 改 福 榮 改	福 榮 改 福 榮 改 福 榮 改
	八二八 八二九 八二九	八二二 八二二 八二二	八二二 八二二 八二二	八二四 八二四 八二四	八二四 八二四 八二四
九三三 九三三 九三三	九二四 九二六 九二四	九二六 九二七 九二七	九二六 九二七 九二七	九三三 九三三 九三三	九三三 九三三 九三三
八九七 八二一 八四三	八九一 九一八 九四三	八三三 八七九 八三三	八三三 八七九 八三三	八八八 八六一 九一八	九七〇 九七〇 九三九
		一五八 一六一 一五八	一五八 一六一 一五八	一七〇 一六七 一六八	一七〇 一五八 一五二
三四 三三 三四	一四 一七 三四	二二 二二 二二	二二 二二 二二	一七 一六 二五	三五 三五 三七
四〇九 三六四 三六四	三二七 三六〇 三二七	二四四 三〇七 二四四	二四四 三〇七 二四四	三六三 三七七 三六三	四二六 四二五 三九五
一六 一〇四 一〇〇	一〇三 一〇四 一〇〇	九三 一〇七 一〇〇	九三 一〇七 一〇〇	一一二 一一五 一〇〇	一四 一九 一〇〇
八四四 八二六 八三三	七九〇 七九〇 七九三	八〇〇 八二二 八三三	八〇〇 八二二 八三三	七六二 七六二 八〇七	八二三 七九九 七九五
三の上 同 三の中				同 三の中 四の上	三の中 三の下 三の中
一八 九六 九三〇	八六七 九三〇 八六七	六三〇 八二六 六三〇	六三〇 八二六 六三〇	六六六 九〇四 六六六	九二七 九二七 九二七

(四) 水稻「水稻遠野一號」に関する試験成績

本品種は岩手縣立農事試験場遠野試驗地(農林省指定凶作防止試驗地の一)の新品種育成試驗供試材料として、昭和十年三月渡島支場より「渡育三十號」(母×「龜の尾」)「渡島錦」の系統名)なる系統名の下に雜種第八代種子を配付せるものを同試驗地に於て更に選抜固定し、比較的晩生にして耐病性強き系統として昭和十二年「遠系二號」なる新系統名を付し、昭和十四年四月更に之を「水稻遠野一號」と命名せるものなり。

渡島支場に於て昭和十四年に遠野試驗地より本品種の種子を取寄せ「渡島錦」と比較試験せるに、「水稻遠野一號」と「渡島錦」は形態極めて近似し、收量亦殆ど差異なきのみならず、出穂並に成熟期、稻熱病に對する耐病性、冷水抵抗性等の生理的特性も極めて類似し、兩者間に判然たる差異を認め難かりき。其の成績左の如し

(一) 特性調査 渡島支場試験成績 昭和十四年

Table with columns for rice variety (品名), shape (形状), length (長短), color (色), grain characteristics (粒の細太, 剛柔), and yield (玄米, 米). Rows compare '渡島錦' and '水稻遠野一號'.

(二) 生育並に收量調査

Table with columns for region (區別), variety (品名), sowing date (出穂期), maturity (成熟期), straw height (草丈), panicle length (穗長), panicle number (穗數), lodging (倒伏), heat tolerance (稻熱病), grain weight (米重量), and yield (反當玄米收量).

(三) 畑地栽培に依る稻熱病檢定試験

Table showing experimental results for heat tolerance in field cultivation, comparing '同右多肥' and '同右少肥' treatments across different rice varieties.

Table with columns for variety (品名), sowing date (出穂期), and disease resistance (病). Rows list '渡島錦', '水稻遠野一號', and '萬太郎米'.

- 備考 一 播種期 五月十日、五月二十五日、六月十五日の三種とす。
二 播種量 五月十日及同月二十五日播區は三・三平方米當四四瓦、六月十五日播區は三・三平方米當五〇瓦の割とす。
三 播種法 畦幅三〇糎、播幅二糎、條播とす。
四 施肥法及施肥量
イ 基肥は三・三平方米當硫酸アンモニア九三・五瓦、普通過磷酸石灰一四〇・八瓦、硫酸加里五六・一瓦を條條に施用す。

- 口 追肥は七月二十八日硫酸アンモニア三・三平方米當九三・五瓦を水に溶解し施用す。
- 五 五月十日播及同月二十五日播は穂頸稻熱病の檢定、六月十五日播は葉稻熱病の檢定に恰適せり。
- 六 標準品種並に病原品種の配置 標準品種「南光」及病原品種「渡育一〇〇號」を各區毎に配置す。

(四) 冷水抵抗性檢定試驗

品 種 名	出 穂 期		一 株 全 重 量		一 株 穂 重 量		平 均 一 穂 重 量		一 穂 重 量 步 合	
	標準區	第一區	標準區	第一區	標準區	第一區	標準區	第一區	標準區	第一區
渡 島 錦	八月四日	八月三日	三・三	三・八	七・七	七・七	〇・五	〇・五	四九	七四
水 稻 遠 野 一 號	八月五日	八月三日	三・九	三・九	七・七	七・七	〇・八	〇・八	四七	八七
萬 太 耶 米	八月四日	八月三日	三・九	三・九	八・三	四・三	〇・六	〇・六	四七	八六
品 種 名	長		長		數		親 穂 重 量		親 穂 不 稔 步 合	
波 島 錦	標準區	第一區	標準區	第一區	標準區	第一區	標準區	第一區	標準區	第一區
水 稻 遠 野 一 號	八・七	八・五	八・七	八・五	八・〇	八・〇	一・七	一・七	一・三	一・三
萬 太 耶 米	八・六	八・四	八・七	八・五	八・〇	八・〇	一・七	一・七	一・三	一・三

備考 一 一〇個體の平均値を以て示す。

二 標準區は標準灌溉區、第一區は冷水灌溉水尻區、第二區は冷水灌溉水口區。

三 冷水灌溉期間は七月五日乃至八月二十九日、毎日日中のみ冷水掛流しを行ふ。

四 冷水灌溉期間に於ける平均水温(午前十時觀測)左の如し

標準區 平均最高水温三一・七度 平均最低水温二一・七度

第一區 同 右 二五・三度 同 右 一八・七度

第二區 同 右 二一・八度 同 右 一五・九度

五 栽植 二六糶×一五糶、一本植。

六 施肥量 標準施肥量の一割減。

(五) 水稻品種選抜試驗成績

日高試作場に於ける水稻品種選抜試驗の成績に據れば、梗種にありては「富國」及「北光」は在來の「坊主五號」に比し收量品質共に優るも、就中「富國」優れり。又「早生富國」も在來の「坊主六號」に比し收量品質共に優るを認めたり。是等三品種は熟期に於て右在來の品種と大差なく當地方の適品種と認めたり。糯種に於ては「榮精」は在來の「改良糯一號」に比し收量は稍少なきも大差なく品質良好にして當地方に適するを認めたり。尙「中生白毛一號」は平均收量に於て最も優りたれども、熟期晩きに過ぎ青米多く、當地方の栽培には適當ならず。其の成績左の如し

日高試作場試驗成績

自昭和十年 至同 十四年

試 驗 區 別	出 穂 期	成 熟 期	草 丈	莖 數	歩 合 摺	隔 年 當 米 收 量				平 均	割 收 合 量
						昭和十年	十一年	十二年	十三年		
坊 主 五 號	八月九日	九月九日	八九	一六	七八〇	一一九三	二〇五三	三二六三	二八五四	二四四〇	一〇〇
富 國	八月六日	九月九日	七九	一七	八〇七	一一六九	二二八三	三三〇六	三三〇六	二九六九	一一三
上 育 九 九 號	八月二日	九月三日	八四	一四	七八七	一一〇〇	二二八三	三三〇六	三三〇六	二九六九	一一一
上 育 一〇〇 號	八月二日	九月三日	八六	一四	七八七	一一〇〇	二二八三	三三〇六	三三〇六	二九六九	一一〇
上 育 B 二 號	八月五日	九月二日	八三	一七	八・三	一一〇〇	二二八三	三三〇六	三三〇六	二九六九	一一三
上 育 B 五 號	八月八日	九月二日	八三	一七	八・三	一一〇〇	二二八三	三三〇六	三三〇六	二九六九	一一三
早 生 富 國	八月八日	九月二日	八三	一七	八・三	一一〇〇	二二八三	三三〇六	三三〇六	二九六九	一一〇
北 光	八月二日	九月二日	七九	一六	七九五	一一〇〇	二二八三	三三〇六	三三〇六	二九六九	一一〇
中 生 白 毛 一 號	八月五日	九月三日	九八	一一	七九六	一一〇〇	二二八三	三三〇六	三三〇六	二九六九	一三〇

試験區別	平均 稈重 量	玄米一立 重量	玄米一〇〇〇粒 重量	品 質	平均 反當 玄米 收量
坊主六號	八月七日 九月三日	八六四 一五本	七五八 七五八	二〇八三 二七一九	二四八九 二五三〇
榮主六號	八月八日 九月二日	七七七 一五本	七九〇 七五八	二〇八三 二七一九	二四八九 二五三〇
改其橋一號	八月二日 九月三日	七九七 一四	七九〇 七九〇	二二四九 三二二七	二四七五 二五三〇
山崎橋	八月五日 九月四日	八二 一四	七九〇 七九〇	二二三四 二五四六	二四七五 二五三〇

三六

試験區別	平均 稈重 量	玄米一立 重量	玄米一〇〇〇粒 重量	品 質	平均 反當 玄米 收量
坊主五號	四月三二 四月三二	七九五 八二一	三三五 三三八	三 二の上	六七七 七九二
富國	四三〇一 三七五〇	八二一 八二二	三三八 三三二	二 二	七九二 八八二
上育九九號	三二四八 三九五八	八二六 八二五	二〇六 二二九	一 一	八六八 九七八
上育一〇〇號	三二四八 三六二二	八二六 八二八	二〇六 二二二	一 二	八六八 九五八
上育B二號	三二四一〇 三八三三	八二八 八二二	二三八 二〇〇	二の上 一	八六六 七九九
早生富國	四八六〇 三六〇八	八二六 八三三	二〇〇 二二一	一 一の下	七九九 九五八
北中生白毛一號	三八三三 四八六〇	八二二 八二六	二〇〇 二二一	一 一の下	七九九 九五八
坊主六號	三六〇八 三三二四	八三三 七九九	二二〇 三三三	二 二の下	六五五 八〇一
榮主六號	三三二四 三六〇〇	八三三 七九九	二二〇 三三三	二 二の下	六五五 八〇一
改其橋一號	三六〇〇 三三二四	八〇九 七九九	一九三 三三三	二 二の下	七六三 八〇一
山崎橋	三三二四 三六〇〇	八〇九 七九九	一九三 三三三	二 二の下	七六三 八〇一

(六) 水稻直播播種量試驗成績

美深試作場に於て水稻直播播種量に就き行ひたる試験成績に據れば、水稻の直播栽培に於ける播種量と、水稻の生育、收量並に品質との間には左記の如き關係あるを認めたり。則ち

- 一、草丈の伸長及穂長は、各品種共播種量少なきものはその多きものに比し優る傾向あり。
- 一、分蘗も草丈の場合と同様、各品種共播種量少なきものほど分蘗力旺盛にして、播種量を増加するに隨ひ減少し、一株苗立二五本以上は殆ど分蘗せず。然れども成熟期に於ける有效莖數は、播種量少なきものは其の多きものを凌駕するに至らず、且分蘗終止期は播種量少なきものほど遅延の傾向あり。
- 一、出穂及成熟期は、各品種共播種量多きものほど早き傾向あるも、一株苗立二〇本以上は殆ど差なし。
- 一、玄米收量は、各品種共播種量最も少なき一株苗立五本は劣り、一株苗立一〇本以上は概ね大差なきも、「水稻農林十五號」、「早生富國」の二品種は播種量多きものほど收量多き傾向あり。
- 一、玄米の品質は、各品種共播種量少なきものは其の多きものに比し青米多く、劣る傾向あるも、一株苗立一五本以上は差少なし。
- 一、玄米の一〇〇〇粒重量は、各品種共播種量少なきものほど重き傾向あり。

以上の成績を綜合して考察するに、水稻の直播栽培に於ける播種量は、一株二〇本の苗立、即ち「水稻農林十一號」、「水稻農林十五號」、「坊主六號」の如き稍小粒種は反當一斗内外、「北海七九號」、「走坊主二號」の如き中粒種は反當一斗二升内外、「早生富國」の如き稍大粒種は中粒種より稍多く播種するを有利とすべし。其の成績左の如し

美深試作場試驗成績 自昭和十二年 至同十四年

(七) 水稻苗仕立法に関する試験成績

潮棚試作場に於て低位泥炭地に於て行ひたる試験成績に據れば、各種苗仕立法のうち、温床、簡易温床、及冷床苗栽培は従来慣行の普通苗栽培及直播栽培に比し、概して出穂期並に成熟期早く、草丈、穂長共に長く、收量優るを認めたり。而して收量増加の効果は、中熟種は比較的僅少なるとも、晩熟種は顯著となる傾向あり。其の成績左の如し

潮棚試作場試験成績

自昭和十二年
至同十四年

試験區別	坊主五號				發芽期 月日	移草の 時丈	出穂期 月日	成熟期 月日	草丈 寸	本葉 數	長穗 寸	隔當玄米收量		平均	收割量 %	歩合	重量	重量	質	重量	容量	要
	温床苗栽培	簡易温床苗栽培	冷床苗栽培	普通苗栽培								昭和十三年	同十四年									
温床苗栽培	五、四	五、三	五、二	五、一	八、八	八、九	九、一	九、二	一、一	一、二	一、三	三、二	三、一	三、〇	九七	八〇	八〇	八〇	二の中	三、二	二、六	
簡易温床苗栽培	五、四	五、三	五、二	五、一	八、八	八、九	九、一	九、二	一、一	一、二	一、三	三、二	三、一	三、〇	九七	八〇	八〇	八〇	二の中	三、二	二、六	
冷床苗栽培	五、四	五、三	五、二	五、一	八、八	八、九	九、一	九、二	一、一	一、二	一、三	三、二	三、一	三、〇	九七	八〇	八〇	八〇	二の中	三、二	二、六	
普通苗栽培	五、四	五、三	五、二	五、一	八、八	八、九	九、一	九、二	一、一	一、二	一、三	三、二	三、一	三、〇	九七	八〇	八〇	八〇	二の中	三、二	二、六	

試験區別	津輕坊主一號				南光				富國				發芽期 月日	移草の 時丈	出穂期 月日	成熟期 月日	草丈 寸	本葉 數	長穗 寸	隔當玄米收量		平均	收割量 %	歩合	重量	重量	質	重量	容量	要				
	温床苗栽培	簡易温床苗栽培	冷床苗栽培	普通苗栽培	温床苗栽培	簡易温床苗栽培	冷床苗栽培	普通苗栽培	温床苗栽培	簡易温床苗栽培	冷床苗栽培	普通苗栽培								昭和十三年	同十四年													
温床苗栽培	五、七	五、八	五、九	五、一〇	五、七	五、八	五、九	五、一〇	五、七	五、八	五、九	五、一〇	五、七	五、八	五、九	五、一〇	八、八	八、九	九、一	九、二	一、一	一、二	一、三	三、二	三、一	三、〇	九七	八〇	八〇	八〇	二の中	三、二	二、六	
簡易温床苗栽培	五、七	五、八	五、九	五、一〇	五、七	五、八	五、九	五、一〇	五、七	五、八	五、九	五、一〇	五、七	五、八	五、九	五、一〇	八、八	八、九	九、一	九、二	一、一	一、二	一、三	三、二	三、一	三、〇	九七	八〇	八〇	八〇	二の中	三、二	二、六	
冷床苗栽培	五、七	五、八	五、九	五、一〇	五、七	五、八	五、九	五、一〇	五、七	五、八	五、九	五、一〇	五、七	五、八	五、九	五、一〇	八、八	八、九	九、一	九、二	一、一	一、二	一、三	三、二	三、一	三、〇	九七	八〇	八〇	八〇	二の中	三、二	二、六	
普通苗栽培	五、七	五、八	五、九	五、一〇	五、七	五、八	五、九	五、一〇	五、七	五、八	五、九	五、一〇	五、七	五、八	五、九	五、一〇	八、八	八、九	九、一	九、二	一、一	一、二	一、三	三、二	三、一	三、〇	九七	八〇	八〇	八〇	二の中	三、二	二、六	

區別	灌水六立區					灌水一〇立區					灌水一四立區					灌水一八立區				
	前水	後水	蒸散	浸透	含前	前水	後水	蒸散	浸透	含前	前水	後水	蒸散	浸透	含前	前水	後水	蒸散	浸透	含前
播種後五日	六三・五	六八・七	四・一	四・一	六三・五	六三・五	六三・五	四・一	四・一	六三・五	六三・五	六三・五	四・一	四・一	六三・五	六三・五	六三・五	四・一	四・一	六三・五
同日	七三・四	七〇・〇	五・一	五・一	七三・四	七三・四	七三・四	五・一	五・一	七三・四	七三・四	七三・四	五・一	五・一	七三・四	七三・四	七三・四	五・一	五・一	七三・四
同日	七三・四	七〇・〇	五・一	五・一	七三・四	七三・四	七三・四	五・一	五・一	七三・四	七三・四	七三・四	五・一	五・一	七三・四	七三・四	七三・四	五・一	五・一	七三・四
同日	七三・四	七〇・〇	五・一	五・一	七三・四	七三・四	七三・四	五・一	五・一	七三・四	七三・四	七三・四	五・一	五・一	七三・四	七三・四	七三・四	五・一	五・一	七三・四
同日	七三・四	七〇・〇	五・一	五・一	七三・四	七三・四	七三・四	五・一	五・一	七三・四	七三・四	七三・四	五・一	五・一	七三・四	七三・四	七三・四	五・一	五・一	七三・四
同日	七三・四	七〇・〇	五・一	五・一	七三・四	七三・四	七三・四	五・一	五・一	七三・四	七三・四	七三・四	五・一	五・一	七三・四	七三・四	七三・四	五・一	五・一	七三・四

四五

備考 播種期は昭和十一年四月五日、昭和十二年、同十三年四月二十三日、昭和十四年四月二十四日。
浸透水量調査 昭和十四年
供用品種 「坊主五號」

供用品種 「富國」	昭和十四年	試驗區別	發期		播種後五日	移植期	於	本	枯	病	初	生	期	初	生	期	初	生
			始	期														
1	1	1	4月	15日	7日	剛	五	四	中	五	四	中	五	四	中	五	四	中
1	1	1	4月	15日	7日	剛	五	四	中	五	四	中	五	四	中	五	四	中

四四

播種後	二二日	二三日	二四日	二五日	二六日	二七日	二八日	二九日	三〇日
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
七〇・〇	六八・七	六五・五	六三・五	六三・五	六二・〇	六〇・〇	五九・五	五七・七	五六・三
八・五	七・四	七・三	七・三	七・三	七・〇	六・八	六・八	六・五	六・三
八立	八立	八立	八立	八立	八立	八立	八立	八立	八立
九・三	九・〇	九・〇	九・〇	九・〇	九・〇	九・〇	九・〇	九・〇	九・〇
九・三	九・〇	九・〇	九・〇	九・〇	九・〇	九・〇	九・〇	九・〇	九・三
二立	二立	二立	二立	二立	二立	二立	二立	二立	二立
九・〇	九・〇	九・〇	九・〇	九・〇	九・〇	九・〇	九・〇	九・〇	九・〇
一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇
二立	二立	二立	二立	二立	二立	二立	二立	二立	二立
三立	三立	三立	三立	三立	三立	三立	三立	三立	三立
九・〇	九・〇	九・〇	九・〇	九・〇	九・〇	九・〇	九・〇	九・〇	九・〇
一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇
二立	二立	二立	二立	二立	二立	二立	二立	二立	二立
七立	七立	七立	七立	七立	七立	七立	七立	七立	七立

備考 一 床土の水分は其の含水量に對する%にて示す。
 二 床土の含水量は重量法にて約四五%なり。
 三 蒸發の蒸散量は播種後一〇日間宛の平均値にて示す。

(九) 水稻温床及冷床苗代に於ける床土の深さに關する試験成績

本場に於て行ひたる試験の成績に據れば、水稻の温床及冷床苗代に於ける床土の深さは、温床及冷床苗代共に床土の深さにより發芽、發芽後の苗の生育及移植期の草丈、剛軟、根數等に大差なきも、五種區は生育に故障を生じ易く且立枯病を多く生じ易き傾向あるを認めたり。而して床土の準備、苗の生育、立枯病等の關係を考慮し、床土の深さは温床にありては一五種以上を安全とし、冷床苗代にありては一〇種以上を可とすべし。其の成績左の如し

本場試験成績

供用品種 「坊主五號」 昭和十三年

試験區別	發芽		移植期に於ける調査 (五月十九日)	
	始期	揃	草丈	葉數
温床 床土の深さ五種	四月九日	五月一日	一四・二	三終
温床 床土の深さ一〇種	四月九日	五月一日	一三・七	同
温床 床土の深さ一五種	四月九日	五月一日	一三・三	同
温床 床土の深さ二〇種	四月九日	五月一日	一三・〇	同
冷床 床土の深さ一〇種	四月九日	五月一日	一三・〇	同
冷床 床土の深さ一五種	四月九日	五月一日	一三・〇	同
冷床 床土の深さ二〇種	四月九日	五月一日	一三・〇	同
冷床 床土の深さ一〇種	四月九日	五月一日	一三・〇	同
冷床 床土の深さ一五種	四月九日	五月一日	一三・〇	同
冷床 床土の深さ二〇種	四月九日	五月一日	一三・〇	同

供用品種 「富國」 昭和十四年

試験區別	發芽		移植期に於ける調査 (五月二十七日)	
	始期	揃	草丈	葉數
温床 床土の深さ五種	四月九日	五月一日	一三・三	三終
温床 床土の深さ一〇種	四月九日	五月一日	一三・三	同
温床 床土の深さ一五種	四月九日	五月一日	一三・三	同
温床 床土の深さ二〇種	四月九日	五月一日	一三・三	同
冷床 床土の深さ一〇種	四月九日	五月一日	一三・三	同
冷床 床土の深さ一五種	四月九日	五月一日	一三・三	同
冷床 床土の深さ二〇種	四月九日	五月一日	一三・三	同

試 験 區 別	溫地時五後午		溫地午正		溫地時七前午		試 験 區 別
	床土の深さ一〇糎	床土の深さ一五糎	床土の深さ一〇糎	床土の深さ一五糎	床土の深さ一〇糎	床土の深さ一五糎	
自四月二十五日 至四月二十九日 間平均	一九〇	一七六	一七八	一五八	一六四	一三六	七・七
	二二〇	一九三	一七九	一四六	二三六	二二七	
自四月三十日 至五月四日 間平均	一九三	一七九	一七九	一四六	二三六	二二七	一一・二
	一九〇	一七六	一七八	一五八	一六四	一三六	
自五月五日 至五月九日 間平均	一九三	一七九	一七九	一四六	二三六	二二七	一一・二
	一九〇	一七六	一七八	一五八	一六四	一三六	
自五月十日 至五月十四日 間平均	一九三	一七九	一七九	一四六	二三六	二二七	一一・二
	一九〇	一七六	一七八	一五八	一六四	一三六	
自五月十五日 至五月十九日 間平均	一九三	一七九	一七九	一四六	二三六	二二七	一一・二
	一九〇	一七六	一七八	一五八	一六四	一三六	
自五月二十五日 至五月二十九日 間平均	一九三	一七九	一七九	一四六	二三六	二二七	一一・二
	一九〇	一七六	一七八	一五八	一六四	一三六	

四九

地温に関する調査 (冷床苗代) 昭和十四年

試 験 區 別	溫地均平	
試 験 區 別	床土の深さ一〇糎	床土の深さ一五糎
自四月二十五日 至四月二十九日 間平均	一九〇	一七六
	二二〇	一九三
自四月三十日 至五月四日 間平均	一九三	一七九
	一九〇	一七六
自五月五日 至五月九日 間平均	一九三	一七九
	一九〇	一七六
自五月十日 至五月十四日 間平均	一九三	一七九
	一九〇	一七六
自五月十五日 至五月十九日 間平均	一九三	一七九
	一九〇	一七六
自五月二十五日 至五月二十九日 間平均	一九三	一七九
	一九〇	一七六

試 験 區 別	床 冷		試 験 區 別
	床土の深さ一〇糎	床土の深さ一五糎	
自四月二十五日 至四月二十九日 間平均	一九〇	一七六	自五月二十五日 至五月二十九日 間平均
	二二〇	一九三	
自四月三十日 至五月四日 間平均	一九三	一七九	自五月十日 至五月十四日 間平均
	一九〇	一七六	
自五月五日 至五月九日 間平均	一九三	一七九	自五月十五日 至五月十九日 間平均
	一九〇	一七六	
自五月十日 至五月十四日 間平均	一九三	一七九	自五月二十五日 至五月二十九日 間平均
	一九〇	一七六	
自五月十五日 至五月十九日 間平均	一九三	一七九	自五月二十五日 至五月二十九日 間平均
	一九〇	一七六	
自五月二十五日 至五月二十九日 間平均	一九三	一七九	自五月二十五日 至五月二十九日 間平均
	一九〇	一七六	

四八

地温に関する調査 (温床苗代) 自昭和十三年
至同十四年

試 験 區 別	溫地時五後午		溫地午正		溫地時七前午		試 験 區 別
	床土の深さ一〇糎	床土の深さ一五糎	床土の深さ一〇糎	床土の深さ一五糎	床土の深さ一〇糎	床土の深さ一五糎	
自四月二十五日 至四月二十九日 間平均	一九〇	一七六	一九三	一七九	一九三	一七九	同
	二二〇	一九三	二二〇	一九七	二二〇	一九七	
自四月三十日 至五月四日 間平均	一九三	一七九	一九三	一七九	一九三	一七九	同
	二二〇	一九三	二二〇	一九七	二二〇	一九七	
自五月五日 至五月九日 間平均	一九三	一七九	一九三	一七九	一九三	一七九	同
	二二〇	一九三	二二〇	一九七	二二〇	一九七	
自五月十日 至五月十四日 間平均	一九三	一七九	一九三	一七九	一九三	一七九	同
	二二〇	一九三	二二〇	一九七	二二〇	一九七	
自五月十五日 至五月十九日 間平均	一九三	一七九	一九三	一七九	一九三	一七九	同
	二二〇	一九三	二二〇	一九七	二二〇	一九七	
自五月二十五日 至五月二十九日 間平均	一九三	一七九	一九三	一七九	一九三	一七九	同
	二二〇	一九三	二二〇	一九七	二二〇	一九七	

平均	床土の深さ五種	一三・二	一五・一	一六・九	一三・五	一四・一	一四・六
均	床土の深さ一〇種	一四・一	一七・〇	一七・〇	一四・七	一五・一	一五・六
地	床土の深さ一五種	一三・三	一八・三	一八・九	一四・九	一六・三	一六・三
温	床土の深さ二〇種	一四・五	一八・三	一七・四	一四・七	一五・一	一六・〇

(10) 春播小麦品種選抜試験成績

美唄泥炭地試験地の高位泥炭地(埴土客入)に於ける試験成績に據れば、「春播小麦農林二九號」は従来の優良品種たる「春播小麦農林三號」に比し短稈早熟にして倒伏の虞少なく、品質稍劣るも多收にして、斯種土壌に於て栽培有望なる適品種たるを認めたり。而して「硬質春播小麦農林三五號」は品質最も優り短稈早熟なるも收量稍劣るを認めたり。

日高試作場に於ける春播小麦品種選抜試験の成績に據れば、「春播小麦農林二九號」は従来の「春播小麦農林三號」に比して短稈早熟にして收量多く、該地方の如く稈稈徒長し倒伏及赤黴病發生の虞多き地方の栽培に適するを認めたり。又「硬質春播小麦農林三五號」は收量稍劣るも早熟にして、該地方に於ても可なり品質良好なるを認めたり。

其の成績左の如し

美唄泥炭地試験地試験成績

品 種 名	出穂期	成熟期	草丈	葉數	赤銹病の多少		隔當子實收量		割合		子實一〇〇粒重量		品質	反當子實收量	
					昭十三年	昭十四年	平均	平均	重量	重量	重量	重量			
春播小麦農林三號	七月二日	八月七日	一〇八	四七	中	同	一三・六	一三・七	一〇〇	七三・七	三三・三	二	三・六	三・三	
春播小麦農林二九號	七月六日	八月七日	一〇三	四三	同	同	一四・六	一三・七	一〇〇	七三・三	三三・三	二	三・六	三・三	
硬質春播小麦農林三五號	七月二日	八月七日	一〇三	四三	同	同	一四・六	一三・七	一〇〇	七三・三	三三・三	二	三・六	三・三	

日高試作場試験成績

品 種 名	出穂期	成熟期	草丈	葉數	倒伏赤黴病の多少		隔當子實收量		割合		子實一〇〇粒重量		品質	反當子實收量	
					昭十三年	昭十四年	平均	平均	重量	重量	重量	重量			
春播小麦農林三號	七月五日	八月七日	一〇八	四七	中	同	一三・六	一三・七	一〇〇	七三・七	三三・三	二	三・六	三・三	
春播小麦農林二九號	七月六日	八月七日	一〇三	四三	同	同	一四・六	一三・七	一〇〇	七三・三	三三・三	二	三・六	三・三	
硬質春播小麦農林三五號	七月二日	八月七日	一〇三	四三	同	同	一四・六	一三・七	一〇〇	七三・三	三三・三	二	三・六	三・三	

備考 倒伏の多少、赤黴病の多少は昭和十三年、同十四年の二箇年の調査を示す。

(11) 玉蜀黍品種選抜試験成績

幸震高丘地試験地に於ける成績に據れば、「坂下」は多收にして且熟期早きを以て該地方に於ける適品種なるを認めたり。稚内試作場に於て行ひたる試験成績に據れば、「マイネルセルフリーマウス」、「坂下」、「稚第九九〇號」、「ツトムガウエルフットマウス」は出穂、成熟共に早く、收量及品質優り、該地方として「坂下」を適當と認めたり。

其の成績左の如し

幸震高丘地試験地試験成績

品 種 名	抽 出 期	成熟期	草丈	隔當子實收量		割合		子實一〇〇粒重量		品質	反當子實收量	
				昭十一年	昭十二年	平均	平均	重量	重量		重量	重量
坂下	八月一日	八月七日	一〇四	三三・五	四二・四	一〇〇	七三・七	三三・三	二	五・九	八・四	
ゴールデンパンナム	七月三〇日	八月二日	一〇八	三三・三	四二・四	六六	七三・七	三三・三	二	五・九	八・四	
黄早生	八月四日	八月二日	一〇四	三三・三	四二・四	六六	七三・七	三三・三	二	五・九	八・四	
十支第五二七六號	八月三日	八月二日	一〇五	三三・三	四二・四	六六	七三・七	三三・三	二	五・九	八・四	

品種名	抽出期	雄穗	雌穗	期熟成	草丈	昭和十一年				昭和十二年				昭和十三年				昭和十四年			
						平均	最高	最低	備考	平均	最高	最低	備考	平均	最高	最低	備考	平均	最高	最低	備考
札幌八行	八月八日	一〇・六	二・〇〇	一三・八〇	一三〇	二・七二	三・二〇	二・二二	二・〇〇	二・七二	三・二〇	二・二二	二・〇〇	六三	七三	三三	二	八・三九	五・七	三・四	
オノ	八月八日	一〇・六	二・〇〇	一三・八〇	一三〇	二・七二	三・二〇	二・二二	二・〇〇	二・七二	三・二〇	二・二二	二・〇〇	六三	七三	三三	二	八・三九	五・七	三・四	
ロングフエロー	八月八日	一〇・六	二・〇〇	一三・八〇	一三〇	二・七二	三・二〇	二・二二	二・〇〇	二・七二	三・二〇	二・二二	二・〇〇	六三	七三	三三	二	八・三九	五・七	三・四	
ロングフェロー (本場産)	八月八日	一〇・六	二・〇〇	一三・八〇	一三〇	二・七二	三・二〇	二・二二	二・〇〇	二・七二	三・二〇	二・二二	二・〇〇	六三	七三	三三	二	八・三九	五・七	三・四	

稚内試作場試験成績
自昭和十一年
至同十四年

品種名	抽出期	雄穗	雌穗	期熟成	草丈	昭和十一年				昭和十二年				昭和十三年				昭和十四年			
						平均	最高	最低	備考	平均	最高	最低	備考	平均	最高	最低	備考	平均	最高	最低	備考
ゴールデンパンナム	八月九日	八・九	八・二	一〇・二	一三〇	二・四五	三・〇〇	二・一五	二・〇〇	二・四五	三・〇〇	二・一五	二・〇〇	一七・五	一七・五	一七・五	一〇〇	一・八六	一・八六	二・八	
マイネルセルフリューマイス	八月九日	八・九	八・二	一〇・二	一三〇	二・四五	三・〇〇	二・一五	二・〇〇	二・四五	三・〇〇	二・一五	二・〇〇	一七・五	一七・五	一七・五	一〇〇	一・八六	一・八六	二・八	
ウエストグロイジヘルケルネ	八月九日	八・九	八・二	一〇・二	一三〇	二・四五	三・〇〇	二・一五	二・〇〇	二・四五	三・〇〇	二・一五	二・〇〇	一七・五	一七・五	一七・五	一〇〇	一・八六	一・八六	二・八	
ツームガウエルツフトマイス	八月九日	八・九	八・二	一〇・二	一三〇	二・四五	三・〇〇	二・一五	二・〇〇	二・四五	三・〇〇	二・一五	二・〇〇	一七・五	一七・五	一七・五	一〇〇	一・八六	一・八六	二・八	
メクリンブルケルネルマイス	八月九日	八・九	八・二	一〇・二	一三〇	二・四五	三・〇〇	二・一五	二・〇〇	二・四五	三・〇〇	二・一五	二・〇〇	一七・五	一七・五	一七・五	一〇〇	一・八六	一・八六	二・八	
パールキルフネルフリーマイス	八月九日	八・九	八・二	一〇・二	一三〇	二・四五	三・〇〇	二・一五	二・〇〇	二・四五	三・〇〇	二・一五	二・〇〇	一七・五	一七・五	一七・五	一〇〇	一・八六	一・八六	二・八	
パンツフェルターゾトマイス	八月九日	八・九	八・二	一〇・二	一三〇	二・四五	三・〇〇	二・一五	二・〇〇	二・四五	三・〇〇	二・一五	二・〇〇	一七・五	一七・五	一七・五	一〇〇	一・八六	一・八六	二・八	
雑第九八七號	八月九日	八・九	八・二	一〇・二	一三〇	二・四五	三・〇〇	二・一五	二・〇〇	二・四五	三・〇〇	二・一五	二・〇〇	一七・五	一七・五	一七・五	一〇〇	一・八六	一・八六	二・八	
雑第九八八號	八月九日	八・九	八・二	一〇・二	一三〇	二・四五	三・〇〇	二・一五	二・〇〇	二・四五	三・〇〇	二・一五	二・〇〇	一七・五	一七・五	一七・五	一〇〇	一・八六	一・八六	二・八	
雑第九八九號	八月九日	八・九	八・二	一〇・二	一三〇	二・四五	三・〇〇	二・一五	二・〇〇	二・四五	三・〇〇	二・一五	二・〇〇	一七・五	一七・五	一七・五	一〇〇	一・八六	一・八六	二・八	
雑第九九〇號	八月九日	八・九	八・二	一〇・二	一三〇	二・四五	三・〇〇	二・一五	二・〇〇	二・四五	三・〇〇	二・一五	二・〇〇	一七・五	一七・五	一七・五	一〇〇	一・八六	一・八六	二・八	
雑第九九三號	八月九日	八・九	八・二	一〇・二	一三〇	二・四五	三・〇〇	二・一五	二・〇〇	二・四五	三・〇〇	二・一五	二・〇〇	一七・五	一七・五	一七・五	一〇〇	一・八六	一・八六	二・八	
黄早	八月九日	八・九	八・二	一〇・二	一三〇	二・四五	三・〇〇	二・一五	二・〇〇	二・四五	三・〇〇	二・一五	二・〇〇	一七・五	一七・五	一七・五	一〇〇	一・八六	一・八六	二・八	
坂下	八月九日	八・九	八・二	一〇・二	一三〇	二・四五	三・〇〇	二・一五	二・〇〇	二・四五	三・〇〇	二・一五	二・〇〇	一七・五	一七・五	一七・五	一〇〇	一・八六	一・八六	二・八	

(三) 黍「早生黒糯」、「朝鮮糯」、「早生朝鮮」に関する試験成績

幸震高丘地試験地に於て施行せる品種試験成績に據れば、「早生黒糯（十支第五九〇五號）」は早熟、良質、稍多收、「朝鮮糯（十支第三八九五號）」は晩熟なるも多收且良質なるを以て、孰れも十勝地方に於ける優良品種と決定せり。尙「早生朝鮮（根支第四九五號）」は收量稍劣るも最早熟種にして品質も概して良好なるを以て、霜害を被り易き地方に適する優良品種と決定せり。其の成績左の如し

幸震高丘地試験地試験成績
自昭和十一年
至同十四年

(一) 特性調査
(イ) 粳

品種名	成熟前		成熟後		摘要
	莖葉色	莖葉の色	莖長	穂長	
早生朝鮮	直	濃緑暗紫	八・七	二・五五	中
早生黍	開	綠	八・三	二・九〇	稀長圓
早生黍 (十支第六四九七號)	同	同	八・八	三・〇	同
早生黍 (十支第六四五號)	同	同	八・二	三・〇	同
早生黍 (北支第五七三號)	同	同	八・七	三・〇	同
半黒糯	同	同	八・二	三・〇	同
半茶糯	同	同	八・七	三・〇	同

(ロ) 糯

品名	供試量	精白黍	玄米に對する精白歩合	精白難易	子實重量	一子立重量	碎粒の重量割合	試料一〇互中脱粒せる粒數	糶糶の別
早生種	一・四〇〇	一・三三〇	九三・七	極易	五・二	四・〇〇	二・六	同	糶
早生種	〇・九〇〇	〇・八六〇	九三・五	極易	五・二	四・〇〇	二・六	同	糶
極早生種	一・四三三	一・三三五	九三・七	同	五・二	四・〇〇	二・六	同	糶
早生種	一・八八五	一・七六〇	九三・九	同	五・二	四・〇〇	二・六	同	糶
中生種	一・八九〇	一・七五五	九三・九	稍難	四・四	四・一六	五・〇	同	糶
飢不生種	一・八八五	一・七六〇	九三・九	極難	三・八	四・〇五	七・九	同	糶
半生種	〇・九一〇	〇・八六〇	九四・五	極難	三・九	四・一三	八・五	同	糶
晚生種	〇・八九五	〇・八一五	九一・一	稍難	四・八	四・〇八	二・九	同	糶
朝鮮種	一・四〇〇	一・二九〇	九三・三	稍易	六・四	四・〇〇	二・七	同	糶

品名	供試量	精白黍	玄米に對する精白歩合	精白難易	子實重量	一子立重量	碎粒の重量割合	試料一〇互中脱粒せる粒數	糶糶の別
早生朝鮮	〇・八八五	〇・八二〇	九二・五	稍難	六・〇	四・一六	五・九	一	糶
早生黍	一・三三三	一・二七五	九四・一	極難	三・六	四・一三	三・四	一	糶
早生黍	一・四〇五	一・三二〇	九三・六	極難	三・九	四・一六	一・八	一	糶
半生黍	一・九〇〇	一・七七五	九三・四	稍難	三・六	四・一三	五・七	一	糶
半生茶糶	一・八七五	一・七五五	九三・六	中難	三・八	四・一六	七・一	一	糶

(一) 搗精調査

品名	子實重量	立重量	水分	硬破度	供試量	玄黍	脱率	子實重量	一子立重量	實完全玄黍脱粒せる粒數割合	碎粒粒數割合	硬破度
早生種	六・九	七・八	一〇・九七	二・〇〇四	一・六〇〇	一・四四五	七・八	五・五	八・〇	九七・五	一・八	一・三五二
早生種	七・〇	七・七	一一・一七	二・三二一	一・二〇〇	〇・九四五	七・八	五・四	八・〇七	九七・九	一・五	一・三〇二
極早生種	五・〇	七・三	一一・一六	二・三二一	一・八四五	一・四五五	七・八	四・〇	八・八	八五・五	一・三	一・五八三
早生種	四・七	六・七	一一・〇四	二・〇〇八	二・三二〇	一・九二〇	八・三	四・〇	八・〇五	九三・九	四・三	一・四九五
中生種	四・五	七・〇〇	一一・二四	二・四四一	二・四四五	一・九〇五	七・七	四・四	八・〇五	九三・七	〇・五	一・四六四
飢不生種	四・七	六・五八	一一・〇九	二・四四一	二・三二〇	一・九二〇	八・三	四・四	八・〇三	九三・七	〇・五	一・四六四
半生種	四・四	六・五八	一一・〇九	二・四四一	二・三二〇	一・九二〇	八・三	四・四	八・〇三	九三・七	〇・五	一・四六四
晚生種	六・四	六・六八	一一・〇九	二・四四一	一・一五	〇・九五五	八・五	四・四	八・〇五	八九・八	四・八	一・七二六
朝鮮種	八・五	七・五	一一・〇八	二・四四一	一・一五	〇・九五五	八・五	四・四	八・〇五	八九・八	四・八	一・七二六
早生種	四・四	六・六八	一一・〇九	二・四四一	一・一五	〇・九五五	八・五	四・四	八・〇五	八九・八	四・八	一・七二六
縞黍	五・一	六・七	一一・〇七	二・四四一	一・一五	〇・九五五	八・五	四・四	八・〇五	八九・八	四・八	一・七二六
縞黍	六・四	六・七	一一・〇七	二・四四一	一・一五	〇・九五五	八・五	四・四	八・〇五	八九・八	四・八	一・七二六
中生種	四・三	六・三	九・八〇	二・四四一	一・二五五	〇・九二〇	七・九	三・六	七・九五	九四・九	二・三	一・四九三
中生種	四・四	六・八	一一・〇九	二・四四一	一・二五五	〇・九二〇	七・九	三・六	七・九五	九四・九	二・三	一・四九三
中生種	四・四	六・八	一一・〇九	二・四四一	一・二五五	〇・九二〇	七・九	三・六	七・九五	九四・九	二・三	一・四九三
獨乙種	六・二	六・〇	一一・〇八	二・四四一	一・〇五五	〇・八八五	八・二	五・四	八・〇〇	九六・九	三・九	一・三三八

(二) 搗精調査

品名	子實重量	立重量	水分	硬破度	供試量	玄黍	脱率	子實重量	一子立重量	實完全玄黍脱粒せる粒數割合	碎粒粒數割合	硬破度
半生種	四・六	六・五	一一・〇六	一・七三三	二・〇〇〇	一・九二〇	八・三	三・七	八・〇	九三・六	二・〇	一・四八四
半生種	四・六	六・五	一一・〇六	一・七三三	二・〇〇〇	一・九二〇	八・三	三・七	八・〇	九三・六	二・〇	一・四八四

早生 (十支第五二八二號)	縞黍	一八八五	一七四〇	九三三%	中	三三	四六	二六	八粒
中黑 (十支第五二八四號)	縞黍	〇八八五	〇八四〇	九四九%	稍難	四〇	四三	六三	一同
中生	縞黍	〇八八〇	〇八三五	九二〇%	稍難	四三	四三	六三	一同
中生	縞黍	一八六五	一七七〇	九三八%	中	三六	四三	六三	一同
中黑	縞黍	〇八五五	〇七九五	九三〇%	難	三八	四三	六三	一同
獨乙	縞黍	〇八〇〇	〇八三五	九一七%	易	六二	四三	六三	一同

備考 一 水分は「 Hoffman 」水分檢定器を使用。
 二 破碎硬度は高木式硬度計による。
 三 脱粒は岩田式單相モーター用穀剝機を使用し加速盤二、三〇〇回轉連續三回掛。
 四 精白は清水式一斗張精米機六回掛、三回迄は糠を抜かず四回目より糠抜をなせり。糠は一寸に25×25目の篩に掛け、篩下を糠と看做せり。
 五 試料は昭和十三年度生産のものなり。
 六 收量調査中收量割合は「中生縞(十支第一三四號)」を一〇〇として計算せり。
 七 生育竝に收量調査中の子實收量中括弧内は故障の爲平均より除外せり。
 八 生育竝に收量調査中一〇〇〇粒重量は昭和十一年を除く三箇年平均を示す。

水田稗移植期節試驗成績

日高試作場に於ける水田稗移植期試驗の成績に據れば、六月二十日移植、六月二十五日移植、六月三十日移植のものは收量に於て殆ど差なく、六月二十日より六月三十日の間を以て水田稗移植の適期と認めたり。其の成績左の如し

日高試作場試驗成績

試驗區別	出穂期	成熟期	草丈	莖數	昭 和 十 二 年	昭 和 十 三 年	昭 和 十 四 年	平均	割收量	子實重量	子實重量	子實重量	品質	反當收量
六月二十日移植	八二〇	九一四	一一三	四本	三九六	三九六	三二七	三六四	一〇〇	八二六	四六五	三七	二	九七三
六月二十五日移植	八二二	九一五	一一三	四本	四〇六	四〇六	三二六	三六四	一〇〇	九九三	四六五	三七	二	九七三
六月三十日移植	八二四	九一七	一一六	四本	三九八	三九八	三二九	三六四	一〇〇	八八〇	四六四	三七	二	九七〇
七月五日移植	八二五	九一八	一一八	五本	四二二	四二二	三五七	三四四	九三	七五〇	四六一	三七	二	八九〇
七月十日移植	八二八	九二〇	一二三	五本	四三三	四三三	三三〇	三二八	七六	七三〇	四七六	三六	三	七三八

蕎麥品種選抜試驗成績

釧路試作場の成績に據れば、「本第一三、六二二號(牡丹蕎麥)」及「本第一三、六一九號(牡丹蕎麥)」は開花の状態一にして結實歩合良く、且蕎麥白黴病に對する抵抗力強く收量品質共に優れり。而して「本第一三、六二二號(牡丹蕎麥)」は「本第一三、六一九號(牡丹蕎麥)」に比し收量は相伯仲せるも莖稈強健、倒伏率少なくて蕎麥白黴病に對する耐病性稍強く、子實豊滿にして品質優良なるを以て、釧路地方の如き特殊氣候地帯に於ける適品種なるを認めたり。其の成績左の如し

釧路試作場試驗成績

種苗臺帳番號	品種名	開花	成熟	草丈	莖數	昭 和 十 二 年	昭 和 十 三 年	昭 和 十 四 年	平均	割收量	子實重量	子實重量	品質	反當收量	倒伏	白黴
本第 六、二七三號	牡丹蕎麥	七月二日	九月二日	一一三	四本	三九六	三九六	三二七	三六四	一〇〇	八二六	四六五	三七	二	九七三	多
本第 一、二六〇五號	同	七月二日	九月二日	一一三	四本	四〇六	四〇六	三二六	三六四	一〇〇	九九三	四六五	三七	二	九七三	同
本第 一、三、六一九號	同	七月二日	九月二日	一一三	四本	三九八	三九八	三二九	三六四	一〇〇	八八〇	四六四	三七	二	九七〇	同
本第 一、三、六二二號	同	七月二日	九月二日	一一三	四本	四二二	四二二	三五七	三四四	九三	七五〇	四六一	三七	二	八九〇	中
本第 一、三、六二二號	同	七月二日	九月二日	一一三	四本	四三三	四三三	三三〇	三二八	七六	七三〇	四七六	三六	三	七三八	少

本第一二、五三六號	信州蕎麥	七月廿二日	九月二日	三本	九〇〇	一〇四	五〇〇	八四	一〇三	五九	二七〇	三	三六	一七	三五
本第一二、六六一號	在來種	七月廿六日	九月二日	三本	九二〇	一〇九	六〇〇	一〇三	一三	五九	二七〇	三	三六	一七	三五

(五) 大豆「奥原一號」に関する試験成績

十勝支場に於ける試験成績に據れば、「Ⅴ一八九(十育五一號)」は「大谷地二號」に比すれば收量少なきも、在來種「奥原」に比し多く、「大谷地二號」に比し成熟期一週間早きを以て、寒冷なる地方に適する優良品種に決定し、「奥原一號」と命名せり。其の育成経過及試験成績左の如し

「奥原」の來歴 本種は釧路國濱中村下茶内奥原重雄氏が、大正十三年同地に入地の際買入れたる大豆中より選出したるものにして、成熟期は「霜不知」より約一週間早きものなり。當支場に於ては昭和八年十一月釧路國支廳技手山岡數郎氏より該種子の寄贈を受け、選出者の姓を附し試験し來れるが、栽培當時の生育不揃にして分離系統を包含せるを以て、純系分離を行ひ優良系統の選抜に努めたるに、「十育五一號」の優良なるを認めたり。

十勝支場試験成績 自昭和十二年 至同十四年

育成経過	特性調査	系統比較試験				摘
		昭和十年	昭和十一年	昭和十二年	昭和十三年	
Ⅴ	昭和十年	同十一年	同十二年	昭和十二年	同十三年	同十四年
Ⅱ	昭和十年	同十一年	同十二年	昭和十二年	同十三年	同十四年

(二) 特性調査

品種名	稚苗時	成		熟		前		成		子		後
		嫩莖色	大小	形	葉	縮	小葉々柄色	毛茸の色	花の色	莢色	形状	
大谷地二號	濃黒紫	中	稍長	濃緑	中	稍淡黒紫	淡	紫	褐	球	淡黄白	黒褐
奥原	同	稍小	同	極濃緑	稍多	濃黒紫	同	同	同	同	同	同
奥原一號	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同

備考 其の他の系統の特性は「十育五一號」に準ず。

(三) 生育並に收量調査

種苗又は育種臺帳番號	品種名	開始期	成熟期	草丈	枝椏數	莢數	歩合	隔當子實收量		平均	割合	隔當室一立重量	子實一立重量	反當子實收量
								昭和十二年	同十三年					
十支第五、二〇二號	奥原	七月廿二日	九月九日	五・六	三	五	四三	一八六	二二	一八〇	一〇〇	一・三〇	六・七	四七
十育八號	大谷地二號	七月廿六日	九月九日	八・三	三	六	四三	二六七	二二	二五八	一四三	二・九七	七・二	三九
十育五〇號	Ⅴ一八九	七月廿八日	九月九日	六・五	三	五	四三	二四三	二二	二五八	一四三	一・五〇	六・九	三六
同五〇號	奥原一號	七月廿九日	九月九日	五・八	四	五	四三	二二五	二二	二四九	一四三	一・五二	七・〇	三五
同五一號	(Ⅴ一八九)	七月廿九日	九月九日	五・八	四	五	四三	二二五	二二	二四九	一四三	一・五二	七・〇	三五
同五二號	(Ⅴ一八九)	七月廿九日	九月九日	五・八	四	五	四三	二二五	二二	二四九	一四三	一・五二	七・〇	三五
同五三號	(Ⅴ一八九)	七月廿九日	九月九日	五・八	四	五	四三	二二五	二二	二四九	一四三	一・五二	七・〇	三五
同五四號	(Ⅴ一八九)	七月廿九日	九月九日	五・八	四	五	四三	二二五	二二	二四九	一四三	一・五二	七・〇	三五

(六) 小豆品種選抜試験成績

潮棚試作場に於ける小豆品種選抜試験成績に據れば、「新大納言」、「圓葉一號」は共に「圓葉」と收量相伯仲せるも、「圓葉一號」は成熟安全にして品質優良なるを以て、該地方の適品種と認めたり。其の成績左の如し

瀬棚試作場試験成績

自昭和八年
至同十四年

Table with columns for variety names (品名), flowering periods (始開花期), maturity periods (成熟期), and various yield metrics (草丈, 枝数, 葉数, etc.) across different years (昭和八年 to 十四年).

(七) 春播菜種播種期節試験成績

日高試作場に於ける春播菜種播種期節試験成績に據れば、四月二十日播の収量品質最も優るを認めたり。其の成績左の如し

日高試作場試験成績

自昭和十二年
至同十四年

Table with columns for experimental area (試験區別), flowering periods (始開花期), maturity periods (成熟期), and yield metrics (草丈, 枝数, etc.) for the '融雪早々播' variety.

(八) 春播菜種間引の距離並に時期に関する試験成績

備考 融雪早々播區の播種期は昭和十二年は四月八日、同十三年は四月七日、同十四年は四月六日なり。

日高試作場に於ける春播菜種間引の距離並に時期試験の成績に據れば、間引せざるものの子實及莖稈収量共に優るを認めたり。其の成績左の如し

日高試作場試験成績

自昭和十二年
至同十四年

Large table with columns for experimental area (試験區別), flowering periods (開花期), maturity periods (成熟期), and various yield metrics (草丈, 枝数, 葉数, etc.) for different sowing intervals (間引せざるもの, 子葉の時一回二寸に間引, etc.).

(元) 除蟲菊の收穫期に関する試験成績

和寒除蟲菊試験地の試験成績に據れば、除蟲菊の收穫適期は舌狀花の満開過にして管狀花の五分咲乃至満開のもの最多數を占むる時期即ち圃場中に三、四株開花を見たる日より一七日乃至二二日に收穫するを適當と認めたり。其の成績左の如し

和寒除蟲菊試験地試験成績 自昭和十年 至同十四年

其の一 (舌狀花の開花程度により收穫せるもの)

試験區別	收穫期	管狀花の開花程度割合										刈取期に於ける調査(一株當)	反當	摘	要		
		管狀花の五分咲	管狀花の四分咲	管狀花の三分咲	管狀花の二分咲	管狀花の一分咲	管狀花の五分咲	管狀花の四分咲	管狀花の三分咲	管狀花の二分咲	管狀花の一分咲						
開花始	六月八日	9.9%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%
開花期	七月一日	9.9%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%
開花始	七月六日	9.9%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%
開花始	七月九日	9.9%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%
開花始	七月十二日	9.9%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%
開花始	七月十五日	9.9%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%
開花始	七月十八日	9.9%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%
開花始	七月廿一日	9.9%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%
開花始	七月廿四日	9.9%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%
開花始	七月廿七日	9.9%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%
開花始	七月三十日	9.9%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%

試験區別	刈取期	管狀花の開花程度により收穫せるもの										反當	摘	要			
		管狀花の五分咲	管狀花の四分咲	管狀花の三分咲	管狀花の二分咲	管狀花の一分咲	管狀花の五分咲	管狀花の四分咲	管狀花の三分咲	管狀花の二分咲	管狀花の一分咲						
開花始	六月八日	9.9%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%
開花期	七月一日	9.9%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%
開花始	七月六日	9.9%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%
開花始	七月九日	9.9%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%
開花始	七月十二日	9.9%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%
開花始	七月十五日	9.9%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%
開花始	七月十八日	9.9%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%
開花始	七月廿一日	9.9%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%
開花始	七月廿四日	9.9%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%
開花始	七月廿七日	9.9%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%
開花始	七月三十日	9.9%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%

其の二 (管狀花の開花程度により收穫せるもの)

試験區別	刈取期	管狀花の開花程度により收穫せるもの										反當	摘	要			
		管狀花の五分咲	管狀花の四分咲	管狀花の三分咲	管狀花の二分咲	管狀花の一分咲	管狀花の五分咲	管狀花の四分咲	管狀花の三分咲	管狀花の二分咲	管狀花の一分咲						
開花直前	八月七日	9.9%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%
一分咲	八月八日	9.9%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%
三分咲	八月九日	9.9%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%
五分咲	八月十日	9.9%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%
七分咲	八月十一日	9.9%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%
七分咲	八月十二日	9.9%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%

品種名	收穫期	草丈	莖數	昭和十二年	昭和十三年	昭和十四年	平均	割合	昭和十二年	昭和十三年	昭和十四年	平均	割合	乾燥率	生草	乾草
九分咲	八・三	一・五三	四〇・三〇	二五・五〇	二五・三〇	二五・三〇	二五・三〇	一〇〇	八・三三	七・五三	九・一五七	八・三三	一〇三	二五・七	八・六三	二・九
滿開	八・一〇	一・六六	一・八三	一・七〇	一・七〇	一・七〇	一・七〇	一〇〇	七・五三	六・四三	一・一五七	七・五三	一〇三	二五・七	八・六三	二・九
滿開過	八・二〇	一・九八	一・四六	一・〇八〇	一・〇八〇	一・〇八〇	一・〇八〇	一〇〇	七・五三	七・五三	一・〇六九	七・五三	一〇三	二五・七	八・六三	二・九
脱落始	八・二七	二・〇三	一・三三	一・〇八〇	一・〇八〇	一・〇八〇	一・〇八〇	一〇〇	七・五三	七・五三	一・〇六九	七・五三	一〇三	二五・七	八・六三	二・九

(三) 飼料用種「松崎」に関する試験成績

本場及檜山、俱知安、瀬棚の三試作場に於て青刈飼料用としての種の品種選抜試験を施行せる試験成績に據れば、本場に於ては「滿洲」、「朝鮮」等優るも、他の三試作場に於ては「松崎」良好にして、特に道南地方の青刈用として恰適するを以て優良品種に決定せり。其の成績左の如し

一 本場試験成績

自昭和十二年
至同十四年

品種名	收穫期	草丈	莖數	昭和十二年	昭和十三年	昭和十四年	平均	割合	昭和十二年	昭和十三年	昭和十四年	平均	割合	乾燥率	生草	乾草
早生白種	八・三	一・四三	三九・四六	二四・七〇	二四・七〇	二四・七〇	二四・七〇	一〇〇	八・三六	七・五三	八・〇六九	八・〇六九	一〇〇	二七・〇〇	八・三三	二・三
白種	八・八	一・三三	四〇・六六	二四・六六	二四・六六	二四・六六	二四・六六	一〇〇	七・五三	七・五三	八・〇六九	七・五三	一〇〇	二七・〇〇	八・三三	二・三
北頭	八・二四	一・四三	三九・四六	二四・七〇	二四・七〇	二四・七〇	二四・七〇	一〇〇	七・五三	七・五三	八・〇六九	七・五三	一〇〇	二七・〇〇	八・三三	二・三
蛤頭	八・一八	一・四三	三九・四六	二四・七〇	二四・七〇	二四・七〇	二四・七〇	一〇〇	七・五三	七・五三	八・〇六九	七・五三	一〇〇	二七・〇〇	八・三三	二・三
早生種(甲)	八・二三	一・五二	三九・四六	二四・七〇	二四・七〇	二四・七〇	二四・七〇	一〇〇	七・五三	七・五三	八・〇六九	七・五三	一〇〇	二七・〇〇	八・三三	二・三
早生種(乙)	八・二三	一・五二	三九・四六	二四・七〇	二四・七〇	二四・七〇	二四・七〇	一〇〇	七・五三	七・五三	八・〇六九	七・五三	一〇〇	二七・〇〇	八・三三	二・三
末吉種	八・二三	一・五二	三九・四六	二四・七〇	二四・七〇	二四・七〇	二四・七〇	一〇〇	七・五三	七・五三	八・〇六九	七・五三	一〇〇	二七・〇〇	八・三三	二・三
早吉種	八・二三	一・五二	三九・四六	二四・七〇	二四・七〇	二四・七〇	二四・七〇	一〇〇	七・五三	七・五三	八・〇六九	七・五三	一〇〇	二七・〇〇	八・三三	二・三
滿洲	八・三〇	一・四九	三九・四六	二四・七〇	二四・七〇	二四・七〇	二四・七〇	一〇〇	七・五三	七・五三	八・〇六九	七・五三	一〇〇	二七・〇〇	八・三三	二・三

二 檜山試作場試験成績

自昭和十二年
至同十四年

(平均收量は昭和十二年を除く)

品種名	收穫期	草丈	莖數	昭和十二年	昭和十三年	昭和十四年	平均	割合	昭和十二年	昭和十三年	昭和十四年	平均	割合	乾燥率	生草	乾草
末吉種	八・三	一・五三	四〇・三〇	二五・五〇	二五・三〇	二五・三〇	二五・三〇	一〇〇	八・三三	七・五三	九・一五七	八・三三	一〇三	二五・七	八・六三	二・九
朝生種	八・三〇	一・四九	三九・四六	二四・七〇	二四・七〇	二四・七〇	二四・七〇	一〇〇	七・五三	七・五三	八・〇六九	七・五三	一〇〇	二七・〇〇	八・三三	二・三
中生種	八・一八	一・四九	三九・四六	二四・七〇	二四・七〇	二四・七〇	二四・七〇	一〇〇	七・五三	七・五三	八・〇六九	七・五三	一〇〇	二七・〇〇	八・三三	二・三
松崎	八・二四	一・四三	三九・四六	二四・七〇	二四・七〇	二四・七〇	二四・七〇	一〇〇	七・五三	七・五三	八・〇六九	七・五三	一〇〇	二七・〇〇	八・三三	二・三
臺生種	八・一八	一・五二	三九・四六	二四・七〇	二四・七〇	二四・七〇	二四・七〇	一〇〇	七・五三	七・五三	八・〇六九	七・五三	一〇〇	二七・〇〇	八・三三	二・三
中吉種	八・二三	一・五二	三九・四六	二四・七〇	二四・七〇	二四・七〇	二四・七〇	一〇〇	七・五三	七・五三	八・〇六九	七・五三	一〇〇	二七・〇〇	八・三三	二・三
臺生種	八・二四	一・四三	三九・四六	二四・七〇	二四・七〇	二四・七〇	二四・七〇	一〇〇	七・五三	七・五三	八・〇六九	七・五三	一〇〇	二七・〇〇	八・三三	二・三

三 俱知安試作場試験成績

自昭和十二年
至同十四年

品種名	收穫期	草丈	莖數	昭和十二年	昭和十三年	昭和十四年	平均	割合	昭和十二年	昭和十三年	昭和十四年	平均	割合	乾燥率	生草	乾草
早生白種	八・七	九・七	三三	二二・四七	二二・四七	二二・四七	二二・四七	一〇〇	五・三七	五・〇三	五・〇三	五・〇三	一〇〇	二一・四〇	三・七四	八・〇
臺生種	八・三	一一・一	二二	二二・四七	二二・四七	二二・四七	二二・四七	一〇〇	五・三七	五・〇三	五・〇三	五・〇三	一〇〇	二一・四〇	三・七四	八・〇
松崎	八・三	一一・一	二二	二二・四七	二二・四七	二二・四七	二二・四七	一〇〇	五・三七	五・〇三	五・〇三	五・〇三	一〇〇	二一・四〇	三・七四	八・〇
臺生種	八・三	一一・一	二二	二二・四七	二二・四七	二二・四七	二二・四七	一〇〇	五・三七	五・〇三	五・〇三	五・〇三	一〇〇	二一・四〇	三・七四	八・〇
中生白種	八・七	一〇・九	三三	二二・四七	二二・四七	二二・四七	二二・四七	一〇〇	五・三七	五・〇三	五・〇三	五・〇三	一〇〇	二一・四〇	三・七四	八・〇
晚生白種	八・七	一〇・九	三三	二二・四七	二二・四七	二二・四七	二二・四七	一〇〇	五・三七	五・〇三	五・〇三	五・〇三	一〇〇	二一・四〇	三・七四	八・〇
末吉種	八・二五	一〇・〇	三三	二二・四七	二二・四七	二二・四七	二二・四七	一〇〇	五・三七	五・〇三	五・〇三	五・〇三	一〇〇	二一・四〇	三・七四	八・〇
市次種	八・二四	一〇・〇	三三	二二・四七	二二・四七	二二・四七	二二・四七	一〇〇	五・三七	五・〇三	五・〇三	五・〇三	一〇〇	二一・四〇	三・七四	八・〇
朝鮮種	八・二四	一〇・〇	三三	二二・四七	二二・四七	二二・四七	二二・四七	一〇〇	五・三七	五・〇三	五・〇三	五・〇三	一〇〇	二一・四〇	三・七四	八・〇
朝鮮種	八・二五	一〇・〇	三三	二二・四七	二二・四七	二二・四七	二二・四七	一〇〇	五・三七	五・〇三	五・〇三	五・〇三	一〇〇	二一・四〇	三・七四	八・〇
滿洲	八・二七	一〇・八	三三	二二・四七	二二・四七	二二・四七	二二・四七	一〇〇	五・三七	五・〇三	五・〇三	五・〇三	一〇〇	二一・四〇	三・七四	八・〇

品種名	收穫期	草丈	莖數	昭		平均	割合量	昭	同	平均	割合量	昭	同	平均	割合量	乾燥率	反當
				十二年	十三年												
早生白種	八月五日	一五七	二九	四四、六七	四四、六七	二七、三五	一〇〇	五九、〇〇	七三、三五	八、九三〇	一〇〇	三三、四〇	七九	二六	三三	七九	二六
臺灣	八月五日	一五七	二九	四四、六七	四四、六七	二七、三五	一〇〇	五九、〇〇	七三、三五	八、九三〇	一〇〇	三三、四〇	七九	二六	三三	七九	二六
松崎	八月五日	一四八	二五	四六、六七	四六、六七	二七、三五	一〇〇	五九、〇〇	七三、三五	八、九三〇	一〇〇	三三、四〇	七九	二六	三三	七九	二六
末吉滿洲	八月五日	一五五	二五	五〇、八三	五〇、八三	二七、三五	一〇〇	五九、〇〇	七三、三五	八、九三〇	一〇〇	三三、四〇	七九	二六	三三	七九	二六
朝吉鮮	八月五日	一五九	二四	四九、六七	四九、六七	二七、三五	一〇〇	五九、〇〇	七三、三五	八、九三〇	一〇〇	三三、四〇	七九	二六	三三	七九	二六
中生白種	八月五日	一四四	二五	四六、二二	四六、二二	二七、三五	一〇〇	五九、〇〇	七三、三五	八、九三〇	一〇〇	三三、四〇	七九	二六	三三	七九	二六
早生白種(本場)	八月八日	一三三	二四	四三、五〇	四三、五〇	二七、三五	一〇〇	五九、〇〇	七三、三五	八、九三〇	一〇〇	三三、四〇	七九	二六	三三	七九	二六
早生白種(甲)	八月八日	一六八	二四	三八、二五〇	三八、二五〇	二七、三五	一〇〇	五九、〇〇	七三、三五	八、九三〇	一〇〇	三三、四〇	七九	二六	三三	七九	二六
早生白種(乙)	八月八日	一三六	二四	四〇、一五〇	四〇、一五〇	二七、三五	一〇〇	五九、〇〇	七三、三五	八、九三〇	一〇〇	三三、四〇	七九	二六	三三	七九	二六
同	八月八日	一三二	二四	四一、八五〇	四一、八五〇	二七、三五	一〇〇	五九、〇〇	七三、三五	八、九三〇	一〇〇	三三、四〇	七九	二六	三三	七九	二六

四 瀬棚試作場試験成績 自昭和十二年 至同十四年

品種名	收穫期	草丈	莖數	昭		平均	割合量	昭	同	平均	割合量	乾燥率	反當	
				十二年	十三年									十二年
早生白種	八月八日	一三三	二四	四三、五〇	四三、五〇	二七、三五	一〇〇	五九、〇〇	七三、三五	八、九三〇	一〇〇	三三、四〇	七九	二六
早生白種(本場)	八月八日	一六八	二四	三八、二五〇	三八、二五〇	二七、三五	一〇〇	五九、〇〇	七三、三五	八、九三〇	一〇〇	三三、四〇	七九	二六
早生白種(甲)	八月八日	一三六	二四	四〇、一五〇	四〇、一五〇	二七、三五	一〇〇	五九、〇〇	七三、三五	八、九三〇	一〇〇	三三、四〇	七九	二六
早生白種(乙)	八月八日	一三二	二四	四一、八五〇	四一、八五〇	二七、三五	一〇〇	五九、〇〇	七三、三五	八、九三〇	一〇〇	三三、四〇	七九	二六
同	八月八日	一三二	二四	四一、八五〇	四一、八五〇	二七、三五	一〇〇	五九、〇〇	七三、三五	八、九三〇	一〇〇	三三、四〇	七九	二六

品種名	收穫期	草丈	莖數	昭		平均	割合量	昭	同	平均	割合量	乾燥率	反當	
				十二年	十三年									十二年
松崎	八月三日	一三九	三八	四一、八五〇	四一、八五〇	二七、三五	一〇〇	五九、〇〇	七三、三五	八、九三〇	一〇〇	三三、四〇	七九	二六
中生	八月二日	一三四	三三	四三、〇〇〇	四三、〇〇〇	二七、三五	一〇〇	五九、〇〇	七三、三五	八、九三〇	一〇〇	三三、四〇	七九	二六
臺灣	八月八日	一三二	三四	三八、〇〇〇	三八、〇〇〇	二七、三五	一〇〇	五九、〇〇	七三、三五	八、九三〇	一〇〇	三三、四〇	七九	二六
嘉次郎	八月九日	一七一	三三	四四、二五〇	四四、二五〇	二七、三五	一〇〇	五九、〇〇	七三、三五	八、九三〇	一〇〇	三三、四〇	七九	二六
末吉鮮	八月九日	一九一	一九	三七、〇〇〇	三七、〇〇〇	二七、三五	一〇〇	五九、〇〇	七三、三五	八、九三〇	一〇〇	三三、四〇	七九	二六
末吉滿洲	八月九日	一九三	二二	三六、五五〇	三六、五五〇	二七、三五	一〇〇	五九、〇〇	七三、三五	八、九三〇	一〇〇	三三、四〇	七九	二六
市岡	八月九日	一七五	二二	四〇、四五〇	四〇、四五〇	二七、三五	一〇〇	五九、〇〇	七三、三五	八、九三〇	一〇〇	三三、四〇	七九	二六
朝鮮	八月九日	一七五	二二	四〇、四五〇	四〇、四五〇	二七、三五	一〇〇	五九、〇〇	七三、三五	八、九三〇	一〇〇	三三、四〇	七九	二六
早生紫	八月九日	一七一	二二	三七、二〇〇	三七、二〇〇	二七、三五	一〇〇	五九、〇〇	七三、三五	八、九三〇	一〇〇	三三、四〇	七九	二六

三 飼料用胡蘿蔔品種選抜試験成績

各場に於ける飼料用胡蘿蔔品種選抜試験の成績に據れば、本場、根室支場及釧路試作場を除く各試験機關の成績は「マツチレスホワイトベルヂアン」收量多く、良好なる品種と認め、本場及根室支場に於ては「ベルギー大白」、釧路試作場に於ては「ラージレッドキヤトル」良好なる成績を示せり。又「パースニツプ」は菜根收量少なきも、乾物量の生産多く、飼料として好適するを認めたり。其の成績左の如し

一 本場試験成績 自昭和十二年 至同十四年

品種名	收穫期	草丈	葉		根周	露出歩合	根形	長さ	露出皮色	地下部肉色
			生葉	枯葉						
ベルギー大白	一月二四日	四二	一四枚	九枚	一七	二九	圓錐	三八	綠	白

(一) 特性調査

三 俱知安試作場試験成績

自昭和十二年
至同十四年

品名	收穫期	草丈	葉數	根周	隔年當菜根收量				平均	割收量	各年菜根の平均	隔年當菜根重量	反當菜根收量
					十二年	十三年	十四年	平均					
ベルギー大白	10/23	77	22	16	195.6	174.0	163.6	177.7	100	100	64.6	44.4	
マツチレスホワイト	10/23	73	22	16	195.6	174.0	163.6	177.7	100	100	64.6	44.4	
エローインターメヂエイト	10/23	73	22	16	195.6	174.0	163.6	177.7	100	100	64.6	44.4	
ザヤイアントホワイト	10/23	73	22	16	195.6	174.0	163.6	177.7	100	100	64.6	44.4	
ハンドレッドトシ	10/23	73	22	16	195.6	174.0	163.6	177.7	100	100	64.6	44.4	
札幌太人	10/23	73	22	16	195.6	174.0	163.6	177.7	100	100	64.6	44.4	
マクナムホーナム	10/23	73	22	16	195.6	174.0	163.6	177.7	100	100	64.6	44.4	
インブルーアドレッド	10/23	73	22	16	195.6	174.0	163.6	177.7	100	100	64.6	44.4	
オレンヂヤイアント	10/23	73	22	16	195.6	174.0	163.6	177.7	100	100	64.6	44.4	
ライジレッドキヤトル	10/23	73	22	16	195.6	174.0	163.6	177.7	100	100	64.6	44.4	
パースニツブ	10/23	73	22	16	195.6	174.0	163.6	177.7	100	100	64.6	44.4	

四 美深試作場試験成績

自昭和十二年
至同十四年

品名	收穫期	草丈	葉數	根周	隔年當菜根收量				平均	割收量	各年菜根の平均	隔年當菜根重量	反當菜根收量
					十二年	十三年	十四年	平均					
ベルギー大白	10/25	40	10	10	36.6	36.6	36.6	36.6	100	100	6.6	9.6	
マツチレスホワイト	10/25	40	10	10	36.6	36.6	36.6	36.6	100	100	6.6	9.6	
マクナムホーナム	10/25	40	10	10	36.6	36.6	36.6	36.6	100	100	6.6	9.6	
エローインターメヂエイト	10/25	40	10	10	36.6	36.6	36.6	36.6	100	100	6.6	9.6	

品名	收穫期	草丈	葉數	根周	隔年當菜根收量				平均	割收量	各年菜根の平均	隔年當菜根重量	反當菜根收量
					十二年	十三年	十四年	平均					
ザヤイアントホワイト	10/25	41	14	14	43.5	37.6	8.7	40.5	111	111	8.9	1.7	
オレンヂヤイアント	10/25	38	13	13	36.0	40.2	1.5	38.8	83	83	4.6	9.5	
ハンドレッドトシ	10/25	38	11	11	37.0	40.2	2.2	38.8	116	116	7.8	1.7	
札幌太人	10/25	33	8	8	36.1	30.7	2.6	33.4	73	73	2.5	5.7	
ライジレッドキヤトル	10/25	37	10	10	36.1	30.7	2.6	33.4	91	91	4.4	8.3	
インブルーアドレッド	10/25	41	10	10	36.1	30.7	2.6	33.4	72	72	4.3	8.3	
パースニツブ	10/25	56	5	5	15.8	3.7	3.1	16.8	37	37	6.5	4.8	

備考 昭和十四年は旱害の爲平均より除く。

五 天鹽試作場試験成績

自昭和十二年
至同十四年

品名	收穫期	草丈	葉數	根周	隔年當菜根收量				平均	割收量	各年菜根の平均	隔年當菜根重量	反當菜根收量
					十二年	十三年	十四年	平均					
ベルギー大白	10/24	49	10	10	25.1	44.9	1.3	35.0	100	100	7.2	9.5	
マツチレスホワイト	10/24	51	10	10	25.1	44.9	1.3	35.0	100	100	7.2	9.5	
マクナムホーナム	10/24	27	10	10	27.5	44.0	0.9	35.8	118	118	9.6	1.0	
エローインターメヂエイト	10/24	39	11	11	29.5	46.8	1.1	38.1	100	100	9.7	1.0	
ザヤイアントホワイト	10/24	41	9	9	26.3	43.4	1.2	34.8	99	99	7.8	9.2	
オレンヂヤイアント	10/24	40	12	12	30.6	49.5	1.5	37.9	103	103	8.2	9.4	
ハンドレッドトシ	10/24	49	10	10	30.4	44.9	1.4	37.6	108	108	8.9	9.5	
札幌太人	10/24	57	10	10	26.7	44.0	1.1	35.4	91	91	8.9	9.5	
インブルーアドレッド	10/24	45	10	10	27.8	47.1	1.2	37.4	101	101	8.9	9.5	
ライジレッドキヤトル	10/24	20	10	10	26.9	44.0	1.1	35.4	89	89	8.1	8.9	
パースニツブ	10/24	57	7	7	23.4	34.0	1.1	28.7	64	64	11.5	5.9	

備考 昭和十四年は發芽不良の爲平均より除く。

六 釧路試作場試験成績

品名	收穫期	草丈	葉數		根周	同當葉根收量		平均	收割當量	反當葉根收量
			生葉	枯葉		十二年	十三年			
ベルギー大白	10月24日	32	12	1	15	13	107	181	100	296
マツチレスホワイト	10月24日	27	6	1	15	12	107	136	73	178
ベルザアン	10月24日	27	6	1	15	12	107	136	73	178
マダナムホーナム	10月23日	55	13	1	12	11	86	65	125	359
オレンヂヤイアント	10月23日	23	5	1	17	13	86	65	125	359
ハンドレッドト	10月23日	30	3	1	15	12	107	136	73	178
イヤントウイルト	10月24日	26	8	1	15	12	107	136	73	178
シヤホワイ	10月24日	26	8	1	15	12	107	136	73	178
エロイメ	10月24日	22	1	1	16	12	76	65	125	359
メヂエ	10月24日	26	1	1	16	12	76	65	125	359
ラージュレットキヤトル	10月23日	26	5	1	18	13	107	136	73	178
パースニツ	10月23日	75	4	1	18	13	107	136	73	178
パースニツ	10月23日	75	4	1	18	13	107	136	73	178
札幌太人	10月24日	43	2	1	15	12	107	136	73	178
インブルードレッド	10月23日	25	6	1	14	9	138	99	106	170
インターメヂエ	10月23日	25	6	1	14	9	138	99	106	170

七 稚内試作場試験成績

品名	收穫期	草丈	葉數	同當葉根收量		平均	收割當量	反當葉根收量
				十二年	十三年			
ベルギー大白	10月28日	33	6	2793	1923	2337	407	617
マツチレスホワイト	10月28日	30	7	2793	1923	2337	407	617
ベルザアン	10月28日	27	7	2793	1923	2337	407	617
マダナムホーナム	10月28日	28	5	2793	1923	2337	407	617
オレンヂヤイアント	10月28日	28	5	2793	1923	2337	407	617
ハンドレッドト	10月28日	33	9	2793	1923	2337	407	617
イヤントウイルト	10月28日	33	9	2793	1923	2337	407	617
シヤホワイ	10月28日	33	9	2793	1923	2337	407	617
エロイメ	10月28日	33	9	2793	1923	2337	407	617
メヂエ	10月28日	33	9	2793	1923	2337	407	617
ラージュレットキヤトル	10月28日	33	9	2793	1923	2337	407	617
パースニツ	10月28日	33	9	2793	1923	2337	407	617
パースニツ	10月28日	33	9	2793	1923	2337	407	617
札幌太人	10月28日	33	9	2793	1923	2337	407	617
インブルードレッド	10月28日	33	9	2793	1923	2337	407	617
インターメヂエ	10月28日	33	9	2793	1923	2337	407	617

八 早來火山灰地試験地試験成績

品名	收穫期	草丈	葉數	同當葉根收量		平均	收割當量	反當葉根收量
				十二年	十三年			
ベルギー大白	10月22日	53	27	2435	4190	3313	100	875
マツチレスホワイト	10月22日	53	27	2435	4190	3313	100	875
ベルザアン	10月22日	53	27	2435	4190	3313	100	875
マダナムホーナム	10月22日	41	22	2435	4190	3313	100	875
エロイメ	10月22日	38	27	2435	4190	3313	100	875
イヤントウイルト	10月22日	42	26	2435	4190	3313	100	875
シヤホワイ	10月22日	42	26	2435	4190	3313	100	875
オレンヂヤイアント	10月22日	44	25	2435	4190	3313	100	875
ハンドレッドト	10月22日	48	26	2435	4190	3313	100	875
イヤントウイルト	10月22日	48	26	2435	4190	3313	100	875
シヤホワイ	10月22日	48	26	2435	4190	3313	100	875
エロイメ	10月22日	48	26	2435	4190	3313	100	875
メヂエ	10月22日	48	26	2435	4190	3313	100	875
ラージュレットキヤトル	10月22日	50	23	2435	4190	3313	100	875
パースニツ	10月22日	55	23	2435	4190	3313	100	875
パースニツ	10月22日	55	23	2435	4190	3313	100	875
札幌太人	10月22日	55	23	2435	4190	3313	100	875
インブルードレッド	10月22日	56	20	2435	4190	3313	100	875
インターメヂエ	10月22日	56	20	2435	4190	3313	100	875

パースニツブ	一〇、一五	七五	八枚	三二、三六	二〇、七五	二一、五八	六五	六七三	五六九
--------	-------	----	----	-------	-------	-------	----	-----	-----

(三) ケール適否試験成績

各地試験機關に於ける適否試験の成績に據れば、美唄泥炭地試験地を除き、相當の收量を擧げ得るを認めたり。尙本場、十勝、根室、渡島支場及俱知安、天鹽試作場の成績に據れば、全植物を利用する場合には「マローステムケール」比較的良好にして、釧路試作場及早來火山灰地試験地の成績に據れば、養鶏飼料として時々採葉して給與する場合には「シーブケール」を可とするを認めたり。其の成績左の如し

一 本場試験成績 自昭和十二年 至同十四年

品 種 名	收 穫 期	草 丈	葉 数	随 當 生 草 收 量				随 當 乾 草 收 量									
				昭	和	十	十	昭	和	十	十						
				二	三	三	四	三	四	三	四						
マローステムケール	一〇、二三	一三九	一七	七、五九	三、五九	一〇〇	七、九四	一〇〇	七、七九	一五、三	一、〇九	一、五二	二、〇	四、二	一、五九	一、〇	二、〇
インブアブサウザ	一〇、二三	一三三	二〇	五、四三	三、六八	一〇〇	八、五五	一〇〇	八、五五	一八、五	一、〇九	一、八	二、〇	四、二	一、八	一、〇	二、〇
シーブケール	一〇、二三	七一	一七	三、〇九	二、〇八	一〇〇	五、九二	一〇〇	六、二九	一〇、三	一、〇	一、五	二、〇	三、〇	一、五	一、〇	二、〇
マローステムケール	一〇、二三	一三三	一七	五、〇四	三、七七	一〇〇	八、〇八	一〇〇	八、〇八	一〇、三	一、〇	一、五	二、〇	三、〇	一、五	一、〇	二、〇
マローステムケール	一〇、二三	一三三	一七	五、〇四	三、七七	一〇〇	八、〇八	一〇〇	八、〇八	一〇、三	一、〇	一、五	二、〇	三、〇	一、五	一、〇	二、〇
マローステムケール	一〇、二三	一三三	一七	五、〇四	三、七七	一〇〇	八、〇八	一〇〇	八、〇八	一〇、三	一、〇	一、五	二、〇	三、〇	一、五	一、〇	二、〇
マローステムケール	一〇、二三	一三三	一七	五、〇四	三、七七	一〇〇	八、〇八	一〇〇	八、〇八	一〇、三	一、〇	一、五	二、〇	三、〇	一、五	一、〇	二、〇
マローステムケール	一〇、二三	一三三	一七	五、〇四	三、七七	一〇〇	八、〇八	一〇〇	八、〇八	一〇、三	一、〇	一、五	二、〇	三、〇	一、五	一、〇	二、〇
マローステムケール	一〇、二三	一三三	一七	五、〇四	三、七七	一〇〇	八、〇八	一〇〇	八、〇八	一〇、三	一、〇	一、五	二、〇	三、〇	一、五	一、〇	二、〇

レ	九、三	一〇、二六	一	五、七〇〇	二、九二	四、〇八	六	三、八四	五、八四	六	一、七五	一、〇九	一〇	一
---	-----	-------	---	-------	------	------	---	------	------	---	------	------	----	---

二 十勝支場試験成績

品 種 名	收 穫 期	草 丈	葉 数	随 當 生 草 收 量				随 當 乾 草 收 量									
				昭	和	十	十	昭	和	十	十						
マローステムケール	一〇、九	一四三	二二	六、一五	四、八五	一〇〇	六、九一	一〇〇	六、九一	一六、四	一、二四	一、九	二、九〇	一、二四	一、二九	一、二九	九、二九
インブアブサウザ	一〇、九	一三四	一七	四、八五	三、五〇	一〇〇	五、一三	一〇〇	五、一三	一四、九	一、四九	一、四九	一、四九	一、四九	一、四九	一、四九	一、四九
シーブケール	一〇、九	七九	一四	三、七九	二、〇〇	一〇〇	四、二〇	一〇〇	四、二〇	一〇、九	一、〇九	一、〇九	一、〇九	一、〇九	一、〇九	一、〇九	一、〇九
マローステムケール	一〇、九	一四八	二〇	五、六〇	四、二〇	一〇〇	六、七三	一〇〇	六、七三	一四、九	一、四九	一、四九	一、四九	一、四九	一、四九	一、四九	一、四九
マローステムケール	一〇、九	一四〇	一七	五、七五	四、二〇	一〇〇	六、六六	一〇〇	六、六六	一四、九	一、四九	一、四九	一、四九	一、四九	一、四九	一、四九	一、四九
マローステムケール	一〇、九	一四〇	一七	五、七五	四、二〇	一〇〇	六、六六	一〇〇	六、六六	一四、九	一、四九	一、四九	一、四九	一、四九	一、四九	一、四九	一、四九
マローステムケール	一〇、九	一四〇	一七	五、七五	四、二〇	一〇〇	六、六六	一〇〇	六、六六	一四、九	一、四九	一、四九	一、四九	一、四九	一、四九	一、四九	一、四九
マローステムケール	一〇、九	一四〇	一七	五、七五	四、二〇	一〇〇	六、六六	一〇〇	六、六六	一四、九	一、四九	一、四九	一、四九	一、四九	一、四九	一、四九	一、四九
マローステムケール	一〇、九	一四〇	一七	五、七五	四、二〇	一〇〇	六、六六	一〇〇	六、六六	一四、九	一、四九	一、四九	一、四九	一、四九	一、四九	一、四九	一、四九
マローステムケール	一〇、九	一四〇	一七	五、七五	四、二〇	一〇〇	六、六六	一〇〇	六、六六	一四、九	一、四九	一、四九	一、四九	一、四九	一、四九	一、四九	一、四九
マローステムケール	一〇、九	一四〇	一七	五、七五	四、二〇	一〇〇	六、六六	一〇〇	六、六六	一四、九	一、四九	一、四九	一、四九	一、四九	一、四九	一、四九	一、四九

三 根室支場試験成績

品 種 名	收 穫 期	草 丈	葉 数	随 當 生 草 收 量				随 當 乾 草 收 量									
				昭	和	十	十	昭	和	十	十						
マローステムケール	一〇、二六	八六	一四	一、九	一、五	一〇〇	一、九	一、五	一〇〇	一、七	一、〇	一、七	一、〇	一、七	一、〇	一、七	一、〇
インブアブサウザ	一〇、二六	七五	一三	一、三	一、一	一〇〇	一、三	一、一	一〇〇	一、七	一、〇	一、七	一、〇	一、七	一、〇	一、七	一、〇
シーブケール	一〇、二六	六三	一五	一、一	一、〇	一〇〇	一、一	一、〇	一〇〇	一、七	一、〇	一、七	一、〇	一、七	一、〇	一、七	一、〇
マローステムケール	一〇、二六	八二	一三	一、五	一、一	一〇〇	一、五	一、一	一〇〇	一、七	一、〇	一、七	一、〇	一、七	一、〇	一、七	一、〇
マローステムケール	一〇、二六	八二	一三	一、五	一、一	一〇〇	一、五	一、一	一〇〇	一、七	一、〇	一、七	一、〇	一、七	一、〇	一、七	一、〇
マローステムケール	一〇、二六	八二	一三	一、五	一、一	一〇〇	一、五	一、一	一〇〇	一、七	一、〇	一、七	一、〇	一、七	一、〇	一、七	一、〇
マローステムケール	一〇、二六	八二	一三	一、五	一、一	一〇〇	一、五	一、一	一〇〇	一、七	一、〇	一、七	一、〇	一、七	一、〇	一、七	一、〇
マローステムケール	一〇、二六	八二	一三	一、五	一、一	一〇〇	一、五	一、一	一〇〇	一、七	一、〇	一、七	一、〇	一、七	一、〇	一、七	一、〇
マローステムケール	一〇、二六	八二	一三	一、五	一、一	一〇〇	一、五	一、一	一〇〇	一、七	一、〇	一、七	一、〇	一、七	一、〇	一、七	一、〇
マローステムケール	一〇、二六	八二	一三	一、五	一、一	一〇〇	一、五	一、一	一〇〇	一、七	一、〇	一、七	一、〇	一、七	一、〇	一、七	一、〇

七九

四 渡島支場試験成績 昭和十二年

品 種 名	收穫期	草 丈	葉 數	陌當生草收量	收量割合	乾 燥 率	草反當量
エンノールドサウザ	九月廿六日	七八	一二	一二八七〇	六六	—	三四〇
ハンドヘットケール	九月廿六日	七七	一四	一四六三一	七五	—	三八六
ギヤツブケール	九月廿六日	七九	一四	七三二五	三七	—	一九三
龍 舌 菜	九月廿六日	—	—	—	—	—	—

五 俱知安試作場試験成績 自昭和十二年 至同十四年

品 種 名	收穫期	草 丈	葉 數	陌當生草收量	收量割合	乾 燥 率	草反當量
マローステムケール	十月廿三日	二二八	八	五九四七八	一〇〇	一二九	一五七〇
インノールドサウザ	十月廿三日	一〇七	一二	三五〇九二	五九	一七六	九二六
シノブケール	十月廿三日	七一	一〇	二七三六〇	四六	二〇〇	七三二
エンノールドサウザ	十月廿三日	一一一	一〇	五八八八四	九九	一四〇	一五五五
マローステムケール	十月廿三日	一一一	一〇	六二八五七	一〇四	一〇〇	一六三三
エンノールドサウザ	十月廿三日	一一三	一〇	四三三三〇	七一	一六五	一一一五
マローステムケール	十月廿三日	一一三	一〇	二六七六五	四五	一八八	七〇七
エンノールドサウザ	十月廿三日	一七七	四	三六二八二	六	一八二	九五八
龍 舌 菜	—	—	—	—	—	—	—

六 天鹽試作場試験成績 昭和十二年

品 種 名	收穫期	草 丈	葉 數	陌當生草收量	收量割合	乾 燥 率	草反當量
インノールドサウザ	九月廿九日	七一	三	二二七三三	三三〇四二	八六	八四六
シノブケール	九月廿九日	四九	一	一七〇二八	二三五八二	六三	六二三
龍 舌 菜	九月廿九日	六六	—	四〇〇二五	一〇〇一三	五二	五〇二

七 美唄泥炭地試験成績 昭和十二年

品 種 名	收穫期	草 丈	葉 數	陌當生草收量	收量割合	乾 燥 率	草反當量
マローステムケール	九月廿九日	一一〇	一三	四四三三〇	一〇〇	二九〇	一、二七五
インノールドサウザ	九月廿九日	九二	一四	二八九〇〇	六五	四一三	七六三
シノブケール	九月廿九日	六〇	一四	四五八五〇	一〇三	六二八	一一二〇

八 釧路試作場試験成績 昭和十二年

品 種 名	收穫期	草 丈	葉 數	陌當生草收量	收量割合	乾 燥 率	草反當量
マローステムケール	八月廿八日	一一一	一四	一、一五〇〇	一〇〇	一〇〇	三〇四
インノールドサウザ	八月廿八日	九二	一四	七、七〇〇	六七	六七	二〇三
シノブケール	八月廿八日	六八	一四	五、五〇〇	四八	四八	一四五

八 釧路試作場試験成績 昭和十二年

品 種 名	收穫期	草 丈	葉 數	陌當生草收量	收量割合	乾 燥 率	草反當量
マローステムケール	八月廿八日	一一一	一四	一、一五〇〇	一〇〇	一〇〇	三〇四
インノールドサウザ	八月廿八日	九二	一四	七、七〇〇	六七	六七	二〇三
シノブケール	八月廿八日	六八	一四	五、五〇〇	四八	四八	一四五

インブルードサウザ ンドヘットケール シーブケール 龍舌菜	八月八日	八月八日	八月八日	八月八日	八月八日	八月八日	八月八日	八月八日	八月八日
	一、一、一八	一、一、一八	一、一、一八	一、一、一八	一、一、一八	一、一、一八	一、一、一八	一、一、一八	一、一、一八

備考 収量は葉の部分のみなり。

九 早来火山灰地試験地試験成績

昭和十二年

品 種 名	收 穫 期			草 丈 葉 數	草 隔 收 當 生 量	收 割 合 割	草 反 收 當 生 量
	一 同	二 同	三 同				
マローステムケール	八月九日	八月九日	八月九日	一二五	二四、四四八	一〇〇	六四五
インブルードサウザ	八月九日	八月九日	八月九日	一二四	二六、六四八	一〇九	七〇四
シーブケール	八月九日	八月九日	八月九日	一二三	二六、六四八	一〇九	七〇四
シードケール	八月九日	八月九日	八月九日	一二二	二六、六四八	一〇八	七〇四

備考 収量は葉の部分のみなり。

(三) ライマ青刈試験成績

俱知安試作場に於て早春の青刈飼料として秋播ライマの利用に就き試験せる成績に據れば、播種法は條播、撒播孰れも其の土地氣候により一様に論じ難きも、撒播は條播に比し草丈稍劣り、氣候濕潤時は撒播の青刈収量稍多きも乾燥時は條播に比し概して劣る傾向あるを認めたり。尙、青刈後再發育せるものより子實の收穫を望む場合は、六月十日刈の際地上一寸上刈を行ふを最も有利とするも、子實収量僅少ななるを以て直に耕鋤し跡地の利用を図るの有利なるを認めたり。其の成績左の如し

俱知安試作場試験成績

自昭和十三年
至同十四年

(一) 生育調査

試 驗 區 別	發 芽 期		起 生 期		播 種 後		草 丈		播 種 後		數
	地 際 刈	地 上 一 寸 上 刈	地 際 刈	地 上 一 寸 上 刈	四 五 日 目	十 一 日 目	十 日 目	十 六 日 目	四 五 日 目	十 一 日 目	
條 播 せる もの	九、九	九、九	五、六	五、六	七、二	七、六	一〇、五	一〇、六	八、四	八、四	一、七
撒 播 せる もの	九、一	九、一	五、六	五、六	七、二	七、六	一〇、五	一〇、六	八、四	八、四	一、七
平均	九、二	九、二	五、六	五、六	七、二	七、六	一〇、五	一〇、六	八、四	八、四	一、七

(二) 青刈収量調査

試 驗 區 別	五月三十日		六 月 十 日		六 月 二 十 日		平均	平均	
	地 際 刈	地 上 一 寸 上 刈	地 際 刈	地 上 一 寸 上 刈	地 際 刈	地 上 一 寸 上 刈		割 合	歩 合
條 播 せる もの	一九、七	一九、七	二〇、八	二〇、八	二〇、八	二〇、八	八二	一〇〇	
撒 播 せる もの	七、四	七、四	八、五	八、五	八、五	八、五	八二	一〇〇	
平均	一三、五	一三、五	一四、六	一四、六	一四、六	一四、六	八二	一〇〇	

(三) 子實収量調査

試 驗 區 別	五 月 三 十 一 日 刈		六 月 十 日 刈		六 月 二 十 日 刈		摘 要
	地 際 刈	地 上 一 寸 上 刈	地 際 刈	地 上 一 寸 上 刈	地 際 刈	地 上 一 寸 上 刈	
條 播 せる もの	七、五	七、五	一、三	一、三	一、九	一、九	收穫期八月二十七日
撒 播 せる もの	一、三	一、三	五、六	五、六	五、六	五、六	
平均	四、四	四、四	三、四	三、四	三、八	三、八	

撒播せるもの	地上一寸刈	一五〇	三八	五八
備考				
降水量	五	昭和三十二年	一六六・〇耗	
		昭和三十四年	七〇・六耗	
		昭和三十四年	二五・四耗	
		昭和三十四年	三三・八耗	

(四) 牧草播種期節試験成績

幸震高丘地試験地に於てチモシーの播種適期を査定せんが爲施行せる試験成績に據れば、チモシーを單播する場合春季播種せるものは、當りては播種を擧げ得るも、時により風害又は旱害、其の他の故障あるを以て、土地利用上より見て夏收作物跡地を利用し播種するときは前記の如き障碍なく、極めて經濟的にして秋季播種の得策なるを認めたり。尙、其の播種は九月中旬を以て限度とするの有利なるを認めたり。

鋼路試作場に於てチモシー及赤クロローバーに就き播種の適期を査定せんが爲行ひたる試験成績に據れば、チモシー及赤クロローバーの兩種は共に五月十五日以降六月十五日迄に播種せるものは收量並に品質に大なる差異を認めざるも、早播のもの程收量優り、特に赤クロローバーはチモシーに比し播種期遅延するに伴ひ冬損歩合多く、随つて減收率大なる傾向あり。則ち鋼路地方の如き特殊氣候地帯にありてはチモシーは八月下旬迄播種し得るも、適期は六月中旬迄にして、赤クロローバーは早播を有利とするものにして、遅くも六月中旬迄に播種するを得策と認めたり。其の成績左の如し

一 幸震高丘地試験地試験成績

自昭和十年至同十四年

試験區別	播種初年				播種二年				播種三年			
	出穂期	開花期	成熟期	草丈	出穂期	開花期	成熟期	草丈	出穂期	開花期	成熟期	草丈
五月 上旬	④ 七二五	④ 七三六	④ 八三三	④ 八五八	② 六二八	② 七二四	② 八二二	② 七〇〇	② 七二二	② 七二七	② 八一九	② 八四三
五月 中旬	④ 七三〇	④ 八三四	④ 九四四	④ 八四六	② 六二七	② 七二四	② 八二二	② 七〇〇	② 七二二	② 七二七	② 八一九	② 八四三
五月 下旬	④ 八二二	④ 八三三	④ 九三六	④ 八五五	② 六二七	② 七二四	② 八二二	② 七〇〇	② 七二二	② 七二七	② 八一九	② 八四三
六月 上旬	③ 八二三	③ 八三七	③ 一〇一	③ 五九五	② 六二六	② 七二四	② 八二二	② 七〇〇	② 七二二	② 七二七	② 八一九	② 八四三
六月 中旬	③ 八二四	③ 九一	③ 一〇五	③ 五〇五	② 六二六	② 七二四	② 八二二	② 七〇〇	② 七二二	② 七二七	② 八一九	② 八四三
六月 下旬	① 八三四	① 九七	① 一〇五	① 四九	② 六二六	② 七二四	② 八二二	② 七〇〇	② 七二二	② 七二七	② 八一九	② 八四三
七月 上旬					② 六二六	② 七二四	② 八二二	② 七〇〇	② 七二二	② 七二七	② 八一九	② 八四三
七月 中旬					② 六二六	② 七二四	② 八二二	② 七〇〇	② 七二二	② 七二七	② 八一九	② 八四三
七月 下旬					② 六二六	② 七二四	② 八二二	② 七〇〇	② 七二二	② 七二七	② 八一九	② 八四三
八月 上旬					② 六二六	② 七二四	② 八二二	② 七〇〇	② 七二二	② 七二七	② 八一九	② 八四三
八月 中旬					② 六二六	② 七二四	② 八二二	② 七〇〇	② 七二二	② 七二七	② 八一九	② 八四三
八月 下旬					② 六二六	② 七二四	② 八二二	② 七〇〇	② 七二二	② 七二七	② 八一九	② 八四三
九月 上旬					② 六二六	② 七二四	② 八二二	② 七〇〇	② 七二二	② 七二七	② 八一九	② 八四三
九月 中旬					② 六二六	② 七二四	② 八二二	② 七〇〇	② 七二二	② 七二七	② 八一九	② 八四三
九月 下旬					② 六二六	② 七二四	② 八二二	② 七〇〇	② 七二二	② 七二七	② 八一九	② 八四三
十月 上旬					② 六二六	② 七二四	② 八二二	② 七〇〇	② 七二二	② 七二七	② 八一九	② 八四三
十月 中旬					② 六二六	② 七二四	② 八二二	② 七〇〇	② 七二二	② 七二七	② 八一九	② 八四三

試験區別	播種		初年		平均	昭和十年		昭和十一年		昭和十二年		平均	昭和十三年		昭和十四年		平均	昭和十五年		昭和十六年			
	五月	六月	七月	八月		九月	十月	同	同	同	同		同	同	同	同		同	同		同	同	同
	中旬	下旬	中旬	下旬		中旬	下旬	中旬	下旬	中旬	下旬		中旬	下旬	中旬	下旬		中旬	下旬		中旬	下旬	中旬
昭十年	4,847	4,847																					
同十二年	2,254	2,254																					
同十三年	1,502	1,502																					
同十四年	4,455	4,455																					
平均	3,307	3,307																					
昭和十年	100	100																					
昭和十一年	47.5	47.5																					
昭和十二年	28.5	28.5																					
昭和十三年	28.5	28.5																					
昭和十四年	38.4	38.4																					
昭和十五年	33.3	33.3																					
昭和十六年	119.6	119.6																					

試験區別	播種		初年		平均	昭和十年		昭和十一年		昭和十二年		平均	昭和十三年		昭和十四年		平均	昭和十五年		昭和十六年			
	五月	六月	七月	八月		九月	十月	同	同	同	同		同	同	同	同		同	同		同	同	同
	中旬	下旬	中旬	下旬		中旬	下旬	中旬	下旬	中旬	下旬		中旬	下旬	中旬	下旬		中旬	下旬		中旬	下旬	中旬
昭十年	1,151	1,151																					
同十二年	1,036	1,036																					
同十三年	1,293	1,293																					
同十四年	1,036	1,036																					
平均	1,131	1,131																					
昭和十年	100	100																					
昭和十一年	89.6	89.6																					
昭和十二年	110.9	110.9																					
昭和十三年	91.6	91.6																					
昭和十四年	91.6	91.6																					
昭和十五年	119.6	119.6																					
昭和十六年	100	100																					

備考 一 陌當施肥量 堆肥三〇、〇〇〇斤 過磷酸石灰一、八七五斤 硫酸アンモニア一、八七五斤 硫酸加里七五〇斤
 二 播種二年目の昭和十三年の各區は各項共平均より除外せり。
 自昭和十二年 至同十四年

二 釧路試作場試験成績

(イ) チモシ

試験區別	期取刈	草丈	生				草當				乾				收量割合	反當收量
			昭十二年	同十三年	同十四年	平均	昭十二年	同十三年	同十四年	平均	昭十二年	同十三年	同十四年	平均		
五月十五日播	①七、三 ②八、五	一〇六三	二五、三八	四六、四九	三三、八〇	四一、〇七	四一、〇七	四一、〇七	四一、〇七	一五、九七	一四、四〇	一四、四〇	一五、一八	一〇〇	一〇〇	一、二〇九
五月三十日播	①七、三 ②八、五	一一三三	二五、一七	四九、九一	三三、八〇	四一、〇七	四一、〇七	四一、〇七	四一、〇七	一六、七九	一三、六〇	一三、六〇	一五、一八	一〇〇	一〇〇	一、二〇九
六月十五日播	①七、三 ②八、五	一〇六七	一五、六三	四一、二二	三三、八〇	四一、〇七	四一、〇七	四一、〇七	四一、〇七	一五、五七	一四、〇五	一四、〇五	一五、一八	一〇〇	一〇〇	一、二〇九
六月三十日播	①七、三 ②八、五	一〇七五	一三、六三	三八、九八	三三、八〇	四一、〇七	四一、〇七	四一、〇七	四一、〇七	一三、六七	一二、八〇	一二、八〇	一三、三三	一〇〇	一〇〇	一、二〇九
七月十五日播	①七、三 ②八、五	一〇七五	一三、六三	三八、九八	三三、八〇	四一、〇七	四一、〇七	四一、〇七	四一、〇七	一三、六七	一二、八〇	一二、八〇	一三、三三	一〇〇	一〇〇	一、二〇九
七月三十日播	①七、三 ②八、五	一〇七五	一三、六三	三八、九八	三三、八〇	四一、〇七	四一、〇七	四一、〇七	四一、〇七	一三、六七	一二、八〇	一二、八〇	一三、三三	一〇〇	一〇〇	一、二〇九
八月十五日播	①七、三 ②八、五	八二一	一、九〇	四一、六三	三三、八〇	四一、〇七	四一、〇七	四一、〇七	四一、〇七	一三、三三	一二、五九	一二、五九	一三、三三	一〇〇	一〇〇	一、二〇九
八月三十日播	①七、三 ②八、五	八二一	一、九〇	四一、六三	三三、八〇	四一、〇七	四一、〇七	四一、〇七	四一、〇七	一三、三三	一二、五九	一二、五九	一三、三三	一〇〇	一〇〇	一、二〇九
九月十五日播	①七、三 ②八、五	八七四	三、四〇	三九、〇〇	三三、八〇	四一、〇七	四一、〇七	四一、〇七	四一、〇七	一三、三三	一二、五九	一二、五九	一三、三三	一〇〇	一〇〇	一、二〇九
平均																

(ロ) 赤クローバー

試験區別	始花開	期取刈	草丈	生				草當				乾				收量割合	反當收量
				昭十二年	同十三年	同十四年	平均	昭十二年	同十三年	同十四年	平均	昭十二年	同十三年	同十四年	平均		
五月十五日播	①七、一 ②八、二	①七、三 ②九、二	九五八	二八、六八	四四、七七	三三、八〇	四一、〇七	四一、〇七	四一、〇七	一五、九七	一四、四〇	一四、四〇	一五、一八	一〇〇	一〇〇	一、二〇九	
同 三十日播	①七、一 ②八、二	①七、三 ②九、二	八八九	二六、〇〇	四三、八〇	三三、八〇	四一、〇七	四一、〇七	四一、〇七	一五、九七	一四、四〇	一四、四〇	一五、一八	一〇〇	一〇〇	一、二〇九	
六月十五日播	①七、一 ②八、二	①七、三 ②九、二	八四四	九六、〇〇	四一、〇〇	三三、八〇	四一、〇七	四一、〇七	四一、〇七	一五、九七	一四、四〇	一四、四〇	一五、一八	一〇〇	一〇〇	一、二〇九	
同 三十日播	①七、一 ②八、二	①七、三 ②九、二	八五三	七六、八	三九、八二	三三、八〇	四一、〇七	四一、〇七	四一、〇七	一五、九七	一四、四〇	一四、四〇	一五、一八	一〇〇	一〇〇	一、二〇九	
七月十五日播	①七、一 ②八、二	①七、三 ②九、二	八五三	六八、八	三九、八二	三三、八〇	四一、〇七	四一、〇七	四一、〇七	一五、九七	一四、四〇	一四、四〇	一五、一八	一〇〇	一〇〇	一、二〇九	
同 三十日播	①七、一 ②八、二	①七、三 ②九、二	八五三	七六、八	三九、八二	三三、八〇	四一、〇七	四一、〇七	四一、〇七	一五、九七	一四、四〇	一四、四〇	一五、一八	一〇〇	一〇〇	一、二〇九	
八月十五日播	①七、一 ②八、二	①七、三 ②九、二	八〇〇	四六、五〇	三五、四七	三三、八〇	四一、〇七	四一、〇七	四一、〇七	一五、九七	一四、四〇	一四、四〇	一五、一八	一〇〇	一〇〇	一、二〇九	
同 三十日播	①七、一 ②八、二	①七、三 ②九、二	七六三	三三、〇〇	二九、九八	三三、八〇	四一、〇七	四一、〇七	四一、〇七	一五、九七	一四、四〇	一四、四〇	一五、一八	一〇〇	一〇〇	一、二〇九	
九月十五日播	①七、一 ②八、二	①七、三 ②九、二	六五五	一七、八〇	二二、九八	三三、八〇	四一、〇七	四一、〇七	四一、〇七	一五、九七	一四、四〇	一四、四〇	一五、一八	一〇〇	一〇〇	一、二〇九	
平均																	

備考 一表中①は一番刈②は二番刈を示す。
二昭和十二年は播種の當年なる爲平均より除外せり。

(三) クローバー類採種時期に関する試験成績

釧路試作場に於て、赤クローバー、アルサイククローバーに就き採種の適期を確めんが爲行ひたる試験成績に據れば、赤クローバー及アルサイククローバーは兩種共に一番刈にて採種するものは、二番刈にて採種せるものに比し收量及品質共に優り、二番刈にて採種する場合は一番刈の時期遅るるに隨ひ收量及品質著しく低下し、一番刈を六月十五日以後に行ひ二番

刈にて採種せる場合は實用的價值全くなきに至るを以て、釧路地方の如き特殊氣候地帯に於ては成熟の狀稍不整の嫌あるも
一番刈にて採種するを得策と認めたり。其の成績左の如し

釧路試作場試験成績 自昭和十二年 至同十四年

(イ) 赤クローバー

試験區別	開花始	成熟期	草丈		隔當子實收量		割收量	完全歩合	隔當一 番刈生 草收量	反當子 實收量
			一番刈	二番刈	昭和十三年 同十四年	平均				
一番刈にて採種せるもの	六月三	八月一〇	一一〇.三	三九.四	九〇	八三	一〇〇	九三.〇	五三.三五	一九三
二番刈にて採種せるもの	五月三十日	八月三〇	一七.四	九.三	四〇	四七	一〇〇	八三.三	六.三五	一〇.九
二番刈にて採種せるもの	六月十五日	八月八	四三.一	九.三	三三	三三	三三	六三.四	三五.六〇	七.六
二番刈にて採種せるもの	六月三十日	八月七	六九.一	七.三	二二	一八	三三	六三.六	四三.三五	四.四
二番刈にて採種せるもの	七月十五日	八月三	七.七	六.四	一〇	八	一〇	一五.〇	四七.九五〇	二.〇

(ロ) アルサイククローバー

試験區別	開花始	成熟期	草丈		隔當子實收量		割收量	完全歩合	隔當一 番刈生 草收量	反當子 實收量
			一番刈	二番刈	昭和十三年 同十四年	平均				
一番刈にて採種せるもの	六月二八	八月九	二四.三	二九.八	五六	五七	一〇〇	九三.五	五四.七五〇	一三.九
二番刈にて採種せるもの	五月三十日	八月三	一八.三	九.四.五	三九	四〇	六九	八七.四	五四.五五	八.九

試験區別	開花始	成熟期	草丈		隔當子實收量		割收量	完全歩合	隔當一 番刈生 草收量	反當子 實收量
			一番刈	二番刈	昭和十三年 同十四年	平均				
二番刈にて採種せるもの	七月二	八月三	三三.六	八五.一	二五	二六	四三	六七.八	二六.三五	五.八
二番刈にて採種せるもの	六月十五日	八月三	五〇.五	八〇.六	一一	一九	二六	三三	四六.一五〇	三.三
二番刈にて採種せるもの	六月三十日	八月三	九七.〇	五四.五	五	八	一四	一九.六	四九.五〇	一.八

(ニ) 泥炭地に於ける牧草地造成に関する試験成績

釧路試作場に於て、該地方低位泥炭地を直に牧草地となす場合の適當なる方法を確めんが爲施行せる試験成績に據れば、
泥炭地の土壤酸性を矯正し、野地坊主除去耕起後焼土し、牧草を播種せるもの最良にして、野地坊主除去耕起後牧草を播種
するもの之に亞ぐを示せるも、以上の方法に依るときは著しく勞力を要するを以て、牧草地造成に當りては、收量は前二者
に比し稍劣るも、勞力を要すること少なく、播種後三年目より完全なる牧草地となし得る野地坊主細断後牧草を播種する方
法を採用するを得策とすべく、又土壤酸性の矯正は該地方低位泥炭地の牧草地造成上極めて肝要なるを認めたり。其の成績
左の如し

釧路試作場試験成績 自昭和十二年 至同十四年

(一) 生育の狀況並に收量調査

(イ) チモシ

試験區別	初年目	二年目	三年目	隔當子實收量			割收量			播種三年目 反當牧草收量
				草	牧	草	草	牧	草	
野	五三三	三九〇	四三六	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	

(口) 赤クローパー

正	嬌	性	酸	原	試験	區	別	草 乾 草 收 量		野 草 收 量		割 合		播 種 三 年 目
								初年目	二年目	三年目	初年目	二年目	三年目	
野	野	野	野	野	野	野	野	七三三	四、三三〇	四、三三〇	四、三三〇	四、三三〇	三三六	三三六
野	野	野	野	野	野	野	野	九、四七一	五、一八七	五、一八七	五、一八七	五、一八七	一、三〇九	一、三〇九
野	野	野	野	野	野	野	野	八、二五二	四、四三七	四、四三七	四、四三七	四、四三七	一、七九	一、七九
野	野	野	野	野	野	野	野	六、八七一	五、七九〇	五、七九〇	五、七九〇	五、七九〇	一、五五	一、五五
野	野	野	野	野	野	野	野	四、四二〇	四、三二〇	四、三二〇	四、三二〇	四、三二〇	一、二一	一、二一
野	野	野	野	野	野	野	野	六、三六三	四、六九六	四、六九六	四、六九六	四、六九六	一、二八	一、二八
野	野	野	野	野	野	野	野	七、二五〇	五、九四三	五、九四三	五、九四三	五、九四三	一、〇七	一、〇七
野	野	野	野	野	野	野	野	五、三三八	四、四八〇	四、四八〇	四、四八〇	四、四八〇	一、〇七	一、〇七
野	野	野	野	野	野	野	野	七、一五七	五、六七一	五、六七一	五、六七一	五、六七一	一、〇五	一、〇五
野	野	野	野	野	野	野	野	一、〇〇八	五、九五〇	五、九五〇	五、九五〇	五、九五〇	一、四〇	一、四〇

土	原	試験	區	別	草 乾 草 收 量		野 草 收 量		割 合		播 種 三 年 目
					初年目	二年目	三年目	初年目	二年目	三年目	
野	野	野	野	野	五、三三三	四、三九〇	四、三九〇	四、三九〇	四、三九〇	四、三九〇	一〇〇
野	野	野	野	野	七、三三七	四、三三二	四、三三二	四、三三二	四、三三二	四、三三二	一〇〇
野	野	野	野	野	六、八二四	四、二一八	四、二一八	四、二一八	四、二一八	四、二一八	一〇〇
野	野	野	野	野	六、一六〇	三、六三〇	三、六三〇	三、六三〇	三、六三〇	三、六三〇	一〇〇
野	野	野	野	野	六、七五四	五、三六九	五、三六九	五、三六九	五、三六九	五、三六九	一〇〇
野	野	野	野	野	八、六〇〇	五、八八〇	五、八八〇	五、八八〇	五、八八〇	五、八八〇	一〇〇

(イ) 野草の混生割合

正	嬌	性	酸	原	試験	區	別	草 乾 草 收 量	野 草 收 量	割 合	播 種 三 年 目
野	野	野	野	野	野	野	野	四、九五〇	四、二五〇	四、二五〇	四、二五〇
野	野	野	野	野	野	野	野	六、三三三	四、六九六	四、六九六	四、六九六
野	野	野	野	野	野	野	野	六、七七七	五、六六〇	五、六六〇	五、六六〇
野	野	野	野	野	野	野	野	五、九九五	四、八三四	四、八三四	四、八三四
野	野	野	野	野	野	野	野	六、三三三	五、二二〇	五、二二〇	五、二二〇
野	野	野	野	野	野	野	野	一〇、九三六	六、五三四	六、五三四	六、五三四

(イ) 野草の混生割合

正	嬌	性	酸	原	試験	區	別	草 乾 草 收 量	野 草 收 量	割 合	播 種 三 年 目
野	野	野	野	野	野	野	野	八、八三三	二、一五	二、一五	二、一五
野	野	野	野	野	野	野	野	八、六三三	二、四二〇	二、四二〇	二、四二〇
野	野	野	野	野	野	野	野	八、四二二	二、三三〇	二、三三〇	二、三三〇
野	野	野	野	野	野	野	野	九、四二二	二、〇六	二、〇六	二、〇六
野	野	野	野	野	野	野	野	九、五五五	二、〇七	二、〇七	二、〇七
野	野	野	野	野	野	野	野	二、〇一九	二、〇九	二、〇九	二、〇九
野	野	野	野	野	野	野	野	九、三三三	二、二八	二、二八	二、二八
野	野	野	野	野	野	野	野	八、二二二	二、二五	二、二五	二、二五
野	野	野	野	野	野	野	野	二、二二二	二、二二	二、二二	二、二二
野	野	野	野	野	野	野	野	二、二二二	二、二二	二、二二	二、二二
野	野	野	野	野	野	野	野	二、二二二	二、二二	二、二二	二、二二
野	野	野	野	野	野	野	野	二、二二二	二、二二	二、二二	二、二二
野	野	野	野	野	野	野	野	二、二二二	二、二二	二、二二	二、二二
野	野	野	野	野	野	野	野	二、二二二	二、二二	二、二二	二、二二
野	野	野	野	野	野	野	野	二、二二二	二、二二	二、二二	二、二二

野草の種類	試験區別			原	土	野	草	酸性	正	原	混	生	割	合	
	原	土	野												
スヨギ	初年目	二年目	三年目	初年目	二年目	三年目	初年目	二年目	三年目	初年目	二年目	三年目	初年目	二年目	三年目
ナシ	初年目	二年目	三年目	初年目	二年目	三年目	初年目	二年目	三年目	初年目	二年目	三年目	初年目	二年目	三年目
計	初年目	二年目	三年目	初年目	二年目	三年目	初年目	二年目	三年目	初年目	二年目	三年目	初年目	二年目	三年目

備考 表中混生割合は牧草播種三年目の昭和十四年の試験成績を記載せり。
野草の變遷状況

野草の種類	試験區別			原	土	野	草	酸性	正	原	混	生	割	合	
	原	土	野												
エゾヨモギ	初年目	二年目	三年目	初年目	二年目	三年目	初年目	二年目	三年目	初年目	二年目	三年目	初年目	二年目	三年目
イソノガリヤス	初年目	二年目	三年目	初年目	二年目	三年目	初年目	二年目	三年目	初年目	二年目	三年目	初年目	二年目	三年目
イヌゴマ	初年目	二年目	三年目	初年目	二年目	三年目	初年目	二年目	三年目	初年目	二年目	三年目	初年目	二年目	三年目
クサフサ	初年目	二年目	三年目	初年目	二年目	三年目	初年目	二年目	三年目	初年目	二年目	三年目	初年目	二年目	三年目
ヒラギシダ	初年目	二年目	三年目	初年目	二年目	三年目	初年目	二年目	三年目	初年目	二年目	三年目	初年目	二年目	三年目
イトハビロウド	初年目	二年目	三年目	初年目	二年目	三年目	初年目	二年目	三年目	初年目	二年目	三年目	初年目	二年目	三年目
シダ	初年目	二年目	三年目	初年目	二年目	三年目	初年目	二年目	三年目	初年目	二年目	三年目	初年目	二年目	三年目
ヒロハノウナギツル	初年目	二年目	三年目	初年目	二年目	三年目	初年目	二年目	三年目	初年目	二年目	三年目	初年目	二年目	三年目
アキノキリンサウ	初年目	二年目	三年目	初年目	二年目	三年目	初年目	二年目	三年目	初年目	二年目	三年目	初年目	二年目	三年目
ナガホノシロ	初年目	二年目	三年目	初年目	二年目	三年目	初年目	二年目	三年目	初年目	二年目	三年目	初年目	二年目	三年目
キンミヅヒキ	初年目	二年目	三年目	初年目	二年目	三年目	初年目	二年目	三年目	初年目	二年目	三年目	初年目	二年目	三年目
計	初年目	二年目	三年目	初年目	二年目	三年目	初年目	二年目	三年目	初年目	二年目	三年目	初年目	二年目	三年目

備考 一 試験地はヨシ及スダゲ繁茂し、野地坊主坪當一二箇あり。又ハンノキの根株極めて多し。
二 酸性矯正區はP.H六・五矯正量の炭酸石灰を施用せり。

(七) 泥炭地に於ける綠肥作物適否試験成績

釧路試作場に於て、濃霧地帯の泥炭地に適する綠肥作物を確めんが爲施行せる試験成績に據れば、單作綠肥は孰れも生育良好にして、就中赤クローバー、アルサイククローバー、黄花ルービン、ブルートルービン、青刈大豆〔茶小粒〕、青刈大豆〔黒千石〕は生産量多くして有望なり。混播及間作綠肥作物としては燕麥に混播又は間作を行ふも、主作物に影響を及ぼすことなく、生草收量多きはアルサイククローバーの混播及赤クローバー混播にして、其の他は孰れも生産量著しく劣れり。其の成績左の如し

(イ) 主作物 燕麥(ビクトリー一號) 釧路試作場試驗成績 自昭和十三年 至同十四年

試驗區別	期出	期熟成	草丈	莖數	隔當子實收量		收量割合	一子實重量	一子實粒數	隔當莖重	病赤黴	被害倒伏%	反當子實收量
					平均	隔當							
燕麥を單作	七月	八月	一五〇・三	三〇	一、五〇〇	一、八七五	一〇〇	三・五	三、〇〇〇	三、〇〇〇	中	五五〇	五〇〇
燕麥に赤クローバー混播	七月	八月	一三四・三	二九	一、三〇〇	一、八〇〇	九六	三・五	三、三〇〇	三、三〇〇	同	五九〇	四八〇
燕麥にアルサイククローバー混播	七月	八月	一四八・四	三三	一、五〇〇	一、八〇〇	九六	三・五	三、三〇〇	三、三〇〇	同	五九〇	四八〇
燕麥にホワイトクローバー混播	七月	八月	一五〇・九	三三	一、五〇〇	一、八〇〇	九六	三・五	三、三〇〇	三、三〇〇	同	五九〇	四八〇
燕麥にクリムソンクローバー混播	七月	八月	一四七・四	三三	一、五〇〇	一、八〇〇	九六	三・五	三、三〇〇	三、三〇〇	同	五九〇	四八〇
燕麥にコンモンベッチ混播	七月	八月	一五〇・〇	三三	一、五〇〇	一、八〇〇	九六	三・五	三、三〇〇	三、三〇〇	同	五九〇	四八〇
燕麥にサンドベッチ混播	七月	八月	一四九・九	三三	一、五〇〇	一、八〇〇	九六	三・五	三、三〇〇	三、三〇〇	同	五九〇	四八〇
燕麥に黄花ルービン混播	七月	八月	一五〇・四	三三	一、五〇〇	一、八〇〇	九六	三・五	三、三〇〇	三、三〇〇	同	五九〇	四八〇
燕麥にプリユールービン混播	七月	八月	一五〇・六	三三	一、五〇〇	一、八〇〇	九六	三・五	三、三〇〇	三、三〇〇	同	五九〇	四八〇
燕麥に青刈大豆(茶小粒)混播	七月	八月	一五〇・八	三三	一、五〇〇	一、八〇〇	九六	三・五	三、三〇〇	三、三〇〇	同	五九〇	四八〇
燕麥に青刈大豆(公第五〇三號)混播	七月	八月	一五〇・四	三三	一、五〇〇	一、八〇〇	九六	三・五	三、三〇〇	三、三〇〇	同	五九〇	四八〇
燕麥に青刈大豆(黒千石)混播	七月	八月	一五〇・六	三三	一、五〇〇	一、八〇〇	九六	三・五	三、三〇〇	三、三〇〇	同	五九〇	四八〇

(ロ) 單作綠肥作物

試驗區別	開花始	收穫期	草丈	隔當		乾產量		生産量割合	反當生産量
				平均	隔當	平均	隔當		
赤クローバー	八月	十月	七三・九	一三、八三五	一四、一六三	四七・〇	四九・〇	一〇〇	三七・七
アルサイククローバー	八月	十月	九〇・一	一五、六五〇	一四、九〇〇	四九・〇	五三・九	一〇七	三九・七
ホワイトクローバー	八月	十月	三九・〇	八、九九五	八、六四八	二二・三	三二・四	五八	三三・〇
クリムソンクローバー	七月	十月	六〇・〇	一三、五〇〇	一三、五〇〇	四二・〇	一三、六〇	五八	三三・〇
コンモンベッチ	七月	十月	一三〇・六	二一、四〇〇	二一、四〇〇	三九・〇	三三、〇〇	六四	二四・三
サンドベッチ	七月	十月	一三三・〇	二二、〇〇〇	二二、〇〇〇	四三・〇	三三、〇〇	六六	二五・三
黄花ルービン	七月	十月	九三・一	一七、七五〇	一七、七五〇	六〇・〇	七九・八	一〇〇	一八・九
プリユールービン	七月	十月	一〇三・三	一八、二〇〇	一八、二〇〇	八、五五六	八、五六六	一〇〇	二二・九
青刈大豆(茶小粒)	八月	十月	一四〇・一	二四、六〇〇	二〇、二七五	五、一八三	八、一五五	一四三	一七・四
青刈大豆(公第五〇三號)	八月	十月	一三三・三	二二、七五〇	一八、九二〇	三、三三八	三、三三八	五七	一七・〇
青刈大豆(黒千石)	八月	十月	八七・六	一三、五〇〇	一七、五五〇	五、〇八二	八、二〇八	一三六	一七・三

(ハ) 混播及間作綠肥作物

試驗區別	開花始	刈取期	草丈	隔當		乾產量		生産量割合	反當生産量
				平均	隔當	平均	隔當		
燕麥に赤クローバー混播	八月	十月	四六・七	四、九〇〇	四、五〇〇	一、六六六	一、三九四	一〇〇	四〇・八

燕麥にアルサイク	八月四日	十月一日	三・二	三八〇	四・五〇〇	四・七五	一・五三	一・七三	一・六二七	九	一・六	二・一五	四・四
燕麥にホワイト	八月一日	十月一日	三・八	三六〇	三・五〇	三・四三	一・〇三	一・〇	一・〇四	九	七	九・三	二・六四
燕麥にクリムソン	七月三十一日	十月一日	三・三	七〇	二・五〇	五・五	二・〇	一・〇四	一・七四	二	二	一・三七	四・六
燕麥にココン	八月一日	十月一日	三・七	三〇	三・五〇	三・七〇	二・〇	一・一九	二・一九	八	八	九・九	三・六
燕麥にサッセン	八月三日	十月一日	二・四六	一・七〇	二・〇〇	九・五	五・〇	二・一八	二・二九	二	二	一・三	三・四
燕麥に黄花	七月三十一日	十月一日	三・〇	六五	一・九〇〇	一・八三	九・五	七・三	三・三	三	三	三・五	八・八
燕麥にプリユ	七月三十一日	十月一日	三・五	五〇	一・〇〇〇	七・五〇	二・三〇	四・五〇	三・四〇	二	三	三・〇〇	一・五〇
燕麥に青刈大豆	八月三十一日	十月一日	六・〇	一一〇	三・七〇	二・四三	一・三六	八・八	三・四〇	三	三	六・五	三・三
燕麥に青刈大豆	八月三十一日	十月一日	一・〇	一一〇	三・七〇	二・四三	一・三六	八・八	三・四〇	三	三	六・五	三・三
燕麥に青刈大豆	八月三十一日	十月一日	一・〇	一一〇	三・七〇	二・四三	一・三六	八・八	三・四〇	三	三	六・五	三・三
燕麥に青刈大豆	八月三十一日	十月一日	一・〇	一一〇	三・七〇	二・四三	一・三六	八・八	三・四〇	三	三	六・五	三・三
燕麥に青刈大豆	八月三十一日	十月一日	一・〇	一一〇	三・七〇	二・四三	一・三六	八・八	三・四〇	三	三	六・五	三・三
燕麥に青刈大豆	八月三十一日	十月一日	一・〇	一一〇	三・七〇	二・四三	一・三六	八・八	三・四〇	三	三	六・五	三・三
燕麥に青刈大豆	八月三十一日	十月一日	一・〇	一一〇	三・七〇	二・四三	一・三六	八・八	三・四〇	三	三	六・五	三・三
燕麥に青刈大豆	八月三十一日	十月一日	一・〇	一一〇	三・七〇	二・四三	一・三六	八・八	三・四〇	三	三	六・五	三・三

備考 ルーピン類には根瘤菌を接種せり。

乙 園藝に關する試験及調査成績

(一) 玉蜀黍(甘味種)「ストーエルスエバググリーン」に關する試験成績

渡島支場の成績に據れば、罐詰用玉蜀黍甘味種「ストーエルスエバググリーン」は従来の「ゴールドンパンタム(黄金)

糯」に比し稍晩生なるも收量多く、穂先迄良く充實し、加工用として良好なるを以て新に優良品種に決定せり。之に亞ぐは晩生の「パンタムエバググリーン」にして、又「ゴールドンアーリーマーケット」は「ゴールドンパンタム(黄金糯)」に比し品質劣るも、成熟最も早く、收量も亦多く、相順次するを認めたり。尙、生食用としては「パンタムエバググリーン」、「ゴールドンアーリーマーケット」の兩品種適當なるを認めたり。其の成績左の如し

渡島支場試験成績 自昭和十三年至同十四年

(一) 特性調査

品 種 名	穂の長さ	穂の太さ	穂 重	穂の形状	整粒列否	子實の色	行 數	穂心の色	品 質
ストーエルス	一九・五	五・七三	三・四七三	圓筒形	稍 整	白	一四一六	白	上
エバググリーン	二二・〇	五・五六	二・六六六	同	同	黄	一三二四	同	同
ゴールドンアーリーマーケット	一六・四	五・三六	一・九三三	同	同	同	二三	同	中
ゴールドンアーリーマーケット	一四・三	四・八二	一・五〇四	同	整	同	一〇一三	同	上

(二) 生育並に收量調査

品 種 名	出穂期 (雄穗)	收穫期	草丈	葉數	昭和十三年			昭和十四年			平均	收量
					本數	重量	本數	重量	本數	重量		
ストーエルス	八月二日	九月二日	二六・三	一六・五	三・六二二	一・三三四	三六〇四九	一一七八	三六〇〇〇	二・三三	一四八	
エバググリーン	八月二日	九月二日	二六・三	一六・五	三・六二二	一・三三四	三六〇四九	一一七八	三六〇〇〇	二・三三	一四八	
ゴールドンアーリーマーケット	八月二日	九月二日	二六・三	一六・五	三・六二二	一・三三四	三六〇四九	一一七八	三六〇〇〇	二・三三	一四八	
ゴールドンアーリーマーケット	八月二日	九月二日	二六・三	一六・五	三・六二二	一・三三四	三六〇四九	一一七八	三六〇〇〇	二・三三	一四八	

100

品名	月日	月日	月日	枚	本	本	本	本	本	本	本	本	本	本	本	本	本
ゴ	アール	七月	八月	一月	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二	十三	十四
パール	アール	七月	八月	一月	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二	十三	十四
ダ	アール	七月	八月	一月	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二	十三	十四
ム	アール	七月	八月	一月	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二	十三	十四

(二) 罐場詰原料莢菜豆「サットンス トール シュガー」、「エバー グリーン」及「スーパーチャーフ」に関する試験成績

本場に於ける罐場詰原料莢菜豆品種選抜試験成績に據れば、蔓性種に於ては、「サットンス トール シュガー」は収量稍少なく、莢の形態稍彎曲する缺點あれども、色澤、食味に於て優り、矮性種に於ては「エバーグリーン」、「スーパーチャーフ」共に収量稍劣るも品質優良にして、孰れも罐場詰原料として好適するを認めたり。其の成績左の如し

(一) 特性調査 本場試験成績 自昭和十二年 至同十四年

品名	開花期		收穫期		花色	葉形	胚軸の色	莖葉の有無	莢長	莢幅	厚	子形	子色	實重
	始	終	始	終										
サットンス トール シュガー	七月八日	七月十五日	八月九日	八月十六日	白	濃大三角形	緑	有濃緑	二・三	〇・七五	〇・五〇	曲大圓筒	白	四・五
フラジオアレール (キヤナデアアンツァー)	七月六日	七月十三日	八月二日	八月九日	白	淡大三角形	緑	有濃緑	二・三	〇・七	〇・五	曲大圓筒	白	四・五
暗色鈴成菜豆	七月三日	七月十日	八月一日	八月八日	白	中長三角形	暗緑	有濃緑	二・三	〇・八	〇・六	同	暗紫	六・〇
スーパーチャーフ	八月一日	八月八日	八月廿七日	九月四日	濃紫	同	暗緑	有濃緑	二・三	〇・八	〇・六	同	淡紫	六・〇
エバーグリーン	八月一日	八月八日	八月廿七日	九月四日	濃紫	同	暗緑	有濃緑	二・三	〇・八	〇・六	同	淡紫	六・〇
ボッストリッシュ	七月五日	七月十二日	八月四日	八月十一日	白	同	暗緑	有濃緑	二・三	〇・八	〇・六	同	淡紫	六・〇

品名	開花期	收穫期	花色	葉形	胚軸の色	莖葉の有無	莢長	莢幅	厚	子形	子色	實重
ロイヤル ヌネット	七月八日	七月十五日	白	淡中長三角形	同	有濃緑	二・三	〇・七五	〇・五〇	同	同	四・三
マタド	七月四日	七月十一日	濃紫	同	赤紫	同	二・六	〇・七一	〇・六七	同	濃	三・四
赤三度	七月三日	七月十日	濃紫	同	赤紫	同	二・六	〇・七一	〇・六七	同	濃	三・四
マツチ	七月八日	七月十五日	白	同	緑	無淡緑	二・三	〇・八	〇・六	同	淡紫赤地に紫	四・二
ペンダ	七月九日	七月十六日	白	同	緑	無淡緑	二・三	〇・八	〇・六	同	淡紫赤地に紫	四・二
フラジオアレール	七月十日	七月十七日	淡紫	同	暗緑	有濃緑	二・三	〇・七	〇・五九	直中	黄	三・四〇
熊本菜豆	七月八日	七月十五日	白	同	暗緑	有濃緑	二・三	〇・七	〇・五九	直中	黄	三・四〇
アノール シュ	七月六日	七月十三日	淡紫	同	暗緑	有濃緑	二・三	〇・七	〇・五九	直中	黄	三・四〇
サテス	七月九日	七月十六日	白	同	暗緑	有濃緑	二・三	〇・七	〇・五九	直中	黄	三・四〇
エバー	七月九日	七月十六日	紅	同	暗緑	有濃緑	二・三	〇・八	〇・六	同	桃	三・三
ロング	七月八日	七月十五日	淡紫	同	暗緑	有濃緑	二・三	〇・七	〇・五九	直中	黄	三・四〇
スーパー	七月六日	七月十三日	白	同	暗緑	有濃緑	二・三	〇・七	〇・五九	直中	黄	三・四〇
スーパ	七月六日	七月十三日	白	同	暗緑	有濃緑	二・三	〇・七	〇・五九	直中	黄	三・四〇
スト	七月六日	七月十三日	白	同	暗緑	有濃緑	二・三	〇・七	〇・五九	直中	黄	三・四〇
ネ	七月六日	七月十三日	白	同	暗緑	有濃緑	二・三	〇・七	〇・五九	直中	黄	三・四〇
グ	七月六日	七月十三日	白	同	暗緑	有濃緑	二・三	〇・七	〇・五九	直中	黄	三・四〇
グリ	七月六日	七月十三日	白	同	暗緑	有濃緑	二・三	〇・七	〇・五九	直中	黄	三・四〇
ボ	七月六日	七月十三日	白	同	暗緑	有濃緑	二・三	〇・七	〇・五九	直中	黄	三・四〇

フラジオオレールジュ (キヤナアンラダ)	暗色鈴成菜豆	スビスグリーンホッド ストリグレンダ	ロイデモンダ マタ	赤三度	マッテレ	キングオブベルジウム フラジオオレールシオン	熊本菜豆	アールーシオン	サテスファクシオン	エパーグロ	ロンダフェロー	スパーラチー	ストリグレンダ	テネシーグリーンホッド レフューシオン	レフューシオン	エキストラ	フラジオオレール	フラジオオレール	フラジオオレール	
濃	濃	濃	濃	濃	濃	濃	濃	濃	濃	濃	濃	濃	濃	濃	濃	濃	濃	濃	濃	
黄	黄	黄	黄	黄	黄	黄	黄	黄	黄	黄	黄	黄	黄	黄	黄	黄	黄	黄	黄	黄
直	直	直	直	直	直	直	直	直	直	直	直	直	直	直	直	直	直	直	直	直
少	少	少	少	少	少	少	少	少	少	少	少	少	少	少	少	少	少	少	少	少
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
濃	濃	濃	濃	濃	濃	濃	濃	濃	濃	濃	濃	濃	濃	濃	濃	濃	濃	濃	濃	濃
綠	綠	綠	綠	綠	綠	綠	綠	綠	綠	綠	綠	綠	綠	綠	綠	綠	綠	綠	綠	綠
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同

101

(二) 品質調査

備考 「ロイデモンダ」、「レフューシオン」、「フラジオオレール」、「マールドフランクス」、「フラジオオレールシオン」、「フラジオオレール」は菜豆炭疽病に弱し。

品名	色	濃	澤	形	直	筋	料	色	濃	澤	形	詰	製	食	味
フラジオオレールジュ	七二	七二	七二	九三	濃紫紅	中	長	三角	形	同	同	同	同	同	同
レフューシオン	七二	七二	七二	九二	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
エキストラ	七二	七二	七二	九二	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
フラジオオレール	七二	七二	七二	九二	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
マールド	七二	七二	七二	九二	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
フラジオオレール	七二	七二	七二	九二	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
アチー	七二	七二	七二	九二	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
フラジオオレール	七二	七二	七二	九二	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
ナイン	七二	七二	七二	九二	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同

101

品名	昭和十二年				昭和十三年				昭和十四年				昭和十四年	
	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
フラジオオレイトリア														
フラジオオレイロイデバルト														
マールサンズリバル														
同														
濃黄														
帯黄														
緑														
同														
同														
曲														
多														
同														
中														
少														
濃														
同														
同														
同														
同														

(三) 収量調査

品名	昭和十二年				昭和十三年				昭和十四年				昭和十四年	
	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
サットンストールシユガイ	18,383				10,403				22,219				100	
フラジオオレイルシユガイ	19,958				12,315				17,275				100	
(キヤナード)	20,498								20,498				100	
暗色鈴成菜豆	11,483								11,483				100	
スベコチ	12,633								12,633				100	
バービスグリーンボツド	16,245								16,245				100	
ロイデモンヂュト	19,776								19,776				100	
マダド	13,860								13,860				100	
赤三度	23,830				11,048				23,830				100	
マツチ	18,435				10,650				18,435				100	
キングオブベルツァム	23,545				11,648				23,545				100	
フラジオオレイシユン	16,455								16,455				100	
熊本菜豆	19,200								19,200				100	
アーリーシユン	33,628				13,435				33,628				100	
サテスフアクシユン	22,945				11,760				22,945				100	
エバーグリーン														

品名	昭和十二年				昭和十三年				昭和十四年				昭和十四年	
	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
ロングフェロ	19,620				22,038				19,620				107	
スーバラチー	20,130				11,378				20,130				107	
ストリングスレフ	19,225				25,996				19,225				105	
テネシーグリーンボツド	33,145				31,107				33,145				105	
レフエー	14,182								14,182				106	
(本第一三五六四)	16,035								16,035				107	
エキストラ	14,873								14,873				107	
フラジオオレイ	14,805								14,805				108	
フラジオオレイ	13,138								13,138				108	
フラジオオレイ	12,352								12,352				108	
フラジオオレイ	7,230								7,230				108	
フラジオオレイ	17,970								17,970				108	
マールサンズ	24,050								24,050				108	
ナールサンズ	23,898								23,898				108	

備考 一 畦幅六〇、株間一八

- 二 陌當施肥量 魚粕一五〇、精過燐酸石灰一八七・五、硫酸アンモニア五六・二五、硫酸加里七五
- 三 播種期 昭和十二年五月十五日、昭和十三年五月十六日、昭和十四年五月十八日
- 四 初年度に於て不適當と認めたる品種は一年のみにて試験を中止せり。

(三) 罐詰原料豌豆「アラスカ」及「ブライドオブキヤナード」に関する試験成績

本場に於ける罐詰原料豌豆品種選抜試験成績に據れば、大粒種に於ては「ブライドオブキヤナード」、中粒種に於ては

「アラスカ」が豊産且食味良好にして罐壇詰用適品種なるを認めたり。其の成績左の如し

(一) 特性調査

本場試験成績

自昭和十二年
至同十四年

品 種 名	開花			葉 長 寸	葉 幅 寸	莖 節 間 寸	莖 太 寸	草 丈 寸	花 色	葉 長 寸	葉 幅 寸	莖 厚 寸	莖 端 形	莖 小 色	莖 中 色	莖 子 色	莖 子 滑 糙	
	期	始	終															
アラスカ	六二四	七二〇	七二八	五・六六	三・三四	一・〇〇六	〇・六四	一四六・八	白緑	八・四〇	一・六五	一・〇四	鈍	中	淡	七・七	滑	二二九
ブライトオブ キヤナーズ	六二五	七二〇	七二八	五・六五	三・三四	一・〇〇六	〇・六四	一四六・八	白緑	八・四〇	一・六五	一・〇四	鈍	中	淡	七・七	滑	二二九
シャークタキ オシヨード	六二五	七二〇	七二八	五・六五	三・三四	一・〇〇六	〇・六四	一四六・八	白緑	八・四〇	一・六五	一・〇四	鈍	中	淡	七・七	滑	二二九
ドカルドン ブルー	六二二	七二〇	七二八	五・六〇	三・三四	一・〇〇六	〇・六四	一四六・八	白緑	八・四〇	一・六五	一・〇四	鈍	中	淡	七・七	滑	二二九
マクツトオブ サイブライズ	六二〇	七二〇	七二八	五・五五	三・三四	一・〇〇六	〇・六四	一四六・八	白緑	八・四〇	一・六五	一・〇四	鈍	中	淡	七・七	滑	二二九
フリースト オブ	六三〇	七二〇	七二八	五・三〇	三・三四	一・〇〇六	〇・六四	一四六・八	白緑	八・四〇	一・六五	一・〇四	鈍	中	淡	七・七	滑	二二九
キヤニング ビーク	六二七	七二〇	七二八	五・一〇	三・三四	一・〇〇六	〇・六四	一四六・八	白緑	八・四〇	一・六五	一・〇四	鈍	中	淡	七・七	滑	二二九
ロイヤル オブ	六二二	七二〇	七二八	五・〇五	三・三四	一・〇〇六	〇・六四	一四六・八	白緑	八・四〇	一・六五	一・〇四	鈍	中	淡	七・七	滑	二二九
クニヤ オブ	六二〇	七二〇	七二八	五・〇〇	三・三四	一・〇〇六	〇・六四	一四六・八	白緑	八・四〇	一・六五	一・〇四	鈍	中	淡	七・七	滑	二二九

(二) 品質調査

品 種 名	原 料	粒 の 大 小	粒 質	粒 形	色 澤	皮 の 硬 軟	風 味												
								大	小	同	同	同	同	同					
フキヤンナ チー	五・五五	三・三〇	一・三〇	〇・四四	九・四三	一・五〇	〇・九六	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	
グアドミ ラール	五・六四	三・三三	一・三三	〇・四四	七・八三	一・五三	〇・九六	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
グアドミ ラール	五・七〇	三・三三	一・三三	〇・四四	七・八三	一・五三	〇・九六	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
グアドミ ラール	五・七〇	三・三三	一・三三	〇・四四	七・八三	一・五三	〇・九六	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
グアドミ ラール	五・七〇	三・三三	一・三三	〇・四四	七・八三	一・五三	〇・九六	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
グアドミ ラール	五・七〇	三・三三	一・三三	〇・四四	七・八三	一・五三	〇・九六	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
グアドミ ラール	五・七〇	三・三三	一・三三	〇・四四	七・八三	一・五三	〇・九六	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
グアドミ ラール	五・七〇	三・三三	一・三三	〇・四四	七・八三	一・五三	〇・九六	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
グアドミ ラール	五・七〇	三・三三	一・三三	〇・四四	七・八三	一・五三	〇・九六	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同

グリーンアドミラル	大	不	頁	精	圓	線	稍	軟	頁
グリーンアドミラル	大	稍	頁	同	同	同	稍	硬	頁
グリーンアドミラル	大	同	頁	同	同	同	同	不	頁
グリーンアドミラル	大	同	頁	同	同	同	同	不	頁
グリーンアドミラル	大	同	頁	同	同	同	同	不	頁

備考 一 製品の品質は自昭和十二年至十四年の成績を総合したるものなり。
 二 供試雑詰の製造法は採取適期に達せる嫩實を篩別して粒形を揃へ、〇・〇七五%の硫酸銅熱湯中にて八分乃至一分間湯通を行ひて嫩實の色を定着せしめたるものを常法により雑詰とせるものなり。

品名	昭和三十二年				昭和三十三年				昭和三十四年				平均
	昭和三十二年	昭和三十三年	昭和三十四年	平均	昭和三十二年	昭和三十三年	昭和三十四年	平均	昭和三十二年	昭和三十三年	昭和三十四年	平均	
アラスカ	11,000	14,500	12,100	12,533	100	360	4,500	4,800	3%	13	10	11	11.3%
ブライドオブ	9,500	13,300	11,900	11,567	100	375	4,450	4,521	3%	19	16	18	17.7%
キヤナード	10,500	13,900	11,900	12,300	100	386	4,640	4,700	3%	27	23	25	24.3%
シヤクタキユ	10,500	14,400	12,100	12,333	100	400	4,800	5,000	3%	36	32	34	34.0%
オシヨード	10,500	14,400	12,100	12,333	100	400	4,800	5,000	3%	36	32	34	34.0%
ドカルドンブルー	10,700	14,400	12,100	12,400	100	400	4,800	5,000	3%	36	32	34	34.0%
マクドナルド	11,300	15,200	13,600	13,367	100	413	5,000	5,333	3%	40	36	38	38.0%
ブライドオブ	11,300	15,200	13,600	13,367	100	413	5,000	5,333	3%	40	36	38	38.0%
ブライドオブ	11,300	15,200	13,600	13,367	100	413	5,000	5,333	3%	40	36	38	38.0%
ブライドオブ	11,300	15,200	13,600	13,367	100	413	5,000	5,333	3%	40	36	38	38.0%

品名	昭和三十二年				昭和三十三年				昭和三十四年				平均
	昭和三十二年	昭和三十三年	昭和三十四年	平均	昭和三十二年	昭和三十三年	昭和三十四年	平均	昭和三十二年	昭和三十三年	昭和三十四年	平均	
キヤニングビー	9,700	14,700	13,300	12,600	115	360	5,200	5,270	6%	26	24	25	25.0%
ロイマス	10,100	15,700	14,300	13,367	115	370	5,300	5,400	6%	27	25	26	26.0%
クキーンオブ	10,100	15,700	14,300	13,367	115	370	5,300	5,400	6%	27	25	26	26.0%
キヤニングス	10,100	15,700	14,300	13,367	115	370	5,300	5,400	6%	27	25	26	26.0%
フレンチ	9,200	14,400	13,000	12,200	115	370	5,300	5,400	6%	27	25	26	26.0%
キヤナード	10,500	15,200	13,600	13,100	115	370	5,300	5,400	6%	27	25	26	26.0%
グリーン	10,500	15,200	13,600	13,100	115	370	5,300	5,400	6%	27	25	26	26.0%
アドミラル	8,900	13,800	12,400	11,700	115	370	5,300	5,400	6%	27	25	26	26.0%
グリーン	8,900	13,800	12,400	11,700	115	370	5,300	5,400	6%	27	25	26	26.0%
グリーン	8,900	13,800	12,400	11,700	115	370	5,300	5,400	6%	27	25	26	26.0%
グリーン	8,900	13,800	12,400	11,700	115	370	5,300	5,400	6%	27	25	26	26.0%

備考 一 畦幅 六〇糎 株間 一五糎
 二 陪當施肥量 魚粕二六・二五冠、硫酸アンモニア五六・二五冠、精過燐酸石灰一八七・五冠、硫酸加里七五冠
 三 播種期 昭和十二年四月十七日、同十三年四月六日、同十四年五月一日
 四 初年度に於て適當ならずと認めたる品種は以後試験を繼續せず。

(四) 樹莓「ラーサム」、「ニユボウ」、「ゴールドデンクキーン」
 及「アラツクキヤツプ一號」に関する試験成績

本場に於ける樹莓品種に関する試験成績に據れば、「ラーサム」及「ニユボウ」は頗る豊産にして風味亦佳良、「ゴールドデンクキーン」は收量前者に亞ぎ黄色種の良品種と認められ、「アラツクキヤツプ一號」は肉質緊り色澤濃厚にして加工用品種として用途廣き等、夫れ夫れ特徴ある優良品種なるを認めたり。其の成績左の如し

(一) 特性調査
本場試験成績
自昭和十二年
至昭和十四年

品種名	樹勢	樹形	結果性	細太	莖色	有白粉	刺	小葉數	果形狀	大小	色澤	味風	摘要
ラニホザム	強	高開性	豊産	中	淡綠	中	弱	三五	圓形	中	鮮紅	真	加工食用に
ニホザム	同	高開性	同	細	淡綠	無	中	三五	圓形	大	鮮紅	同	加工食用に
ゴールデン	同	同	同	同	淡綠	同	同	三五	圓形	中	鮮紅	同	加工食用に
カスパー	同	同	同	太	淡綠	少	強	三五	圓形	中	鮮紅	同	加工食用に
ビイキン	同	同	同	同	淡綠	多	弱	三五	圓形	中	鮮紅	同	加工食用に
ブラック	同	同	同	同	淡綠	多	強	三五	圓形	中	鮮紅	同	加工食用に
キヤップ	同	同	同	同	淡綠	少	強	三五	圓形	中	鮮紅	同	加工食用に
ターナード	同	同	同	同	淡綠	少	強	三五	圓形	中	鮮紅	同	加工食用に

(二) 生育調査
昭和十四年

品種名	樹齡	催芽期	展葉期	始開	盛	終花	成熟期	始收	終穫	落葉期
ラニホザム	六年	四月三日	五月七日	六月三日	七月一日	七月七日	七月七日	七月二日	八月二日	二月八日
ニホザム	六年	四月三日	五月七日	六月三日	七月一日	七月七日	七月七日	七月二日	八月二日	二月八日
ゴールデン	六年	四月三日	五月七日	六月三日	七月一日	七月七日	七月七日	七月二日	八月二日	二月八日
カスパー	六年	四月三日	五月七日	六月三日	七月一日	七月七日	七月七日	七月二日	八月二日	二月八日
ビイキン	六年	四月三日	五月七日	六月三日	七月一日	七月七日	七月七日	七月二日	八月二日	二月八日
ブラック	六年	四月三日	五月七日	六月三日	七月一日	七月七日	七月七日	七月二日	八月二日	二月八日
キヤップ	六年	四月三日	五月七日	六月三日	七月一日	七月七日	七月七日	七月二日	八月二日	二月八日
ターナード	六年	四月三日	五月七日	六月三日	七月一日	七月七日	七月七日	七月二日	八月二日	二月八日

(三) 備考
樹齡は昭和十四年現在
收量調査

品種名	昭和十二年	昭和十三年	昭和十四年	平均	昭和十二年	昭和十三年	昭和十四年	平均	收量割合	一箇平均量
ラニホザム	八七六	八五三	五五四	七六一	一五三五	一四八八	九一〇	一三一	一〇〇	一七三
ニホザム	五八〇	二一九	四六七	四二一	一七三五	一四八八	一四五〇	一六〇	九六	三〇七
ゴールデン	六二四	六七七	六四四	六三八	一〇四八	一一〇九	一〇五三	一〇七〇	八三	一六八
カスパー	七七四	三二二	六四四	五六七	一四一三	八七八	一〇九四	一〇二八	七八	一八一
ビイキン	二〇二	三九七	四六七	三九五	四二五	八六〇	一〇九〇	七九三	六〇	二二三
ブラック	三六五	一七三	七七八	四一九	六六三	二九〇	一一〇二	七二八	五五	一七一
キヤップ	二〇四	三三二	四〇〇	三二二	四四五	八〇七	一一〇二	七二八	五五	二〇〇
ターナード	四九九	五〇三	二五一	四〇四	七三五	八三五	三九八	六五三	五〇	一六三
プレテイ	二七九	八〇	四三二	二六四	七三〇	一五二	九六〇	六二六	四七	二二三
ダニ	三四八	二四五	三三一	三〇八	六〇〇	四三三	六二八	五五一	四七	一七九
キヤップ	二四三	四三七	三三一	三三九	三九五	七〇四	五〇〇	五五〇	四三	一六三
プレス	八七	一八二	二二七	一六五	二一〇	四一五	五〇五	三七七	二八	二二八

品種名	昭和十二年	昭和十三年	昭和十四年	平均	昭和十二年	昭和十三年	昭和十四年	平均	收量割合	一箇平均量
ラニホザム	八七六	八五三	五五四	七六一	一五三五	一四八八	九一〇	一三一	一〇〇	一七三
ニホザム	五八〇	二一九	四六七	四二一	一七三五	一四八八	一四五〇	一六〇	九六	三〇七
ゴールデン	六二四	六七七	六四四	六三八	一〇四八	一一〇九	一〇五三	一〇七〇	八三	一六八
カスパー	七七四	三二二	六四四	五六七	一四一三	八七八	一〇九四	一〇二八	七八	一八一
ビイキン	二〇二	三九七	四六七	三九五	四二五	八六〇	一〇九〇	七九三	六〇	二二三
ブラック	三六五	一七三	七七八	四一九	六六三	二九〇	一一〇二	七二八	五五	一七一
キヤップ	二〇四	三三二	四〇〇	三二二	四四五	八〇七	一一〇二	七二八	五五	二〇〇
ターナード	四九九	五〇三	二五一	四〇四	七三五	八三五	三九八	六五三	五〇	一六三
プレテイ	二七九	八〇	四三二	二六四	七三〇	一五二	九六〇	六二六	四七	二二三
ダニ	三四八	二四五	三三一	三〇八	六〇〇	四三三	六二八	五五一	四七	一七九
キヤップ	二四三	四三七	三三一	三三九	三九五	七〇四	五〇〇	五五〇	四三	一六三
プレス	八七	一八二	二二七	一六五	二一〇	四一五	五〇五	三七七	二八	二二八

二 土壤肥料に關する試験及調査成績

甲 土性及土地改良に關する試験及調査成績

(一) 北見及天鹽國日本海沿岸地方の土壤統に關する調査成績

本場に於て北見及天鹽國日本海沿岸地方に對し土壤統の設定調査を行ひたるが二七統を設定せり。目下之が理化學的性状につき調査研究中なるも、取敢へず現地調査結果の概要を示せば左の如し

本場調査成績 昭和十三年

- 一 沖積層に屬する土壤統
- (一) 増幌川統 増幌川及聲問川の沖積地帯にして、表土、下層土共に埴土にして重粘、排水不良の地域多し。農耕地は上流に存す。
- (二) 勇知川統 勇知川、クトネベツ川及オネトマナイ川の沖積地帯にして、表土は腐植に富む埴土なり。地下水位高し。勇知川流域に最も多く農耕地分布す。
- (三) 天鹽川支流統 天鹽川支流即ち開寒別川、雄信内川、ウブシ川、上幌延川、下エベコロベツ川、メナシベツ川及ロク

シユナイ川の沖積地帯を總括せるものにして、全般を通じ土性は埴土、土質は重粘且強酸性のもの多し。

- (四) 天鹽川本流統 天鹽川本流々域に布衍す。上流、下流地方共に農耕地多し。本區域たる振老渡船場附近及所謂川口原野は肥沃なる沖積地帯をなし、土性概ね埴土にして、川口原野は一般に地下水位高く排水を要する地域多し。
- (五) 遠別川統 遠別川を中央とし之が南北兩地方に存する河川即ちパロマウツ川、ウツ川、歌越別川、風連別川及初山別川の沖積地帯を總括せるものにして、上流は埴壤土、下流は埴土よりなれり。本統は現在本道水田地帯の北限界をなす。
- (六) 羽幌川統 初山別村以南留萌町に至る間の諸川即ちモセタキナイ川、セタキナイ川、茂築別川、築別川、羽幌川、古丹別川、小平薬川及留萌川の沖積地帯を總括せるものにして、上流、下流を通じ殆ど同様の性質の土壤よりなり、埴土又は埴壤土にして、良好なる水田地帯なり。
- (七) 暑寒別川統 留萌町以南に存する信砂川、箸別川及暑寒別川の沖積地帯なり。是等の諸川は概ね急流なるを以て、下層中に大なる石礫を多量に堆積するものあり。沖積地帯には土壤の堆積淺く、壤土又は埴壤土よりなる。暑寒別川流域は果樹栽培に適せり。
- (八) ワツカサキナイ統 天鹽町、稚内町更岸及勇知の海岸の海成砂丘地帯にして、地形波状をなし、土性は腐植に富む砂土に屬す。大半未耕地にして、天鹽町附近に僅に農耕地を存するに過ぎず。
- (九) 聲問泥炭統 聲問川及増幌川の下流域に分布し、高位、中間、低位の三種の泥炭地存在す。低位泥炭地には針葉樹を生ずるを其の特徴とす。勾配少なく排水困難なるがため未開の状態にあり。
- (一〇) サロベツ泥炭統 天鹽川川口附近に分布し、大部分は高位泥炭地なるも、河岸及山麓附近に僅に存在する低位泥炭地は農耕地として利用可能なり。

二 洪積層に屬する土壤統

- (一) 圓山統 幌延村圓山及豊富附近に分布し、表土は埴土又は埴壤土、下層土は埴壤土又は埴土、表土の下部に青色泥岩角礫を混じり、尙地下二米附近に鹿沼土狀の浮石層を有す。地形は平坦又は緩傾斜をなす。農耕地として利用するに適す。
- (二) 問寒別統 天鹽川支流の問寒別川東岸に分布し、表土、下層土共に埴土にして、表土は淺く、下層土は重粘堅密なり。地形緩傾斜をなし、地味不良にして其の多くは未だ耕墾せらるるに至らず。
- (三) 初山別統 初山別村歌越別より羽幌町附近に至る間の海岸に分布す。海成洪積層土壤にして、表土、下層土共に埴土に屬し、重粘、且強酸性なり。地味瘠薄にして平坦地少なく、曾て農耕地として利用せられたるも、現在其の大半荒蕪地をなせり。
- (四) 苫前統 苫前村市街附近の臺地に分布し、洪積層に屬する土壤統の調査區域中最も廣く且平坦なる地域にして、表土下層土共に埴土、排水稍困難なる缺點あるも、所謂高臺地としては最も利用せられ易し。
- (五) 留萌統 留萌町市街に接続する臺地にして、表土は腐植に富む埴土にして、農耕地として利用せられつつあり。
- (六) 増毛統 増毛町市街より同町舎熊に至る海岸臺地に分布し、主として暑寒別岳山體を構成する安山岩礫の崩壊堆積せる海成洪積層土壤にして、表土、下層土共に埴壤土、表土は腐植に富み、又、石礫を混することあり。地形平坦にして水田として利用せらる。
- (七) 羽幌河岸統 遠別川以南の諸川の沖積地帯に沿ひ階段狀に發達せる河成段丘地帯にして、沖積地帯に比し粗粒なる土壤よりなるもの多し。地形平坦にして農耕地として利用せらる。
- 三 第三紀層に屬する土壤統
- (六) 沼川統 稚内町沼川を中心に南北に分布し、母岩は灰白色細粒頁岩にして、地形緩傾斜乃至波狀をなし、表土、下層土共に埴土にして、重粘、且強酸性なり。

(元) 上聲間統

- 聲間川上、中流高臺地にして、沼川統の母岩の上位に存する泥岩及礫岩の互層をなせる地帯なり。地形緩傾斜をなし、土性は埴土なるも粘性比較的乏しく、地味稍良好にして農耕地として利用せらる。
- (二) 曲淵統 聲間川上流の稚内町曲淵附近に僅に分布し、母岩は砂質泥岩にして、地形緩傾斜をなし、表土は埴壤土、下層土は埴土に屬す。強酸性を呈するも、粘性比較的大ならず、地味稍良好なり。
- (三) 増幌統 増幌川上流高臺地に狭少に分布し、母岩は綠色硬質砂岩にして、地形稍急傾斜をなし、土性は埴土に屬す。現在農耕地少なし。
- (三) 勇知統 稚内町勇知及兜沼方面に廣布し、母岩は上部第三紀層砂岩にして、地形波狀をなし、表土は腐植に富める埴土、粘性に乏しく、地水の滲透良好、稍酸性を呈するも、農耕地として廣く利用せらる。
- (三) 更岸統 天鹽町市街より更岸湖間の東部及同湖南部に分布し、母岩は軟質粗粒砂岩にして、地形緩傾斜をなし、土性は埴土又は埴土、酸性低く、排水稍良好なるも、地力劣等にして未耕地なり。
- (四) 築別統 茂築別川以南苫前村に至る間に廣布する丘陵地帯にして、母岩は砂岩に屬し、作土、心土共に埴壤土なるも下層に至るに隨ひ粒子稍大となり埴土に變ず。腐植の含量少なく、酸性を呈す。現在其の大部分荒廢地なり。
- (三) 鬼鹿統 苫前村以南鬼鹿村大椋子間に丘陵地として點在す。母岩は凝灰質泥岩に屬せり。地形稍急傾斜をなし、表土下層土共に埴土にして粘性に乏しく、作土の流乏甚し。主として除蟲菊の栽培に利用せらる。
- (六) 禮受統 留萌町以南増毛町禮受附近の高臺地に分布す。母岩は砂質泥岩にして、地形緩傾斜をなし、土性は埴土に屬す。重粘にして強酸性を呈し、僅に放牧地として利用せらる。
- 四 火成岩に屬する土壤統
- (三) 増毛別刈統 増毛町禮受より同町別刈に至る間の高臺地に分布し、主として安山岩崩壊土にして、地形は急傾斜波狀

をなし、表土、下層土共に埴土に屬す。現在は農耕地僅少にして、大部分は放牧地として利用せらるるに過ぎず。

乙 肥料に關する試験及調査成績

(一) 燕麥、蕎麥、馬鈴薯、菊芋對三要素試驗成績

幸震高丘地試驗地に於て燕麥、蕎麥、馬鈴薯、菊芋に對し三要素試驗を施行せる成績に據れば、燕麥にありては三要素共に肥效を認めらるるも窒素の肥效最も顯著にして、磷酸、加里之に順次するを示し、蕎麥にありては窒素の肥效を稍認めたるも加里、磷酸は共に肥效顯著ならず、馬鈴薯は三要素共に肥效顯著にして窒素、加里特に肥効大なるを示し、磷酸稍劣り、又菊芋にありては窒素最も肥效顯著にして加里之に亞ぎ、磷酸は肥効顯著ならざるを認めたり。其の成績左の如し

(一) 燕麥

幸震高丘地試驗地試驗成績
自昭和十二年
至同十四年

供用品種「ビクトリー」號	試驗區別	出穂期	成熟期	草丈	莖數	隔當子實收量				反當子實收量			
						昭和十二年	同十三年	同十四年	平均				
無肥	七月三日	八月三日	七六・二	三五	八六二	六五四	四六七	六六一	三三	三三三	八三九	一七五	
無窒素	七月二日	八月二日	八八九	二七	九〇〇	五九六	一〇二九	八四八	四三	三九六	一〇二	二三四	
無磷酸	七月二日	八月二日	八八九	二七	一、二五四	二、〇〇九	一、二七五	一、四七九	七三	三九八	一、六六七	三九〇	
無加里	七月二日	八月二日	八三〇	二八	一、二七三	二、一五六	一、七三六	一、六八八	八三	四二二	一九七八	四四六	
三要素	七月九日	八月九日	一、二九三	二六	一、七八六	二、二六六	二、一四二	二、〇三一	一〇〇	四三七	二、六三三	五三六	
													五〇

(二) 蕎麥

供用品種「在來種」

供用品種「在來種」	試驗區別	開花始	成熟期	草丈	莖數	隔當子實收量				反當子實收量			
						昭和十二年	同十三年	同十四年	平均				
無肥	七月七日	八月九日	一一九三	三五	一、二六三	一、〇六九	六三四	九八八	七二	五七三	一、六九四	二六・一	
無窒素	七月七日	八月九日	一三三八	二九	一、三三七	一、二三七	七六五	一一〇六	八〇	五七三	二、一五五	二九・三	
無磷酸	七月五	八月九	一四五四	二七	一、三八七	一、五二九	一、〇三八	一、三二八	九三	五八一	二、九三三	三四・八	
無加里	七月五	八月九	一五二二	二五	一、四二二	一、三六六	一、〇七〇	一、二八三	九三	五七六	二、六五五	三三・九	
三要素	七月五	八月三	一六一五	二六	一、五〇八	一、四四七	一、二〇三	一、三八六	一〇〇	五七二	三、三〇〇	三六・六	
													二・七

(三) 馬鈴薯

供用品種「ハロー」

供用品種「ハロー」	試驗區別	開花始	莖葉枯凋期	草丈	隔當薯塊收量				反當薯塊收量				
					昭和十二年	同十三年	同十四年	平均					
無肥	七月二日	九月二日	二八・六	一〇、六〇五	七、八〇四	九、七五八	四〇	一、三〇〇	一、二九二	三、四	二、五八		
無窒素	七月二日	九月二日	三一・五	一〇、七七五	七、四七七	一、〇四九	四〇	一、二二	一、三五四	三六	二、九二		
無磷酸	七月二日	九月二日	三三・八	一三、九九九	一、七、四五	一、六七四	四九	一、三三	二、二〇一	五九	四、四三		
無加里	七月二日	九月二日	二九・六	八、〇二八	二、〇、九三六	七、六四一	一、二一九	一、一六	一、四七八	三九	四、四三		
三要素	七月六日	九月二日	六三・三	二二、九九五	三、〇、四〇一	二、〇、五二九	二、四三〇	一〇〇	一、五二	三七五	六、四三		
													四三・八

(四) 菊芋

供用品種「紫種」(昭和十三年) 「在來種」(昭和十四年)

試験區別	開花始	莖葉	草丈	昭當薯塊收量				平均	割收量	昭當薯收量		同上割合		乾燥率	反當薯塊收量	
				十二年	十三年	十四年	平均			生草	乾草	生草	乾草		重量	俵數
無肥料	10.1	10.1	1.7	90.8	126.7	94.9	100.6	4	87.3	294.8	5	33.8	26.6	1.7	1.7	
無窒素	10.1	10.1	1.8	81.8	87.8	88.5	85.7	3	107.3	355.1	6	33.9	2.6	1.5	1.5	
無磷	9.9	10.1	2.0	100.0	116.8	114.3	107.0	6	133.3	483.1	8	36.4	3.6	3.9	3.9	
無加里	9.3	10.6	1.9	114.0	175.5	143.4	143.8	6	97.4	350.7	10	48	5.6	5.6	5.6	
三要	9.3	10.6	2.0	123.0	175.5	143.4	143.8	100	165.7	732.1	10	48	6.1	6.1	6.1	

備考 一 要素用量
 昭當薯素(硫酸アンモニア) 燕麥、蕎麥 三七・五冠 馬鈴薯、菊芋 七五冠
 同 磷酸(精過燐酸石灰) 同 同 七五冠 同 同 七五冠
 同 加里(硫酸加里) 同 同 七五冠 同 同 七五冠
 二 播種期各年燕麥(五月十六日) 蕎麥(六月八日) 馬鈴薯、菊芋(五月十八日)
 三 菊芋の乾燥率は昭和十四年一箇年の成績なり。

(二) 新墾地に於ける牧草對三要素試験成績

釧路試作場の新墾地に於て、牧草チモシー及赤クローバーに對し行ひたる三要素試験の成績に據れば、チモシー、赤クローバーは共に三要素の肥效顯著なるも、チモシーにありては磷酸の肥效最も優り、窒素、加里之に亞ぎ、赤クローバーは磷酸及加里の肥效は相伯仲して優り、窒素の肥效は稍劣るを示せり。則ち斯種土壤に牧草チモシー及赤クローバーを栽培する場合は磷酸の施用は極めて必要なるも、新墾當初より適量の三要素を補給するの要あるを認めたり。其の成績左の如し

釧路試作場試験成績 自昭和十二年 至同十四年

(イ) チモシー

試験區別	出穂期	刈取期		草丈		昭當薯				乾收量		草		收量割合	反當收量
		一番	二番	一番	二番	十二年	十三年	十四年	平均	十二年	十三年	十四年	平均		
無肥料	7.8	7.9	10.3	1.0	1.3	184.5	258.4	307.0	250.0	58.8	63.3	106.5	76.4	7	68.3
無窒素	7.7	7.9	10.3	1.1	1.4	194.9	233.0	307.0	244.0	65.0	83.1	112.6	88.6	8	72.0
無磷	7.8	7.9	10.3	1.2	1.8	169.5	333.0	307.0	270.0	74.8	119.6	121.3	95.7	7	78.7
無加里	7.7	7.9	10.3	1.1	1.4	218.5	299.0	307.0	274.0	78.7	119.6	121.3	87.7	7	78.7
三要	7.7	7.9	10.3	1.2	1.8	218.5	299.0	307.0	274.0	78.7	119.6	121.3	87.7	7	78.7
窒素單用	7.7	7.9	10.3	1.2	1.8	218.5	299.0	307.0	274.0	78.7	119.6	121.3	87.7	7	78.7
磷酸單用	7.7	7.9	10.3	1.2	1.8	218.5	299.0	307.0	274.0	78.7	119.6	121.3	87.7	7	78.7
加里單用	7.7	7.9	10.3	1.2	1.8	218.5	299.0	307.0	274.0	78.7	119.6	121.3	87.7	7	78.7

(ロ) 赤クローバー

試験區別	始花期	刈取期		草丈		昭當薯				乾收量		草		收量割合	反當收量
		一番	二番	一番	二番	十二年	十三年	十四年	平均	十二年	十三年	十四年	平均		
無肥料	7.3	7.9	10.3	1.0	1.3	258.4	307.0	307.0	288.0	66.6	63.3	71.8	61.8	6	68.1
無窒素	7.2	7.9	10.3	1.0	1.3	275.5	307.0	307.0	291.0	68.4	83.1	95.8	81.9	7	72.0
無磷	7.3	7.9	10.3	1.1	1.4	333.0	307.0	307.0	314.0	74.8	119.6	121.3	95.7	7	78.7
無加里	7.3	7.9	10.3	1.1	1.4	333.0	307.0	307.0	314.0	74.8	119.6	121.3	95.7	7	78.7
三要	7.3	7.9	10.3	1.1	1.4	333.0	307.0	307.0	314.0	74.8	119.6	121.3	95.7	7	78.7
窒素單用	7.3	7.9	10.3	1.1	1.4	333.0	307.0	307.0	314.0	74.8	119.6	121.3	95.7	7	78.7
磷酸單用	7.3	7.9	10.3	1.1	1.4	333.0	307.0	307.0	314.0	74.8	119.6	121.3	95.7	7	78.7
加里單用	7.3	7.9	10.3	1.1	1.4	333.0	307.0	307.0	314.0	74.8	119.6	121.3	95.7	7	78.7

考 参	三 要 素		加 里 用		加 里 用		加 里 用		加 里 用	
	磷	氮	磷	氮	磷	氮	磷	氮	磷	氮
加里	72.2	72.2	72.2	72.2	72.2	72.2	72.2	72.2	72.2	72.2
里	72.2	72.2	72.2	72.2	72.2	72.2	72.2	72.2	72.2	72.2
用	72.2	72.2	72.2	72.2	72.2	72.2	72.2	72.2	72.2	72.2

備考 要素用量 陌當窒素(硫酸アンモニア)七五疋 磷酸(精過磷酸石灰)七五疋 加里(硫酸加里)七五疋

(三) 泥炭地の開墾法と三要素に関する試験成績

釧路試作場に於て、低位泥炭地の適當なる開墾法並に開墾法と三要素の天然供給量との關係を知らんが爲行へる試験成績に據れば、開墾法としては野地坊主を焼却する法は收量最も優り、開墾に勞力を要すること少なく、雜草の發生も亦比較的少なく、隨つて開墾後に於ける除草の勞力を節約する等諸種の利點ありて最良の方法と認められ、野地坊主を細斷する法は之に亞ぎ、野地坊主を除去する法は收量著しく劣るを認めたり。尙本泥炭地は何れの開墾法に於ても各作物とも無肥料區は三要素區に比し收量著しく劣り、明に肥料三要素の肥効顯著なるを示し、就中磷酸の肥効顯著にして、燕麥及大豆は加里、窒素は相伯仲して之に亞ぎ、馬鈴薯は窒素に比し加里的肥効稍劣るを示せり。堆肥は各作物共肥効顯著なるを認めたり。其の成績左の如し

釧路試作場試験成績 自昭和十二年 至同十四年

野	肥料	試驗區別	出 産		草 莖	陌當子實收量		平均	割合	子實重量	子實重量	陌當重量	品質	被 害	倒伏	病害	反當子實收量
			期	成		昭	和										
無	肥	無	七二九	八二五	三三	七〇	三〇六	八〇〇	五	三〇	二八	三〇六	三	中	同	二二	三〇

供用作物 燕麥(ビクトリー一號)

合場るせ却焼を主坊地野										合場るせ去除を主坊地野										合場るせ新細を主坊地																															
無 無 無 無 無 無 無 無 無 無										無 無 無 無 無 無 無 無 無 無										無 無 無 無 無 無 無 無 無 無																															
三 磷 三 無 無 無 無 無 無 無 無										三 磷 三 無 無 無 無 無 無 無 無										三 磷 三 無 無 無 無 無 無 無 無																															
要 酸 要 加 加 加 加 加 加 加 加 加										要 酸 要 加 加 加 加 加 加 加 加 加										要 酸 要 加 加 加 加 加 加 加 加 加																															
素 單 素 里 里 里 里 里 里 里 里										素 單 素 里 里 里 里 里 里 里 里 里 里										素 單 素 里 里 里 里 里 里 里 里 里 里																															
堆 肥 堆 肥 堆 肥 堆 肥 堆 肥 堆 肥 堆 肥 堆 肥										堆 肥 堆 肥 堆 肥 堆 肥 堆 肥 堆 肥 堆 肥 堆 肥										堆 肥 堆 肥 堆 肥 堆 肥 堆 肥 堆 肥 堆 肥 堆 肥																															
加 用 加 用 加 用 加 用 加 用 加 用 加 用 加 用 加 用										加 用 加 用 加 用 加 用 加 用 加 用 加 用 加 用 加 用										加 用 加 用 加 用 加 用 加 用 加 用 加 用 加 用 加 用																															
七二九	八二五	一三六	三三	七〇	三〇六	八〇〇	五	三〇	二八	三〇六	三	三	中	同	同	二二	三〇	七二九	八二五	一三六	三三	七〇	三〇六	八〇〇	五	三〇	二八	三〇六	三	三	中	同	二二	三〇	七二九	八二五	一三六	三三	七〇	三〇六	八〇〇	五	三〇	二八	三〇六	三	三	中	同	二二	三〇

備考 昭和十三年野地坊主を焼土せる場合は、生育中野兎の被害により減收せるを以て、各區の比較を便ならしむる爲昭和十三年は平均より除外し二箇年の平均を示せり。

試験區別	開花期		莖葉		隔當子實收量		平均	收量割合	子實重量	子實重量	隔當子實重量	品質順位	病害	反當子實收量
	月日	月日	丈	數	昭和十二年	昭和十三年								
無肥	八・八	八・一〇	七・七	四七	一・一三四	一・一〇〇	一・一三六	六〇	七〇	三三・七	一・〇四一	三	少	三・〇
無窒素	八・八	八・一〇	八・三	四七	一・一三四	一・一〇〇	一・一三六	六〇	七〇	三三・七	一・〇四一	三	少	三・〇
無磷酸	八・八	八・一〇	八・三	四七	一・一三四	一・一〇〇	一・一三六	六〇	七〇	三三・七	一・〇四一	三	少	三・〇
無加素	八・八	八・一〇	八・三	四七	一・一三四	一・一〇〇	一・一三六	六〇	七〇	三三・七	一・〇四一	三	少	三・〇
三要素堆肥	八・八	八・一〇	八・三	四七	一・一三四	一・一〇〇	一・一三六	六〇	七〇	三三・七	一・〇四一	三	少	三・〇
磷酸單用	八・八	八・一〇	八・三	四七	一・一三四	一・一〇〇	一・一三六	六〇	七〇	三三・七	一・〇四一	三	少	三・〇
三要素堆肥加用	八・八	八・一〇	八・三	四七	一・一三四	一・一〇〇	一・一三六	六〇	七〇	三三・七	一・〇四一	三	少	三・〇

試験區別	開花期		莖葉		隔當子實收量		平均	收量割合	子實重量	子實重量	隔當子實重量	品質順位	病害	反當子實收量
	月日	月日	丈	數	昭和十二年	昭和十三年								
無肥	八・八	八・一〇	七・七	四七	一・一三四	一・一〇〇	一・一三六	六〇	七〇	三三・七	一・〇四一	三	少	三・〇
無窒素	八・八	八・一〇	八・三	四七	一・一三四	一・一〇〇	一・一三六	六〇	七〇	三三・七	一・〇四一	三	少	三・〇
無磷酸	八・八	八・一〇	八・三	四七	一・一三四	一・一〇〇	一・一三六	六〇	七〇	三三・七	一・〇四一	三	少	三・〇
無加素	八・八	八・一〇	八・三	四七	一・一三四	一・一〇〇	一・一三六	六〇	七〇	三三・七	一・〇四一	三	少	三・〇
三要素堆肥	八・八	八・一〇	八・三	四七	一・一三四	一・一〇〇	一・一三六	六〇	七〇	三三・七	一・〇四一	三	少	三・〇
磷酸單用	八・八	八・一〇	八・三	四七	一・一三四	一・一〇〇	一・一三六	六〇	七〇	三三・七	一・〇四一	三	少	三・〇
三要素堆肥加用	八・八	八・一〇	八・三	四七	一・一三四	一・一〇〇	一・一三六	六〇	七〇	三三・七	一・〇四一	三	少	三・〇

備考 一 昭和十三年野地坊主を焼却せる場合は、生育中野稔の被害により減收せるを以て、各區の比較を便ならしむる爲、昭和十三年は平均より除外し二箇年の平均を示せり。

供用作物 馬鈴薯(「メーカーン」)

試験區別	開花期		莖葉		隔當子實收量		平均	收量割合	腐敗歩合	品質順位	馬鈴薯生疫病發度	反當薯塊收量
	月日	月日	丈	數	昭和十二年	昭和十三年						
無肥	七・七	七・九	四・四	三	一・二六八	一・一〇〇	一・二〇〇	五〇	二・三	三	中	三・二
無窒素	七・七	七・九	四・四	三	一・二六八	一・一〇〇	一・二〇〇	五〇	二・三	三	中	三・二
無磷酸	七・七	七・九	四・四	三	一・二六八	一・一〇〇	一・二〇〇	五〇	二・三	三	中	三・二
無加素	七・七	七・九	四・四	三	一・二六八	一・一〇〇	一・二〇〇	五〇	二・三	三	中	三・二
三要素堆肥	七・七	七・九	四・四	三	一・二六八	一・一〇〇	一・二〇〇	五〇	二・三	三	中	三・二
磷酸單用	七・七	七・九	四・四	三	一・二六八	一・一〇〇	一・二〇〇	五〇	二・三	三	中	三・二
三要素堆肥加用	七・七	七・九	四・四	三	一・二六八	一・一〇〇	一・二〇〇	五〇	二・三	三	中	三・二

野地坊主	無肥料	無空素	無燐酸	無加里	無燐加	無加里加	無加里加	無加里加	無加里加	無加里加
七月廿八	七月廿七	七月廿七	七月廿七	七月廿七	七月廿七	七月廿七	七月廿七	七月廿七	七月廿七	七月廿七
九月廿三	九月廿三	九月廿三	九月廿三	九月廿三	九月廿三	九月廿三	九月廿三	九月廿三	九月廿三	九月廿三
三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇
一四八〇〇	一四八〇〇	一四八〇〇	一四八〇〇	一四八〇〇	一四八〇〇	一四八〇〇	一四八〇〇	一四八〇〇	一四八〇〇	一四八〇〇
一三九四九	一三九四九	一三九四九	一三九四九	一三九四九	一三九四九	一三九四九	一三九四九	一三九四九	一三九四九	一三九四九
一三六八〇	一三六八〇	一三六八〇	一三六八〇	一三六八〇	一三六八〇	一三六八〇	一三六八〇	一三六八〇	一三六八〇	一三六八〇
一八一八	一八一八	一八一八	一八一八	一八一八	一八一八	一八一八	一八一八	一八一八	一八一八	一八一八
一三六八〇	一三六八〇	一三六八〇	一三六八〇	一三六八〇	一三六八〇	一三六八〇	一三六八〇	一三六八〇	一三六八〇	一三六八〇
一八一八	一八一八	一八一八	一八一八	一八一八	一八一八	一八一八	一八一八	一八一八	一八一八	一八一八
二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇
三七九	三七九	三七九	三七九	三七九	三七九	三七九	三七九	三七九	三七九	三七九
一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇
三六〇	三六〇	三六〇	三六〇	三六〇	三六〇	三六〇	三六〇	三六〇	三六〇	三六〇

備考
一 泥炭土の酸度はpH六・五に矯正せり。
二 燒土區は野地坊主を細断後乾燥し初年目のみ燒却せり。
三 各作物共三要素堆肥加用區は陪當堆肥一五、〇〇〇斤を施用せり。
四 供用肥料 陪當空素(硫酸アンモニア)四〇斤 但し大豆は二〇斤
同 燐酸(精過燐酸石灰)四〇斤
同 加里(硫酸加里)四〇斤

(四) 燕麥對三要素適量査定試験成績

繪山試作場に於て燕麥に對し行ひたる三要素適量査定試験成績に據れば、收量及差引收益共空素にありては陪當九〇斤施用のもの優り、燐酸にありては同七〇斤施用のもの優るを示したるも加里に於ては肥效を認めざりき。然れども空素、燐酸共に陪當五〇斤以上施用は收量増加著しからず、而も施用量増加に隨ひ倒伏の虞あるを以て、成熟期の倒伏狀況等より各要素の經濟的施用量を考察するに、空素、燐酸共に陪當五〇斤施用するを有利とし、加里は施用せざるも可なるを認めたり。其の成績左の如し

繪山試作場試験成績
自昭和十三年
至同十四年

試験區別	出穂期成熟期	草丈	葉數	一區當子實收量		收量割合	子實重量	〇〇〇重量	反當子實收量	依數	生産額	肥料費	差引收益
				昭三十四年	平均								
無空素	七・七	八・九	二二・九	二二・六	二〇〇	一〇〇	四八・八	四八・九	六三〇・九	八七	二五・三	一・〇	四〇・九
空素陪當三〇斤	七・七	八・七	二二・二	二一・三	一五〇	一五〇	四八・三	四九・一	六三〇・三	八七	二五・三	一・〇	四〇・九
同	七・七	八・七	二二・九	二二・五	一六三	一六三	四七・五	四八・五	六三〇・三	九七	二五・三	一・〇	四〇・九
同	七・七	八・七	二二・九	二二・五	一六六	一六六	四七・三	四八・〇	六三〇・七	九七	二五・三	一・〇	四〇・九
同	七・六	八・八	二二・七	二二・七	一七三	一七三	四七・三	四八・三	六三〇・七	九七	二五・三	一・〇	四〇・九
同	七・六	八・八	二二・七	二二・七	一六二	一六二	四六・六	四七・三	六三〇・四	九四	二五・三	一・〇	四〇・九
無燐	七・六	八・八	二二・九	二二・四	一〇〇	一〇〇	四六・三	四六・三	六三〇・一	九三	二五・三	一・〇	四〇・九
燐陪當三〇斤	七・五	八・八	二三・〇	二三・二	一〇一	一〇一	四六・五	四六・五	六三〇・五	九三	二五・三	一・〇	四〇・九
同	七・五	八・八	二三・四	二三・五	一〇四	一〇四	四六・三	四六・三	六三〇・一	九三	二五・三	一・〇	四〇・九
同	七・五	八・八	二三・七	二三・五	一〇九	一〇九	四六・三	四六・三	六三〇・五	九七	二五・三	一・〇	四〇・九
同	七・五	八・八	二三・七	二三・七	一〇九	一〇九	四六・三	四六・三	六三〇・五	九七	二五・三	一・〇	四〇・九
同	七・六	八・八	二三・一	二三・六	一〇四	一〇四	四七・〇	四七・〇	六三〇・二	九七	二五・三	一・〇	四〇・九
無加里	七・六	八・八	二三・五	二三・五	一〇〇	一〇〇	四六・八	四六・八	六三〇・九	九九	二五・三	一・〇	四〇・九
加里陪當三〇斤	七・六	八・七	二三・七	二三・七	九九	九九	四六・三	四六・三	六三〇・三	九九	二五・三	一・〇	四〇・九
同	七・六	八・七	二三・七	二三・五	九九	九九	四六・三	四六・三	六三〇・三	九九	二五・三	一・〇	四〇・九
同	七・六	八・七	二三・七	二三・五	九九	九九	四六・三	四六・三	六三〇・三	九九	二五・三	一・〇	四〇・九
同	七・六	八・七	二三・七	二三・五	九九	九九	四六・三	四六・三	六三〇・三	九九	二五・三	一・〇	四〇・九
同	七・六	八・七	二三・七	二三・五	九九	九九	四六・三	四六・三	六三〇・三	九九	二五・三	一・〇	四〇・九
同	七・六	八・七	二三・七	二三・五	九九	九九	四六・三	四六・三	六三〇・三	九九	二五・三	一・〇	四〇・九

備考
一 共通肥料 陪當空素(硫酸アンモニア)九〇斤、燐酸(精過燐酸石灰)九〇斤、加里(硫酸加里)五〇斤。
二 肥料價格 昭和十三年、同十四年各三月に於ける小樽驛渡し平均價格にして、要素一〇斤當空素五圓一七錢、燐酸三圓六八錢、加里三圓七一錢なりとす。共通肥料は見積らず。

(五) 除蟲菊三要素適量査定試験成績

和寒除蟲菊試験地に於ける試験成績に據れば、肥料三要素の適量次の如し

- (一) 窒素に於ては株齡三年、四年は無窒素優るも、其の後は窒素陌當二〇疋乃至四〇疋施用優り、平均收量より考察するも其の適量は陌當二〇疋乃至四〇疋なり。
- (二) 磷酸に於ては株齡三年、四年は磷酸陌當一〇疋優り、其の後は磷酸の用量と共に漸次優る傾向あるも、其の適量は大體陌當二〇疋なり。
- (三) 加里に於ては株齡三年、四年は加里陌當六〇疋優るも、其の後は陌當二〇疋優り、其の適量は大體陌當二〇疋なり。

和寒除蟲菊試験地試験成績

自昭和十一年
至同十四年

試験區別	草		丈		開花期(一株當)		收穫期	生育 日數	陌當乾花賞收量				收量 割合	各無要 素區を 100とせ る割合	
	萌芽期	結莢期	開花期	莖	數	分枝數			着花數	昭和十一年	昭和十二年	同十三年			同十四年
無肥	三	三	六	六	三	三	八	六〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	100	100
無窒素	三	三	六	六	三	三	八	六〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	100	100
窒素陌當二〇疋	三	三	六	六	三	三	八	六〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	100	100
同 四〇疋	三	三	六	六	三	三	八	六〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	100	100
同 六〇疋	三	三	六	六	三	三	八	六〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	100	100
同 八〇疋	三	三	六	六	三	三	八	六〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	100	100
同 一〇〇疋	三	三	六	六	三	三	八	六〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	100	100
加里陌當二〇疋	三	三	六	六	三	三	八	六〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	100	100
同 四〇疋	三	三	六	六	三	三	八	六〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	100	100
同 六〇疋	三	三	六	六	三	三	八	六〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	100	100
同 八〇疋	三	三	六	六	三	三	八	六〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	100	100
同 一〇〇疋	三	三	六	六	三	三	八	六〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	100	100
無加里	三	三	六	六	三	三	八	六〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	100	100
磷酸陌當二〇疋	三	三	六	六	三	三	八	六〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	100	100
同 四〇疋	三	三	六	六	三	三	八	六〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	100	100
同 六〇疋	三	三	六	六	三	三	八	六〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	100	100
同 八〇疋	三	三	六	六	三	三	八	六〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	100	100
同 一〇〇疋	三	三	六	六	三	三	八	六〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	100	100

試験區別	草		丈		開花期(一株當)		收穫期	生育 日數	陌當乾花賞收量				收量 割合	各無要 素區を 100とせ る割合	
	萌芽期	結莢期	開花期	莖	數	分枝數			着花數	昭和十一年	昭和十二年	同十三年			同十四年
磷酸陌當二〇疋	三	三	六	六	三	三	八	六〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	100	100
同 四〇疋	三	三	六	六	三	三	八	六〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	100	100
同 六〇疋	三	三	六	六	三	三	八	六〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	100	100
同 八〇疋	三	三	六	六	三	三	八	六〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	100	100
同 一〇〇疋	三	三	六	六	三	三	八	六〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	100	100
加里陌當二〇疋	三	三	六	六	三	三	八	六〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	100	100
同 四〇疋	三	三	六	六	三	三	八	六〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	100	100
同 六〇疋	三	三	六	六	三	三	八	六〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	100	100
同 八〇疋	三	三	六	六	三	三	八	六〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	100	100
同 一〇〇疋	三	三	六	六	三	三	八	六〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	100	100
無加里	三	三	六	六	三	三	八	六〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	100	100
磷酸陌當二〇疋	三	三	六	六	三	三	八	六〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	100	100
同 四〇疋	三	三	六	六	三	三	八	六〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	100	100
同 六〇疋	三	三	六	六	三	三	八	六〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	100	100
同 八〇疋	三	三	六	六	三	三	八	六〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	100	100
同 一〇〇疋	三	三	六	六	三	三	八	六〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	100	100

備考 共通肥料 陌當窒素適量査定 磷酸六〇疋、加里四〇疋。磷酸適量査定 窒素四〇疋、加里四〇疋。加里適量査定 窒素四〇疋、磷酸六〇疋。

(六) 甜菜對綠肥跡地磷酸及加里適量査定試験成績

十勝支場に於て綠肥跡地に於て燕麥單作跡地の甜菜に就き、磷酸及加里の適量を査定せる試験の成績に據れば、燕麥單作跡地の菜根收量と磷酸施用量との關係は、磷酸陌當五六・三疋區の收量は陌當一四、六六五疋にして最高を示し、夫れ以上に磷酸を増施するも收量増加なく、燕麥間作赤クローバーを秋耕の際翻込みたる綠肥跡地に於ては磷酸は施用量を増すに隨ひ收量増加し、磷酸陌當一五〇・〇疋區の收量最高にして陌當二五、五三三疋を示し、又加里にありては燕麥單作跡地は二八・一疋區の收量最高にして陌當二三、二一五疋なるも、綠肥跡地は加里陌當五六・三疋區の收量陌當二七、五四七疋最高にして、加里の用量を増すに隨ひ收量を増加す。之を要するに綠肥跡地に於ては寧ろ金肥窒素の施用量を減じ、磷酸及加里分を多く施用するの得策なるを認め得べし。其の成績左の如し

供用品種 「本育一九〇號」

十勝支場試驗成績

自昭和十四年 至同十四年

試驗區別	收穫期	草丈	葉數	根周	缺株	隔當				根收						
						昭和	同	同	同	昭和	同	同	同			
無肥	二〇二七	三七一	三〇五	二〇・三	四・七	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
無磷	二〇二七	三三〇	三〇〇	二〇・三	四・七	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
無酸	二〇二七	三三七	三〇〇	二〇・三	四・七	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
磷肥	二〇二七	三三七	三〇〇	二〇・三	四・七	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
磷酸	二〇二七	三三七	三〇〇	二〇・三	四・七	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
磷肥+磷酸	二〇二七	三三七	三〇〇	二〇・三	四・七	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同

試驗區別

葉重量

根分中

純糖率

反當收量

反當收量

肥料費

收益引

摘要

一、供試肥料 精過磷酸石灰
一、共通肥料(同當室素三七五冠(智利硝石)
但し燕麥單作跡地の窒素は隔當智利硝石三

試驗區別	收穫期	草丈	葉數	根周	缺株	隔當				根收					
						昭和	同	同	同	昭和	同	同	同		
無肥	二〇二七	三七一	三〇五	二〇・三	四・七	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
無磷	二〇二七	三三〇	三〇〇	二〇・三	四・七	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
無酸	二〇二七	三三七	三〇〇	二〇・三	四・七	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
磷肥	二〇二七	三三七	三〇〇	二〇・三	四・七	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
磷酸	二〇二七	三三七	三〇〇	二〇・三	四・七	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
磷肥+磷酸	二〇二七	三三七	三〇〇	二〇・三	四・七	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同

試驗區別	收穫期	草丈	葉數	根周	缺株	隔當				根收					
						昭和	同	同	同	昭和	同	同	同		
無肥	二〇二七	三七一	三〇五	二〇・三	四・七	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
無磷	二〇二七	三三〇	三〇〇	二〇・三	四・七	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
無酸	二〇二七	三三七	三〇〇	二〇・三	四・七	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
磷肥	二〇二七	三三七	三〇〇	二〇・三	四・七	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
磷酸	二〇二七	三三七	三〇〇	二〇・三	四・七	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
磷肥+磷酸	二〇二七	三三七	三〇〇	二〇・三	四・七	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同

試驗區別	期收	草丈	葉數	根周	缺株	隔當				平均	收量	割合
						昭和十年	同一年	同二年	同三年			
加里隔當	九〇四	二〇二	一六四	九〇	四・〇三	六・五	三・八	七・五	二・五	二・五	一〇〇	
同	一八八	二〇二	一五九	八〇	四・四九	六・七	三・九	七・五	二・五	二・五	一〇〇	
同	二八二	二〇二	一五九	九〇	四・一八	六・四	三・九	八・三	二・四	二・四	一〇〇	
同	三七五	二〇二	一六三	九〇	四・一七	六・九	三・九	八・六	二・四	二・四	一〇〇	
同	四六九	二〇二	一六三	九〇	四・五三	七・五	三・九	九・三	二・七	二・七	一〇〇	
同	五六三	二〇二	一六三	九〇	四・五三	七・五	三・九	九・三	二・七	二・七	一〇〇	
同	六五・六	二〇二	一六三	九〇	四・六〇	七・五	三・九	九・三	二・七	二・七	一〇〇	

一、共通肥料
 隔當窒素(智利硝石)三七・五疋。
 隔當磷酸(精過磷酸石灰)七五・〇疋。
 但し燕麥單作跡地の窒素は隔當智利硝石三〇〇疋、硫酸アモニア一二〇疋施用。

試驗區別	期收	草丈	葉數	根周	缺株	隔當				平均	收量	割合
						昭和十年	同一年	同二年	同三年			
無肥料	二〇二	二八二	一六九	一〇	三・五〇	五・四	一・〇	四・四	一・〇	一・〇	一〇〇	
無磷	二〇二	二八二	一六九	一〇	三・五〇	五・四	一・〇	四・四	一・〇	一・〇	一〇〇	
無酸	二〇二	二八二	一六九	一〇	三・五〇	五・四	一・〇	四・四	一・〇	一・〇	一〇〇	
磷酸隔當	九〇四	二〇二	一六九	一〇	三・五〇	五・四	一・〇	四・四	一・〇	一・〇	一〇〇	
同	一八八	二〇二	一六九	一〇	三・五〇	五・四	一・〇	四・四	一・〇	一・〇	一〇〇	
同	三七五	二〇二	一六九	一〇	三・五〇	五・四	一・〇	四・四	一・〇	一・〇	一〇〇	
同	五六三	二〇二	一六九	一〇	三・五〇	五・四	一・〇	四・四	一・〇	一・〇	一〇〇	
同	七五〇	二〇二	一六九	一〇	三・五〇	五・四	一・〇	四・四	一・〇	一・〇	一〇〇	
同	九三九	二〇二	一六九	一〇	三・五〇	五・四	一・〇	四・四	一・〇	一・〇	一〇〇	
同	一一二五	二〇二	一六九	一〇	三・五〇	五・四	一・〇	四・四	一・〇	一・〇	一〇〇	
同	一三三三	二〇二	一六九	一〇	三・五〇	五・四	一・〇	四・四	一・〇	一・〇	一〇〇	
同	一五〇〇	二〇二	一六九	一〇	三・五〇	五・四	一・〇	四・四	一・〇	一・〇	一〇〇	

試驗區別	期收	草丈	葉數	根周	缺株	隔當				平均	收量	割合
						昭和十年	同一年	同二年	同三年			
無肥料	二〇二	二八二	一六九	一〇	三・五〇	五・四	一・〇	四・四	一・〇	一・〇	一〇〇	
無磷	二〇二	二八二	一六九	一〇	三・五〇	五・四	一・〇	四・四	一・〇	一・〇	一〇〇	
無酸	二〇二	二八二	一六九	一〇	三・五〇	五・四	一・〇	四・四	一・〇	一・〇	一〇〇	
磷酸隔當	九〇四	二〇二	一六九	一〇	三・五〇	五・四	一・〇	四・四	一・〇	一・〇	一〇〇	
同	一八八	二〇二	一六九	一〇	三・五〇	五・四	一・〇	四・四	一・〇	一・〇	一〇〇	
同	三七五	二〇二	一六九	一〇	三・五〇	五・四	一・〇	四・四	一・〇	一・〇	一〇〇	
同	五六三	二〇二	一六九	一〇	三・五〇	五・四	一・〇	四・四	一・〇	一・〇	一〇〇	
同	七五〇	二〇二	一六九	一〇	三・五〇	五・四	一・〇	四・四	一・〇	一・〇	一〇〇	
同	九三九	二〇二	一六九	一〇	三・五〇	五・四	一・〇	四・四	一・〇	一・〇	一〇〇	
同	一一二五	二〇二	一六九	一〇	三・五〇	五・四	一・〇	四・四	一・〇	一・〇	一〇〇	
同	一三三三	二〇二	一六九	一〇	三・五〇	五・四	一・〇	四・四	一・〇	一・〇	一〇〇	
同	一五〇〇	二〇二	一六九	一〇	三・五〇	五・四	一・〇	四・四	一・〇	一・〇	一〇〇	

試驗區別	期收	草丈	葉數	根周	缺株	隔當				平均	收量	割合
						昭和十年	同一年	同二年	同三年			
無肥料	二〇二	二八二	一六九	一〇	三・五〇	五・四	一・〇	四・四	一・〇	一・〇	一〇〇	
加里隔當	九〇四	二〇二	一六九	一〇	三・五〇	五・四	一・〇	四・四	一・〇	一・〇	一〇〇	
同	一八八	二〇二	一六九	一〇	三・五〇	五・四	一・〇	四・四	一・〇	一・〇	一〇〇	
同	二八二	二〇二	一六九	一〇	三・五〇	五・四	一・〇	四・四	一・〇	一・〇	一〇〇	
同	三七五	二〇二	一六九	一〇	三・五〇	五・四	一・〇	四・四	一・〇	一・〇	一〇〇	
同	四六九	二〇二	一六九	一〇	三・五〇	五・四	一・〇	四・四	一・〇	一・〇	一〇〇	

地	同	同
五六三斤	二〇二七	三五〇三
六五六斤	二〇二七	二四・三
	二六・三三	九・〇
	二四・一	一七八九
	二五	二二九九
	一七二四	二二五五
	二二四九	二二〇九
	二五〇七	二〇九二
	一七〇一	一八六五〇
	一〇三三	二二、二五
	一〇一八	二九二七
	一〇一八	三五三
	九三	二五五三
	二五四八	四〇三二
	三四〇	二八六三
	二四二六	二五八
	二四三九	三五八
	二五五八	三五四八
	九五	一〇三

試験區別	加里	反當收量		反當收益		摘	要
		可製糖量	價額	肥料費	收差引		
無加里	一五六〇	四八〇	二七・三	七・〇	一九八二	一、供試肥料 硫酸加里 二、共通肥料 陌當窒素(智利硝石)三七・五 斤、磷酸(精過磷酸石灰)七五・〇斤。 但し燕麥單作跡地窒素は陌當智利硝石三〇〇 斤、硫酸アンモニア一二〇斤施用。	
加里陌當	一四八〇三	三三三	二九・七	七・六	二九二		
同	一五八四九	五五三	三〇・五	八・三	三・〇三		
同	一五〇一七	五九〇	三〇・九六	八・三	三・三		
同	一五五三四	五五三	二九・一一	八・四	二・七		
同	一五八二五	五五八	二八・九八	九・〇	一・六八		
同	一六八九	五五	二八・九八	九・〇	一・六八		
同	一六六九	五五	二八・九八	九・〇	一・六八		
同	一五〇四三	五五	二八・九八	九・〇	一・六八		
同	一五〇四三	五五	二八・九八	九・〇	一・六八		
同	一五六七九	五九一	二六・九三	一〇・三	一・六九〇		

(七) 馬鈴薯對加里用量試驗成績

美瑛試作場に於て馬鈴薯に對する加里的適量を知らんとして試験せる成績に據れば、生育の狀況は加里的施用に依り良好となるも、其の施用量に依る差比較的少なく、開花及成熟は施用量の少なき場合は早く、施用量の多き場合は遅延する傾向を示せり。收量は加里的施用量陌當六〇斤迄は施用量を増すに伴ひ漸次増加するも、六〇斤以上は年に依り成績を異にせり。其の成績左の如し

(一) 生育並に收量調査
美瑛試作場試驗成績
自昭和十二年
至同十四年

試験區別	肥料	開花始	成熟期	草丈	莖數	收量			收量割合
						同十二年	同十三年	同十四年	
無加里	七・八	一〇・八	四・五	三・三	一五〇八	一七二六	一一〇七	一四四・〇	六三
陌當加里	七・三	一〇・六	五・〇	三・八	三三・四七	三二・八七	一六・〇七	一四四・〇	一〇〇
同	七・三	一〇・六	五・〇	四・一	二七・七五	三三・四七	三二・八七	一四四・〇	一〇〇
同	四・〇	一〇・五	五・九	四・三	三〇・七五	三八・三三	三三・四〇	一四四・〇	一三三
同	六・〇	一〇・六	五・九	三・六	三三・〇五	三九・六〇	二七・九七	一四四・〇	一三〇
同	八・〇	一〇・六	五・九	三・九	二六・七九	三七・八一	二七・一六	一四四・〇	一三〇
同	一〇・〇	一〇・六	六・三	四・〇	二八・三九	四〇・六八	三三・六五	一四四・〇	一三九
無加里	七・〇	一〇・四	四・五	三・八	一五〇八	一七二六	一一〇七	一四四・〇	六三
陌當加里	七・四	一〇・四	五・〇	三・八	三三・四七	三二・八七	一六・〇七	一四四・〇	一〇〇
同	七・三	一〇・五	五・九	四・一	二七・七五	三三・四七	三二・八七	一四四・〇	一〇〇
同	四・〇	一〇・五	五・九	四・三	三〇・七五	三八・三三	三三・四〇	一四四・〇	一三三
同	六・〇	一〇・六	五・九	三・六	三三・〇五	三九・六〇	二七・九七	一四四・〇	一三〇
同	八・〇	一〇・六	五・九	三・九	二六・七九	三七・八一	二七・一六	一四四・〇	一三〇
同	一〇・〇	一〇・六	六・三	四・〇	二八・三九	四〇・六八	三三・六五	一四四・〇	一三九

(二) 收益調査

試験區別	薯	價格	肥料	收	差引	收益
無肥		三七・二〇		一		三七・二〇
無加里		六三・二〇		五三・〇〇		一〇・二〇
同		六〇・二五		六〇・〇〇		〇・二五
同		八〇・一八五		六七・〇〇		一三・一八五
同		八四・一〇〇		七四・〇〇		一〇・一〇〇
同		七八四・四五		八一・〇〇		七〇三・四五
同		八三九・五五		八九・〇〇		七五〇・五五

備考
馬鈴薯は一俵一圓四五錢、一畝素は一畝五二錢、硝酸は一畝三三錢、加里一畝三五錢として計算す。

(八) 水稻對堆肥施用試験成績

日高試作場に於て水稻に對し行ひたる堆肥用量試験の成績に據れば、收量は過磷酸石灰併用區及硫酸アンモニア過磷酸石灰併用區共に、堆肥の用量を増すに隨ひ増加するも、差引收益に於ては硫酸アンモニア過磷酸石灰併用の場合は堆肥併用の場合に比し劣るを以て、堆肥の施用量は併當七、五〇〇疋とし、硫酸アンモニア及過磷酸石灰を併用するの要あるを認めたり。其の成績左の如し。

日高試作場試験成績 自昭和八年 至同 十四年

供用作物 水稻 (「坊主五號」)

試驗區別	穗出	期熟	丈草	莖數	収摺歩合	同				平均	收量割合	
						昭和八年	同九年	同十年	同十一年			
無堆肥	八・三	九・六	七・九	一〇	七・八	三・四八	一・四三	九・八	一・二七	一・九三	一・六五	一〇〇
同	八・三	九・六	七・九	一〇	八・〇〇	三・四八	一・四三	九・八	一・二七	一・九三	一・六五	101
同	八・三	九・六	七・九	一〇	七・六三	三・三九	一・三七	九・八	一・二七	一・九三	一・六五	101
同	八・三	九・六	七・九	一〇	七・九	三・三九	一・三七	九・八	一・二七	一・九三	一・六五	101
同	八・三	九・六	七・九	一〇	七・九	三・三九	一・三七	九・八	一・二七	一・九三	一・六五	101
同	八・三	九・六	七・九	一〇	七・九	三・三九	一・三七	九・八	一・二七	一・九三	一・六五	101
同	八・三	九・六	七・九	一〇	七・九	三・三九	一・三七	九・八	一・二七	一・九三	一・六五	101
同	八・三	九・六	七・九	一〇	七・九	三・三九	一・三七	九・八	一・二七	一・九三	一・六五	101
同	八・三	九・六	七・九	一〇	七・九	三・三九	一・三七	九・八	一・二七	一・九三	一・六五	101
同	八・三	九・六	七・九	一〇	七・九	三・三九	一・三七	九・八	一・二七	一・九三	一・六五	101
同	八・三	九・六	七・九	一〇	七・九	三・三九	一・三七	九・八	一・二七	一・九三	一・六五	101
同	八・三	九・六	七・九	一〇	七・九	三・三九	一・三七	九・八	一・二七	一・九三	一・六五	101

試驗區別	期出	期熟	丈草	莖數	収摺歩合	昭和八年	同九年	同十年	同十一年	同十二年	同十三年	同十四年	平均	收量割合
無堆肥	八・三	九・六	七・九	一〇	七・八	三・四八	一・四三	九・八	一・二七	一・九三	一・六五	一・九三	一・六五	100
同	八・三	九・六	七・九	一〇	八・〇〇	三・四八	一・四三	九・八	一・二七	一・九三	一・六五	一・九三	一・六五	101
同	八・三	九・六	七・九	一〇	七・六三	三・三九	一・三七	九・八	一・二七	一・九三	一・六五	一・九三	一・六五	101
同	八・三	九・六	七・九	一〇	七・九	三・三九	一・三七	九・八	一・二七	一・九三	一・六五	一・九三	一・六五	101
同	八・三	九・六	七・九	一〇	七・九	三・三九	一・三七	九・八	一・二七	一・九三	一・六五	一・九三	一・六五	101
同	八・三	九・六	七・九	一〇	七・九	三・三九	一・三七	九・八	一・二七	一・九三	一・六五	一・九三	一・六五	101
同	八・三	九・六	七・九	一〇	七・九	三・三九	一・三七	九・八	一・二七	一・九三	一・六五	一・九三	一・六五	101
同	八・三	九・六	七・九	一〇	七・九	三・三九	一・三七	九・八	一・二七	一・九三	一・六五	一・九三	一・六五	101
同	八・三	九・六	七・九	一〇	七・九	三・三九	一・三七	九・八	一・二七	一・九三	一・六五	一・九三	一・六五	101
同	八・三	九・六	七・九	一〇	七・九	三・三九	一・三七	九・八	一・二七	一・九三	一・六五	一・九三	一・六五	101
同	八・三	九・六	七・九	一〇	七・九	三・三九	一・三七	九・八	一・二七	一・九三	一・六五	一・九三	一・六五	101
同	八・三	九・六	七・九	一〇	七・九	三・三九	一・三七	九・八	一・二七	一・九三	一・六五	一・九三	一・六五	101
同	八・三	九・六	七・九	一〇	七・九	三・三九	一・三七	九・八	一・二七	一・九三	一・六五	一・九三	一・六五	101
同	八・三	九・六	七・九	一〇	七・九	三・三九	一・三七	九・八	一・二七	一・九三	一・六五	一・九三	一・六五	101
同	八・三	九・六	七・九	一〇	七・九	三・三九	一・三七	九・八	一・二七	一・九三	一・六五	一・九三	一・六五	101
同	八・三	九・六	七・九	一〇	七・九	三・三九	一・三七	九・八	一・二七	一・九三	一・六五	一・九三	一・六五	101
同	八・三	九・六	七・九	一〇	七・九	三・三九	一・三七	九・八	一・二七	一・九三	一・六五	一・九三	一・六五	101
同	八・三	九・六	七・九	一〇	七・九	三・三九	一・三七	九・八	一・二七	一・九三	一・六五	一・九三	一・六五	101
同	八・三	九・六	七・九	一〇	七・九	三・三九	一・三七	九・八	一・二七	一・九三	一・六五	一・九三	一・六五	101
同	八・三	九・六	七・九	一〇	七・九	三・三九	一・三七	九・八	一・二七	一・九三	一・六五	一・九三	一・六五	101
同	八・三	九・六	七・九	一〇	七・九	三・三九	一・三七	九・八	一・二七	一・九三	一・六五	一・九三	一・六五	101
同	八・三	九・六	七・九	一〇	七・九	三・三九	一・三七	九・八	一・二七	一・九三	一・六五	一・九三	一・六五	101
同	八・三	九・六	七・九	一〇	七・九	三・三九	一・三七	九・八	一・二七	一・九三	一・六五	一・九三	一・六五	101
同	八・三	九・六	七・九	一〇	七・九	三・三九	一・三七	九・八	一・二七	一・九三	一・六五	一・九三	一・六五	101
同	八・三	九・六	七・九	一〇	七・九	三・三九	一・三七	九・八	一・二七	一・九三	一・六五	一・九三	一・六五	101
同	八・三	九・六	七・九	一〇	七・九	三・三九	一・三七	九・八	一・二七	一・九三	一・六五	一・九三	一・六五	101
同	八・三	九・六	七・九	一〇	七・九	三・三九	一・三七	九・八	一・二七	一・九三	一・六五	一・九三	一・六五	101
同	八・三	九・六	七・九	一〇	七・九	三・三九	一・三七	九・八	一・二七	一・九三	一・六五	一・九三	一・六五	101

過石	同	一五〇〇〇	同	四一七	同	八〇三	同	三三〇	同	六六四	同	六六四	同	一三〇〇	同	五九〇〇
磷灰	同	三二五〇〇	同	四三三	同	七九八	同	二八	同	六〇五	同	四〇五	同	一五〇〇	同	五九〇〇
併用	同	三〇〇〇〇	同	四三三	同	七九八	同	三三	同	六〇五	同	四〇五	同	一五〇〇	同	五九〇〇
酸用	同	三二五〇〇	同	四三三	同	七九八	同	三三	同	六〇五	同	四〇五	同	一五〇〇	同	五九〇〇

備考 共通肥料 過燐酸石灰併用區は 陌當精燐酸石灰にて燐酸八〇坩、硫酸アンモニア過燐酸石灰併用區は 陌當硫酸アンモニアにて窒素四〇坩、精燐酸石灰にて燐酸八〇坩施用。
 肥料價格 堆肥三七五坩(一〇〇貫匁) 一圓五〇錢 硫酸アンモニア一坩一四・八錢(陌當二八・四圓) 精燐酸石灰一坩一〇・五錢(陌當三四圓) 玄米價格 一俵一五・六圓(昭和十四年十二月一日現在)

(九) 除蟲菊對堆肥施用試驗成績

和寒除蟲菊試驗地に於ける試驗成績に據れば、該地方に於ては堆肥反當五〇〇貫匁内外を移植前に施用するを適當と認めたり。其の成績左の如し

和寒除蟲菊試驗地試驗成績 自昭和十一年至同十四年

試驗區別	草		丈		開花期(一株當)		收穫期	生育日數	陌當		乾花實收量	同收量	同收量
	萌芽期	結實期	開花期	莖數	分枝數	着花數			昭和十一年(同十二年)	昭和十三年(同十四年)			
無肥料	五	三〇	五	三〇	六〇	七〇	七・四	六〇	三三	三九	三〇	四七	一〇〇
堆肥を施さず	五	三〇	五	三〇	六〇	七〇	七・四	六〇	三三	三九	三〇	四七	一〇〇
堆肥反當二六四貫	五	三〇	五	三〇	六〇	七〇	七・四	六〇	三三	三九	三〇	四七	一〇〇
同 五二九貫	五	三〇	五	三〇	六〇	七〇	七・四	六〇	三三	三九	三〇	四七	一〇〇
同 七九三貫	五	三〇	五	三〇	六〇	七〇	七・四	六〇	三三	三九	三〇	四七	一〇〇
同 一〇五八貫	五	三〇	五	三〇	六〇	七〇	七・四	六〇	三三	三九	三〇	四七	一〇〇

備考 一 共通肥料 魚粕陌當一八九・〇五坩(春季一三・四三坩、秋季七五・六二坩) 硫酸アンモニア陌當七五・六二坩 精燐酸石灰陌當一五一・二四坩 硫酸加里陌當七五・六二坩
 二 植付初年度に於て所定の堆肥を施し次年度よりは標準耕種法に依り施肥せり

(一〇) 石狩國に於ける堆肥對三要素用試驗成績

一 石狩國空知郡瀧川町字瀧の川西二丁目 第四紀古層 埴土
 本試驗の成績に據れば、反當堆肥三〇〇貫匁を基本肥料として之に窒素を反當一・〇貫匁を施用する場合、最高收量を擧げ得たるも、燐酸及加里は孰れも之が肥效を認め難きを示せり。而して肥料費を差引きたる收益にありても同様の傾向を示し反當堆肥三〇〇貫匁を併用する場合、窒素は反當一・〇貫匁を適量とするも、燐酸及加里の施用效果は明ならずして當分是等二要素施用の必要は無きもの如く認めたり。其の成績左の如し

本場委託試驗成績 自昭和十三年至同十四年

供試作物	一區面積	試驗區別	草丈莖數	10陌(反)當收量		收量	收量	收量	10陌(反)當收益	同
				昭和十三年	昭和十四年					
水稻(「富國」)	三三・一平方米	10陌反當堆肥三〇〇貫併用	七・五	三三	三三	三三	三三	三三	七・三	同上
		無肥料	七・五	三三	三三	三三	三三	三三	七・三	同上
		無窒素	七・五	三三	三三	三三	三三	三三	七・三	同上
		窒素一・〇貫	七・五	三三	三三	三三	三三	三三	七・三	同上

同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	昭和十三年		昭和十四年		平均		玄米 重量 割量	玄米 一立 重量	10陌(反)當堆肥三〇〇貫併用 無窒素 無肥料	10陌(反)當收量	10陌(反)當堆肥三〇〇貫併用 無窒素 無肥料	10陌(反)當收量	10陌(反)當堆肥三〇〇貫併用 無窒素 無肥料	10陌(反)當收量		
															昭三	昭四	昭三	昭四	昭三	昭四									昭三	昭四
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同

備考 一 供用肥料中「硫酸」は硫酸アンモニア、「精過石」は精過燐酸石灰、「硫加」は硫酸加里の略稱とす。以下做之。
 二 窒素は硫酸アンモニア、燐酸は精過燐酸石灰、加里は硫酸加里にて施給。以下做之。
 三 共通肥料 堆肥10陌(反)當一、二五冠(三〇〇貫)、窒素査定區10陌(反)當燐酸五、六二五冠(一・五貫)、加里五、六二五冠(一・五貫)、加里査定區10陌(反)當窒素五、六二五冠(一・五貫)、燐酸査定區10陌(反)當窒素五、六二五冠(一・五貫)、加里五、六二五冠(一・五貫)。
 四 肥料價格は昭和十三年並に同十四年各三月に於ける小樽驛渡し平均價格にして、三七五冠(一〇〇貫)當硫酸アンモニア四圓、精過燐酸石灰二圓八〇錢、硫酸加里六圓八〇錢なりとす。但し堆肥の價格は計算に加へず。以下做之。
 五 玄米價格は昭和十三年一月より同十四年九月に至る二箇年平均小樽市場價格にして、六〇冠に付二圓八五錢なりとす。以下做之。
 六 本試験地に於ては、自昭和十一年至同十二年反當堆肥三〇〇貫を併用し、現地三要素試験を施行せるに、燐酸及加里の肥効を認め得ざりき。「試験及調査の成績に鑑み指導獎勵上注意すべき事項」第九輯一四一頁参照)

二 石狩國空知郡江部乙村字西十一丁目 第四紀新層 埴土

本試験の成績に據れば、反當堆肥三〇〇貫を基本肥料とし、之に窒素反當一・五貫、燐酸及加里各反當一・〇貫を施用

用する場合、最高收量を擧ぐるを認めたり。而して肥料費を差引きたる収益にありては、各要素施用量の間に大差なきも、窒素、燐酸、加里、孰れも反當一・〇貫を施用の場合最高なるを示せり。其の成績左の如し

本場委託試験成績 自昭和十三年至同十四年

供試作物 水稻 (「富國」)
 一區面積 三三・一平方米

試	驗	區	別	草	丈	莖	數	總	重	10陌(反)當收量		玄	米	割	收	玄	米	一	立	重	生	産	物	施	用	肥	差	引	割	合
										昭	十																			
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同

(二) 石狩、後志及十勝國に於ける窒素質肥料肥效比較並に配合試験成績

一 石狩國空知郡美唄町第五區 第四紀古層 埴土

(一) 窒素質肥料肥效比較試験成績

本試験の成績に據れば、收量並に肥料費を差引きたる收益の最も優れるは、鱈粕にして、石灰窒素、硫酸アンモニア之に順次し、大豆粕の肥效最も劣るを示せり。其の成績左の如し

本場委託試験成績 自昭和十三年 至同十四年

供試作物 水稻 (「富國」)
一區面積 三三・一平方米

試験區別	草丈	莖數	總重量	10 陌 (反) 當收量			玄米容米量	收量割合 (重量)	玄米一立重量	10 陌 (反) 當收益		
				昭和十三年	同十四年	平均				生産物價額	肥料價額	收益引
無窒素	七〇・一	三三本	六八〇	三三二	三三八	三三九	二・三三九	一〇〇	七九三	四二二	六八〇	一〇〇
大豆粕	七五・五	三三本	七七四	三六五	三六五	三六五	二・五九九	一〇九	七九三	七四二	七九三	一〇五
鱈粕	六六	三三本	八四三	四三五	三七四	三九二	二・八八八	一一九	七八三	七八七	七八〇	一一五
石灰窒素	七〇・四	三三本	六八七	三三三	三三三	三三七	二・六七〇	一一三	六八四	五〇九	七三三	一一三
硫酸安	七五・七	三三本	七二二	三七七	三七七	三七七	二・五九〇	一一〇	六八六	五・七	七三三	一一九

(二) 窒素質肥料配合試験成績

本試験の成績に據れば收量の最も優れるは、堆肥を基本肥料とし、之に施給窒素の二分の一宛を硫酸アンモニアと石灰窒素にて施用せるものにして、同様に硫酸アンモニアと鱈粕を併用せるもの相伯仲して之に亞ぎ、堆肥を併用せずして施給窒素の二分の一宛を夫れ夫れ硫酸アンモニアと大豆粕、硫酸アンモニアと石灰窒素、硫酸アンモニアと鱈粕を併用せるもの相順次して之に亞げり。而して肥料費を差引きたる收益に於ても、堆肥を施用し之に硫酸アンモニアと石灰窒素とを施用せるも

の最も優り、同様に硫酸アンモニアと鱈粕を併用せるもの之に亞ぎ、堆肥を施用せざる硫酸アンモニア石灰窒素併用のもの又は硫酸アンモニア大豆粕併用のもの之に順次するを示せり。其の成績左の如し

本場委託試験成績

自昭和十三年 至同十四年

供試作物 水稻 (「富國」)
一區面積 三三・一平方米

試験區別	草丈	莖數	總重量	10 陌 (反) 當收量			玄米容米量	收量割合 (重量)	玄米一立重量	10 陌 (反) 當收益		
				昭和十三年	同十四年	平均				生産物價額	肥料價額	收益引
無窒素	七〇・一	三三本	六八〇	三三二	三三八	三三九	二・三三九	一〇〇	七九三	四二二	六八〇	一〇〇
施給窒素全量の1/2を硫酸アンモニア大豆粕	七五・七	三三本	八五六	四〇七	三九八	四〇三	二・八三三	一一〇	七九三	八三七	七三〇	一一六
同 1/2を硫酸アンモニア鱈粕	八〇・六	三三本	八三五	四〇〇	三七七	三七七	二・七〇二	一一五	七八三	八八三	七三三	一一九
同 1/2を硫酸アンモニア堆肥	七九・〇	三三本	八三三	三七七	三七七	三七七	二・七九七	一一九	七八三	六〇五	七九四	一一八
同 1/2を硫酸アンモニア石灰窒素	七九・〇	三三本	八三三	三七七	三七七	三七七	二・七九七	一一九	七八三	六〇五	七九四	一一八
反當堆肥30%併用施給窒素全量の1/2を硫酸アンモニア鱈粕	七九・九	三三本	八七六	四三三	四〇〇	四〇〇	二・九八〇	一二四	七五五	八八三	八〇六	一一九
同 施給窒素全量の1/2を硫酸アンモニア石灰窒素	八四・八	三三本	八八五	四三四	四〇三	四〇三	二・九七五	一二五	七六一	六〇五	八三四	一二四

備考 一 硫酸は硫酸アンモニアの略稱とす。以下倣之。

二 窒素用量 窒素質肥料肥效比較試験 10 陌 (反) 當 一・八七五 (〇・五)

同 窒素質肥料配合試験 10 陌 (反) 當 三・七五〇 (一・〇)

共通肥料 10 陌 (反) 當 磷酸 (精過磷酸石灰) 五・六二五 (一・五)

加里(硫酸加里) 五・六二五(一・五)以下倣之。
 三 肥料價格は昭和十三年並に同十四年各三月に於ける小樽驛渡平均價格にして、三七・五疋(一〇・〇貫)當硫酸アンモニア四圓、石灰窒素三圓五〇錢、鱈粕六圓一〇錢、大豆粕五圓、精過磷酸石灰二圓八〇錢、硫酸加里は六圓八〇錢なりとす。但し堆肥の價格は計算に加へず。以下倣之。

四 玄米價格は昭和十三年一月より同十四年九月に至る二箇年平均小樽市場價格にして六〇疋に付二圓八五錢なりとす。以下倣之。

後志國磯谷郡南尻別村字大谷地 第四紀新層 埴土

(一) 窒素質肥料比較試験成績

本試験の成績に據れば、收量に於ては硫酸アンモニア、石灰窒素相伯仲して最も優り、大豆粕、鱈粕之に相順次するを示せり。而して肥料費を差引きたる收益に於ても同様の傾向あるを認めたり。其の成績左の如し

本場委託試験成績

自昭和十三年
至同十四年

供試作物 水稻(「坊主五號」)
一區面積 三三・一平方米

試験區別	草丈莖數	10 隔(反)當收量		收量		10 隔(反)當收益		同割合上
		玄米重量	平均	玄米量	收量(重量)	生産物價額	施用肥料價額	
無窒素	九四・三	六三・三	二八・四	二・二七	一〇〇	六・七九	四・三	一〇〇
大豆粕	九八・九	六九・九	三〇・七	二・四四	一〇七	六・七〇	四・三	一〇三
鱈粕	九八・三	六九・九	三〇・九	二・四八	一〇五	六・八二	七・四	一〇三
石灰窒素	一〇〇・八	七二・一	三二・五	二・五九	一一〇	六・九〇	七・八七	九九
硫酸安	一〇〇・九	七〇・〇	三二・〇	二・四三	一一〇	六・八〇	五・〇九	九九
同	一四	七〇	三〇・六	二・三四	一一〇	六・三六	五・一七	一〇九

(二) 窒素質肥料配合試験成績

本試験の成績に據れば、收量に於て最も優れるは堆肥を基本肥料とし、之に供給窒素全量の二分の一宛を硫酸アンモニア

及石灰窒素にて施用せるものにして、同様に硫酸アンモニアと鱈粕を配合し堆肥を併用せるもの及併用せざるもの相伯仲して之に亞ぎ、供給窒素全量の二分の一宛を硫酸アンモニアと石灰窒素にて施用せるもの及硫酸アンモニアと大豆粕にて配合せるもの之に順次せり。而して肥料費を差引きたる收益に於て最も優れるは、供給窒素全量の二分の一宛を硫酸アンモニアと石灰窒素にて施用し堆肥を併用せるものにして、堆肥を併用せざるもの之に亞ぎ、供給窒素全量の二分の一宛を硫酸アンモニア及鱈粕にて配合し堆肥を併用せるもの及併用せざるもの、硫酸アンモニア及大豆粕にて配合せるもの等之に順次するを示せり。其の成績左の如し

本場委託試験成績

自昭和十三年
至同十四年

供試作物 水稻(「坊主五號」)
一區面積 三三・一平方米

試験區別	草丈莖數	10 隔(反)當收量		收量		10 隔(反)當收益		同割合上
		玄米重量	平均	玄米量	收量(重量)	生産物價額	施用肥料價額	
無窒素	九四・三	六三・三	二八・四	二・二七	一〇〇	六・七九	四・三	一〇〇
供給窒素全量の二分の一宛を硫酸アンモニアと大豆粕	一〇二・八	七三・八	三三・三	二・三九	一一四	七・四〇	八・三七	一〇八
同	一〇三・七	七三・七	三三・〇	二・四四	一一〇	七・三三	八・八三	一一三
同	一〇三・七	七三・七	三三・〇	二・四四	一一〇	七・三三	八・八三	一一三
同	一〇〇・一	七三・三	三三・八	二・五二	一一九	七・四五	六・〇五	一一七
同	一〇〇・一	七三・三	三三・八	二・五二	一一九	七・四五	六・〇五	一一七
同	一〇五・九	七三・三	三三・六	二・五六	一二〇	七・五二	六・八三	一二三
同	一〇五・九	七三・三	三三・六	二・五六	一二〇	七・五二	六・八三	一二三
同	一〇四・四	七四・一	三三・九	二・六三	一二四	七・七九	六・〇五	一二三
同	一〇四・四	七四・一	三三・九	二・六三	一二四	七・七九	六・〇五	一二三

三 後志國磯谷郡南尻別村字志根津川 第四紀新層 埴土

(一) 窒素質肥料肥效比較試験成績

本試験の成績に據れば、收量に於て最も優れるは石灰窒素にして、大豆粕之に亞ぎ、硫酸アンモニア及鱈粕は共に最も劣るを示せり。又肥料費を差引きたる收益に於ても同様の傾向を示し、最も優れるは石灰窒素にして大豆粕、硫酸アンモニア、鱈粕等之に順次するを認めたり。其の成績左の如し

本場委託試験成績 自昭和十三年 至同十四年

試験區別	草丈	莖數	10畝(反)當收量		容米量		收量(割合)		立重	生産物價	施用肥料價額	收益引	割合上
			昭和十三年	十四年	平均	石	割合(重量)	重量					
無窒素	七三〇	二三本	四九七	三三三	一九九	一五三	二〇〇	六四四	四八二	四二二	四六〇	一〇〇	
大豆粕	七九五	二三本	五四七	三三八	二三五	一九九	二二	七五七	六〇三	七四四	四六三	二二七	
石灰窒素	七七七	二三本	五四〇	二八三	二二六	一六三	二六	七三三	五三六	七八七	四四四	一〇九	
同	六八九	二三本	五七〇	二九九	二二六	一七三	二六	六八八	五九六	五〇九	四五六	二二二	
同	七〇	二三本	五二六	二六八	二三八	一七九	二六	七一一	五二八	五二七	四八〇	二二五	

(二) 窒素質肥料配合試験成績

本試験の成績に據れば、收量に於て最も優れるは堆肥を基本肥料とし、之に供給窒素全量の二分の一宛を硫酸アンモニアと石灰窒素にて施用せるものにして、同様に硫酸アンモニアと鱈粕を併用せるもの之に亞ぎ、堆肥を併用せずして供給窒素全量の二分の一宛を夫れ夫れ硫酸アンモニアと大豆粕、硫酸アンモニアと石灰窒素、硫酸アンモニアと鱈粕にて施用せるもの相順次し、肥料費を差引きたる收益に於て最も優れるは堆肥を併用し硫酸アンモニアと石灰窒素を施用せるものにして、供給窒素全量の二分の一宛を硫酸アンモニアと鱈粕を併用せるもの之に亞ぎ、供給窒素全量の二分の一宛を硫酸アンモニアと夫れ夫れ石灰窒素、大豆粕、鱈粕を施用せるもの等相順次するを認めたり。其の成績左の如し

本場委託試験成績 自昭和十三年 至同十四年

試験區別	草丈	莖數	10畝(反)當收量		容米量		收量(割合)		立重	生産物價	施用肥料價額	收益引	割合上
			昭和十三年	十四年	平均	石	割合(重量)	重量					
無窒素	七三〇	二三本	四九七	三三三	一九九	一五三	二〇〇	六四四	四八二	四二二	四六〇	一〇〇	
供給窒素全量の二分の一宛を硫酸アンモニアと大豆粕を併用せるもの	八二六	一四本	五九三	三〇五	二五九	二〇八	二三	七七一	六〇三	八三七	五九六	一二五	
同	八二二	一四本	五七六	三〇〇	二七三	二〇六	二八	七三二	五八三	八八三	四九九	一一九	
同	六八	一四本	五八六	三三二	二七三	二〇三	二九	七六八	五九三〇	六〇五	五三三	一二八	
同	八二九	一四本	六四二	三四三	二七〇	二四六	一四〇	七六六	六四三	八八三	五五二	一二三	
同	八三〇	一四本	六六五	三六六	二八三	二五六	一四六	七三三	六七七	六〇五	六三三	一二七	

四 十勝國河西郡芽室村字美蔓 第四紀新層 壤土
窒素質肥料肥效比較並に配合試験成績

本試験の成績に據れば、收量に於て最も優れるは施給窒素全量の二分の一宛を硫酸アンモニアと鱈粕を併用せるものにして、硫酸アンモニアと大豆粕を併用せるもの、硫酸アンモニアを單用せるもの鱈粕を單用せるもの等之に順次し、大豆粕を單用せるもの最も劣るを示せり。而して肥料費を差引きたる收益に於ても亦同様の傾向あるを示せり。其の成績左の如し

本場委託試験成績

自昭和十二年
至同十三年

供試作物 燕麥 (ピクトリー一號)
一區面積 三三・一平方米

試験區別	草丈	莖數	總重量	子實重量		子實容積	子實割合	子實立重量	生産物價額	施用肥料價額	收益引割	同割上
				昭和十三年	同十四年							
無窒素	二〇・一	三五本	四八・八	一四・四	一五・五	一・六	一〇〇	四三・三	一五・九	二八・三	一三・〇	一〇〇
大豆粕	二二・三	二九	五五・五	一六・二	一五・二	一・九	九二	三九・九	一五・九	六〇・三	九・七	七五
鱈粕	二二・五	三三	六七・七	一三・三	一五・二	一・七	一三五	四三・一	一九・九	六四・九	一三・四	一〇三
安	二三・八	三七	六三・三	一四・四	一三・〇	一・七	一三七	四〇・七	二〇・二	三九・九	一六・四	一〇三
施給窒素全量の 半を硫酸アンモニアと大豆粕 を硫酸アンモニアと鱈粕 を同	二四・二	三三	七五・五	一四・〇	一三・九	一・八	一八九	四四・五	二六・三	四九・一	一六・七	一三二
同	二三・三	三〇	六五・三	一四・五	一五・二	一・八	一八九	四三・五	二六・三	五〇・四	一七・四	一三四

備考 燕麥價格は昭和十三年八月より同十四年十月に至る二箇年平均小樽市場價格にして、四〇〇に付四圓五七錢なりとす。

(三) 除蟲菊對窒素質肥料肥效比較試験成績

和寒除蟲菊試験地に於ける試験成績に據れば、除蟲菊に對しては窒素質肥料中遲效性肥料たる大豆粕、厩肥、練粕、石灰窒素等の肥效顯著なるを認めたり。其の成績左の如し

和寒除蟲菊試験地試験成績

自昭和十一年
至同十四年

試験區別	草		丈		開花期(一株當)		收穫期	生育日數	隔當乾花實收量		平均	割合	新舊割合
	萌芽期	結莢期	開花期	莖數	分枝數	着花數			昭和十一年	同十二年			
無肥料	四	三	三	三	二	二	六	六	二六	二九	三三	一〇〇	一〇〇
無窒素	四	三	三	三	二	二	六	六	三〇	四八	四六	一四二	一〇〇
硫酸アンモニア	五	三	三	三	二	二	六	六	三〇	四九	五三	一五四	一〇九
智利硝石	五	三	三	三	二	二	六	六	三〇	四九	五三	一五四	一〇九
石灰窒素	五	三	三	三	二	二	六	六	三〇	四九	五三	一五四	一〇九
練粕	五	三	三	三	二	二	六	六	三〇	四九	五三	一五四	一〇九
大豆粕	五	三	三	三	二	二	六	六	三〇	四九	五三	一五四	一〇九
厩肥	五	三	三	三	二	二	六	六	三〇	四九	五三	一五四	一〇九
下肥	五	三	三	三	二	二	六	六	三〇	四九	五三	一五四	一〇九

備考 供試肥料要素用量 窒素 隔當 四五疋施用
共通肥料用量 精過燐酸石灰 隔當 二八一疋 硫酸加里 隔當 一一二疋
施肥期 九月上旬

(三) 除蟲菊對肥料配合割合試験成績

和寒除蟲菊試験地に於ける試験成績に據れば、實生苗の場合には窒素一(隔當四五疋)、燐酸二、加里一、古株を移植せる場合は窒素一(隔當四五疋)、燐酸三、加里一の割合に配合するを適當と認めたり。其の成績左の如し

和寒除蟲菊試験地試験成績

自昭和十一年
至同十四年

(一) 實生苗移植區

試 驗 區 別	草 丈	開花期(一株當)	分枝數	着花數	收穫期	生育日數	隔 年 乾 花 實 收 量			平均收量	收量割合
							昭和十年	同十一年	同十二年		
無肥	四四	四五	四五	三三	七二	六六	三六・七	三三・三	四三・五	二八四・六	一〇〇
窒素一、磷酸一、加里一	四四	三五	四三	四七	七二	六六	三五・八	二五・三	四三・七	三五一・五	一三三
窒素二、磷酸二、加里一	四四	三五	四三	四七	七二	六六	三五・八	二五・三	四三・七	三五一・五	一三三
窒素三、磷酸三、加里一	四四	三五	四三	四七	七二	六六	三五・八	二五・三	四三・七	三五一・五	一三三
窒素一、磷酸二、加里一	四四	三五	四三	四七	七二	六六	三五・八	二五・三	四三・七	三五一・五	一三三
窒素二、磷酸一、加里一	四四	三五	四三	四七	七二	六六	三五・八	二五・三	四三・七	三五一・五	一三三
窒素三、磷酸〇、加里〇	四四	三五	四三	四七	七二	六六	三五・八	二五・三	四三・七	三五一・五	一三三
窒素〇、磷酸三、加里二	四四	三五	四三	四七	七二	六六	三五・八	二五・三	四三・七	三五一・五	一三三
窒素三、磷酸三、加里三	四四	三五	四三	四七	七二	六六	三五・八	二五・三	四三・七	三五一・五	一三三
無肥	四四	四五	四五	三三	七二	六六	三六・七	三三・三	四三・五	二八四・六	一〇〇
窒素一、磷酸一、加里一	四四	三五	四三	四七	七二	六六	三五・八	二五・三	四三・七	三五一・五	一三三
窒素二、磷酸二、加里一	四四	三五	四三	四七	七二	六六	三五・八	二五・三	四三・七	三五一・五	一三三
窒素三、磷酸三、加里一	四四	三五	四三	四七	七二	六六	三五・八	二五・三	四三・七	三五一・五	一三三
窒素一、磷酸二、加里一	四四	三五	四三	四七	七二	六六	三五・八	二五・三	四三・七	三五一・五	一三三
窒素二、磷酸一、加里一	四四	三五	四三	四七	七二	六六	三五・八	二五・三	四三・七	三五一・五	一三三
窒素三、磷酸〇、加里〇	四四	三五	四三	四七	七二	六六	三五・八	二五・三	四三・七	三五一・五	一三三
窒素〇、磷酸三、加里二	四四	三五	四三	四七	七二	六六	三五・八	二五・三	四三・七	三五一・五	一三三
窒素三、磷酸三、加里三	四四	三五	四三	四七	七二	六六	三五・八	二五・三	四三・七	三五一・五	一三三

(二) 古株移植區

試 驗 區 別	草 丈	開花期(一株當)	分枝數	着花數	收穫期	生育日數	隔 年 乾 花 實 收 量			平均收量	收量割合
							昭和十年	同十一年	同十二年		
無肥	四四	四五	四五	三三	七二	六六	三六・七	三三・三	四三・五	二八四・六	一〇〇
窒素一、磷酸一、加里一	四四	三五	四三	四七	七二	六六	三五・八	二五・三	四三・七	三五一・五	一三三
窒素二、磷酸二、加里一	四四	三五	四三	四七	七二	六六	三五・八	二五・三	四三・七	三五一・五	一三三
窒素三、磷酸三、加里一	四四	三五	四三	四七	七二	六六	三五・八	二五・三	四三・七	三五一・五	一三三
窒素一、磷酸二、加里一	四四	三五	四三	四七	七二	六六	三五・八	二五・三	四三・七	三五一・五	一三三
窒素二、磷酸一、加里一	四四	三五	四三	四七	七二	六六	三五・八	二五・三	四三・七	三五一・五	一三三
窒素三、磷酸〇、加里〇	四四	三五	四三	四七	七二	六六	三五・八	二五・三	四三・七	三五一・五	一三三
窒素〇、磷酸三、加里二	四四	三五	四三	四七	七二	六六	三五・八	二五・三	四三・七	三五一・五	一三三
窒素三、磷酸三、加里三	四四	三五	四三	四七	七二	六六	三五・八	二五・三	四三・七	三五一・五	一三三

試 驗 區 別	草 丈	開花期(一株當)	分枝數	着花數	收穫期	生育日數	隔 年 乾 花 實 收 量			平均收量	收量割合
							昭和十年	同十一年	同十二年		
窒素二、磷酸二、加里一	四四	四五	四五	三三	七二	六六	三六・七	三三・三	四三・五	二八四・六	一〇〇
窒素三、磷酸二、加里一	四四	三五	四三	四七	七二	六六	三五・八	二五・三	四三・七	三五一・五	一三三
窒素二、磷酸一、加里一	四四	三五	四三	四七	七二	六六	三五・八	二五・三	四三・七	三五一・五	一三三
窒素一、磷酸三、加里一	四四	三五	四三	四七	七二	六六	三五・八	二五・三	四三・七	三五一・五	一三三
窒素一、磷酸二、加里一	四四	三五	四三	四七	七二	六六	三五・八	二五・三	四三・七	三五一・五	一三三
窒素三、磷酸一、加里一	四四	三五	四三	四七	七二	六六	三五・八	二五・三	四三・七	三五一・五	一三三
窒素二、磷酸二、加里一	四四	三五	四三	四七	七二	六六	三五・八	二五・三	四三・七	三五一・五	一三三
窒素三、磷酸三、加里一	四四	三五	四三	四七	七二	六六	三五・八	二五・三	四三・七	三五一・五	一三三
窒素一、磷酸三、加里一	四四	三五	四三	四七	七二	六六	三五・八	二五・三	四三・七	三五一・五	一三三
窒素三、磷酸〇、加里〇	四四	三五	四三	四七	七二	六六	三五・八	二五・三	四三・七	三五一・五	一三三
窒素〇、磷酸三、加里二	四四	三五	四三	四七	七二	六六	三五・八	二五・三	四三・七	三五一・五	一三三
窒素三、磷酸三、加里三	四四	三五	四三	四七	七二	六六	三五・八	二五・三	四三・七	三五一・五	一三三

備考 肥料用量 窒素一(鍊粕)半量 同 同 同
 磷酸一(精過硫酸石灰) 同 同 同
 加里一(硫酸加里) 同 同 同

(四) 除蟲菊對肥料施用期試驗成績

和寒除蟲菊試驗地に於ける試驗成績に據れば、春季萌芽期に半量、十一月上旬に半量宛分施せるもの收量最も多きも、十一月月上旬の施肥は實際上多大の不便を伴ふを以て、萌芽期に全量を施用するか、或は萌芽期に半量、八月上旬に半量宛分施するを適當と認めたり。其の成績左の如し

和寒除蟲菊試驗地試驗成績 自昭和十一年至同十四年

試驗區別	肥料	草丈		開花期(一株當)	收穫期	生育日數	隔當乾花實收量		平均	收量割合
		株數	分枝數				株數	實收量		
無	全量	四	七	七	七	六	三〇・五	三三・五	三三・五	一〇〇
萌芽期に全量	全量	三	六	六	六	六	二九・五	三二・五	三二・五	一〇〇
萌芽期に半量	全量	四	七	七	七	六	三〇・五	三三・五	三三・五	一〇〇
萌芽期に半量	全量	四	七	七	七	六	三〇・五	三三・五	三三・五	一〇〇
萌芽期に半量	全量	四	七	七	七	六	三〇・五	三三・五	三三・五	一〇〇
萌芽期に半量	全量	四	七	七	七	六	三〇・五	三三・五	三三・五	一〇〇
萌芽期に半量	全量	四	七	七	七	六	三〇・五	三三・五	三三・五	一〇〇
八月月上旬に全量	全量	三	六	六	六	六	二九・五	三二・五	三二・五	一〇〇
九月上旬に全量	全量	三	六	六	六	六	二九・五	三二・五	三二・五	一〇〇
十月上旬に全量	全量	三	六	六	六	六	二九・五	三二・五	三二・五	一〇〇
十一月上旬に全量	全量	三	六	六	六	六	二九・五	三二・五	三二・五	一〇〇

備考 肥料用量 隔當 糠粕二二五疋、硫酸アンモニア一五〇疋、精過燐酸石灰三〇〇疋、硫酸加里一一二疋。

(三) 水稻對石灰窒素施用試驗成績

渡島支場に於て行ひたる石灰窒素施用法の試験成績に據れば、荒代後撒布施用のもの及春耕後ハロ―掛前撒布施用のもの伯仲して優り、秋季に施用し置くは劣るを認めたり。則ち渡島地方に於て石灰窒素を水稻に施用するには灌溉前春耕後ハロ―掛前に行ふを有利とするを認めたり。其の成績左の如し

渡島支場試験成績

自昭和十三年至同十四年

供用品種 「南光」

試験區別	出穂期	成熟期	草丈	莖數	穗長	隔當玄米收量		平均	收量玄米一立割合	玄米重量	隔當重量	反當重量	隔當收量	生産物價	肥料費	調査差引
						昭和十三年	同十四年									
石灰窒素不施用	八・二	九・三	八二	二	一六八	一・九六	二・〇七	二・三六	一〇〇	一八三	一・九六	五九・九	三・五	五九・〇〇	五九・〇〇	五九・〇〇
秋耕四貫多施用	八・〇	九・三	八一	一三	一七二	二・〇九	二・二二	二・五二	一一〇	一八八	二・一六	六三・七	三・九	六八・四〇	五九・〇〇	五九・〇〇
同 反當六貫多施用	八・〇	九・三	八一	一三	一七二	二・〇九	二・二二	二・五二	一一〇	一八八	二・一六	六三・七	三・九	六八・四〇	五九・〇〇	五九・〇〇
春耕後ハロ―掛前反當四貫多施用	八・〇	九・四	八五	一八	一六七	二・五九	二・五九	二・八九	一一三	一八五	二・五九	六四・六	四・七	七三・三〇	五九・〇〇	六八・〇〇
同 反當六貫多施用	八・二	九・四	八八	一八	一七五	二・四六	二・〇三	二・八〇	一一八	一八五	二・六四	六八・八	四・九	六四・四〇	五九・〇〇	七五・六〇
荒代後反當四貫多施用	八・二	九・三	八三	一六	一六六	二・三五	二・〇三	二・六九	一一五	一八九	二・三三	七二・二	四・四	六六・四〇	五九・〇〇	六四・四〇
同 六貫多施用	八・三	九・四	八五	一七	一六七	二・七二	二・六四	二・八六	一一四	一八七	二・四七	八二・〇	五・〇	七八・〇〇	五九・〇〇	七二・〇〇

備考 一 共通肥料 隔當堆肥七・五〇〇疋、精過燐酸石灰一八七・五疋、硫酸加里三七・五疋。

二 肥料價格は堆肥三七五疋一圓、精過燐酸石灰三七・五疋二圓五〇錢、硫酸加里三七・五疋六圓八五錢、石灰窒素二・五疋一圓九四錢とす。

三 生産物價格は一俵當一五圓六〇錢とす。

三 病理及昆蟲に關する試験及調査成績

甲 病理に關する試験及調査成績

(一) 馬鈴薯疫病對粉劑效果に關する試験成績

十勝支場に於て施行せる馬鈴薯疫病防除劑として、ボルドウ合劑並に硫酸銅粉劑の二種を比較せる試験成績に據れば、兩者は共に藥害なく且靜穩無風なる晴天時に於ける附着力は良好にして、病害發生期に於ける效果は粉劑は液劑に比して劣るも尙相當の效果ありて「咸南白」に於ける效果は撒布回数増加に隨ひ遞増する傾向を示せり。而して粉劑は作業能率大にして液劑の代用となし得る外、山麓又は高丘地等給水の便悪しき場所に用ひて可なるを認めたり。其の成績左の如し

十勝支場試験成績

自昭和十二年
至同十四年

試験區別	病害發生狀況						葉枯 期	初發 期	畝當 收量	當 地收 割量	粉 得 量	同上 割合
	七月 中旬	七月 下旬	八月 上旬	八月 中旬	八月 下旬	九月 上旬						
無撒布	-	-	+	+	++	+	+	+	100	100	100	100
硫酸銅粉劑一回撒布	-	-	±	±	+	+	+	+	100	100	100	100
同 二回撒布	-	-	±	±	+	+	+	+	100	100	100	100
ボルドウ合劑一回撒布	-	-	±	±	+	+	+	+	100	100	100	100
同 二回撒布	-	-	±	±	+	+	+	+	100	100	100	100
同 三回撒布	-	-	±	±	+	+	+	+	100	100	100	100

男爵薯	ア ー リ ズ						同	同	同	同	同	同	同
	無撒布	硫酸銅粉劑一回撒布	同 二回撒布	同 三回撒布	ボルドウ合劑一回撒布	同 二回撒布							
昭和三十四年	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
昭和十三年	±	-	-	-	-	-	±	±	±	±	±	±	±
同十四年	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+
平均	++	++	++	++	++	++	+	+	+	+	+	+	+
昭和三十四年	++	++	++	++	++	++	+	+	+	+	+	+	+
昭和十三年	++	++	++	++	++	++	+	+	+	+	+	+	+
同十四年	++	++	++	++	++	++	+	+	+	+	+	+	+
平均	++	++	++	++	++	++	+	+	+	+	+	+	+
昭和三十四年	九二二	九二四	九二四	九二四	九二四	九二四	九二二	九二二	九二二	九二二	九二二	九二二	九二二
昭和十三年	七三〇	七三〇	七三〇	七三〇	七三〇	七三〇	七三八	七三八	七三八	七三八	七三八	七三八	七三八
同十四年	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三六	三三六	三三六	三三六	三三六	三三六	三三六
平均	100	100	100	100	100	100	101	101	101	101	101	101	101
昭和三十四年	100	100	100	100	100	100	101	101	101	101	101	101	101
昭和十三年	100	100	100	100	100	100	101	101	101	101	101	101	101
同十四年	100	100	100	100	100	100	101	101	101	101	101	101	101
平均	100	100	100	100	100	100	101	101	101	101	101	101	101

作、第五區及第六區五年輪作の各區は調査完了の翌年再び大豆を栽培せしも全く線蟲の寄生を認めず、根絶せるを確認することを得たり。被害作物を連作せしものには於ては抵抗性大なる花豆を混植せる區は抵抗性小なる大小豆のみの連作區に比し收量、線蟲減少率共に稍良好なる結果を示せり。則ち本病防除にあたりては大豆、小豆、菜豆、花豆以外の作物にて少なくとも五年乃至六年の輪作を行ひ、其の間人畜、農具等機械的手段による被害地土壤の傳播を防止せば本病防除の目的を達することを得べし。其の成績左の如し

(一) 作付順序

本場試験成績

自昭和九年
至同十四年

試験區別	昭和九年	同十年	同十一年	同十二年	同十三年	同十四年
第一區 三年輪作	小豆	馬鈴薯	大豆	大豆	大豆	大豆
第二區 三年輪作	豌豆	亞麻	大豆	大豆	大豆	大豆
第三區 四年輪作	燕麥	馬鈴薯	大豆	大豆	大豆	大豆
第四區 四年輪作	玉蜀黍	赤クローバー	大豆	大豆	大豆	大豆
第五區 五年輪作	甜菜	燕麥	大豆	大豆	大豆	大豆
第六區 五年輪作	亞麻	燕麥	大豆	大豆	大豆	大豆
第七區 六年輪作	馬鈴薯	大豆	大豆	大豆	大豆	大豆
第八區 被害作物連作	大豆	大豆	大豆	大豆	大豆	大豆
第九區 被害作物連作	大豆	大豆	大豆	大豆	大豆	大豆

(二)

註 一 一區面積並に區制、一平方米コンクリート框一區制。
二 供試土壤 琴似村大字琴似小豆被害畑土壤。
供用作物及品種

作物名	品名		種名	收量調査			
	昭和九年	同十年		同十一年	同十二年	同十三年	同十四年
小豆	札幌春小豆九號	同	農林三號	二五二	100	三六	100
燕麥	ピクトリー一號	同	ロングフェロー	一九五	100	二五	100
玉蜀黍	ゴールアン	同	同	一三五	100	三九	100
蕎麥	本育四八號	同	同	一四五	100	二四	100
甜菜	ベルノー一號	同	同	一四五	100	二四	100
亞麻	雪	同	同	一四五	100	二四	100
馬鈴薯	札幌青手無片	同	同	一四五	100	二四	100
豌豆	札幌地二號	同	同	一四五	100	二四	100
大豆	早生大粒一號	同	同	一四五	100	二四	100
花豆	白花	同	同	一四五	100	二四	100

第三區 四年輪作	大豆	三〇〇	二五〇	一	一〇〇
第四區 四年輪作	大豆	一一〇	一三三	〇	一〇〇
第八區(四年目)被害作物連作	大豆	九〇	一〇〇	三五	一〇〇
第九區(四年目)被害作物連作	大豆	一一〇	一〇〇	二一	一〇〇
第五區 五年輪作	大豆	三四〇	〇	〇	〇
第六區 五年輪作	大豆	三三〇	〇	〇	〇
平均	大豆	三三五	二四一	〇	〇
第八區(五年目)被害作物連作	大豆	一一〇	一四〇	〇	〇
第九區(五年目)被害作物連作	大豆	一五〇	一八	〇	一〇〇
平均	大豆	一三五	一〇〇	二一	一〇〇
第七區 六年輪作	大豆	四〇〇	一八三	〇	〇
第八區(六年目)被害作物連作	大豆	一九五	一七	〇	〇
第九區(六年目)被害作物連作	大豆	三三〇	一三	一五	一〇〇
平均	大豆	二〇七・五	一〇〇	一五	一〇〇

備考 線蟲寄生数の調査は、昭和十一年は八月三十日、同十二年は八月十五日、同十三年は八月二十三日、同十四年は八月二十五日に施行せり。

(三) 昭和十四年本道に於て發生せる特に注意すべき病害に關する調査成績

昭和十四年に於ては高温多濕の天候の下に幾多農作物の病害を誘發したるが、就中その發生多く被害尠からざりしものを擧ぐれば左の如し

稻熱病、稻苗腐敗病、稻立枯病、稻墨黑穗病、麥類赤黴病、大麥斑葉病、燕麥冠狀銹病、燕麥斑葉病、馬鈴薯黑痣病、馬鈴薯萎縮病、甜菜褐斑病、甜菜根腐病、甜菜帶狀粗皮病、薄荷銹病、黃花ルービン根腐病、クローバー炭疽病、蓖麻細菌性斑點病、瑞典蕪菁白腐病、白菜腐敗病、甘藍露菌病、除蟲菊萎縮病、各種作物線蟲根瘤病。

以上諸病害中特に注意すべきものに就きて略説すれば左の如し

(イ) クローバー炭疽病

本病は米國北部地方、歐洲各地に於て古よりクローバーの病害中、最も恐るべきものとして知られ、特に採種用赤クローバーに發生し、その採種を不能に陥らしむるの被害をなすものなり。本邦に於て昭和十四年七月、初めて本道に於て發見せられたるものにして、其の分布は未だ石狩及北見兩地方の局部的に過ぎずと雖も、病原菌は被害種子及莖葉に附着して傳播し、將來各地に發生蔓延の虞あるを以て、充分警戒に努むるを要す。

病 狀 發生初期に於ては、葉柄及莖軸に變色病斑部を生じ、葉片及花部の捻轉又は垂下、或は莖軸の彎曲折損を認む。病斑は最初水浸狀の小點なるも、次第に縦に細長く擴大し楕圓形又は紡錘形となり、中央部が凹陷し黒色乃至暗褐色に變ずるに至りて顯著なり。長さ五分乃至二寸内外に及ぶ。發病盛期に於ては病斑の中央部は屢髓部迄裂開し、此の部より上部は褐變枯死し又は此の部に於て折損又は垂下するを以て全圃恰も赤褐色に焼けたるが如き觀を呈す。

本病は赤クローバー及クリムソンクローバーに發生し、第一年目のものに比し二年目以上の採種用に被害甚大にして、全く稔實を見ざること多し。

病原菌 グレオスポリウム・コロリポールム (Gleosporium caulivorum KIRCHNER) にして、病斑中央部の灰白色粉狀物は本菌の分生孢子堆なり。本菌は多濕にして攝氏二〇度程度なる場合最もよく繁殖するものなり。

防除法 一、發病を認めたる時は早期に收穫を行ふか、或は發病株を速に刈取り或は鋤込みを行ひ、發病株の腐熟を圖ること。

- 二、過濕に陥り易き土地は發病し易きを以て、斯る土地は排水を行ひて作付すること。
- 三、圃場が繁茂に過ぎて發病の虞ある場合には一部刈取を行ひて氣通を良好ならしむること。
- 四、種子は無病地より採種し被害地より採種せざること。
- 五、種子は精選し、保菌の虞あるものはホルマリン一〇〇倍液に一時間浸漬し水洗後播種すること。

(ロ) 甜菜带状粗皮病

本病は従來往々發生を認めしものなるが、昭和十四年に於ては甜菜根腐病、甜菜窒息腐敗現象と相伴ひて全道的に廣汎に發生し且相當の被害を與へたり。甜菜根部に所謂痂皮を形成する病害は、歐米に於ては多數擧げられ居るも、本道に發生を認めしものは、其のガードルスキャツプ（ギルテルシヨルフ）に相當するものにして、之を甜菜带状粗皮病と命名せり。

病 狀 被害輕微なるものありては根部、主として地際に近き上部に茶褐色を呈せる痂皮が僅の間隙をもつて互に接して表面を蔽ひ、廣く長く遂には全周を带状に取圍むことあり。個々の痂皮は扁平龜甲形、角狀不規則にして、厚さ〇・一乃至〇・三耗、幅五耗乃至一〇耗を示し、根部に粗糙の感を與ふ。斯るものに於ては、正常なる根部の形狀を損ふことなきも被害激甚なるものありては、痂皮を有する部凹陷するを以て著しく形狀を損す。此の凹陷部は根部の一侧又は相對する兩側に存すること多きも、屢根周全體が带状に陥狀に凹陷し、之が爲根部の一部が細く縊れたるが如き狹窄部を呈するに至ることあり。本病の被害は根部外皮下數層の細胞にとどまりて肉質部の腐敗を來すことなきも、被害根は輕量にして糖分含量少なく、又被害甚しきものは凹陷部に於て收穫時折斷されること多し。

痂皮部には屢傷痕組織が發育し、更に複雑なる皺皺を生じて隆起し、或は根毛を生じて恢復現象を示すことあり。特に凹陷せるものに此の現象多し。

病原菌 本病はアクチノミセス (*Actinomyces*) 屬に屬する一、三種の絲狀細菌により惹起せらる。馬鈴薯粗皮病を惹起するアクチノミセス・スキヤビース (*Actinomyces scabies* (EILIS et MARTIN) SOBAUER) も甜菜を侵すことを知らるるも、病狀は本病と全く異なるものなり。

發病の誘因 本病の發生程度は環境の如何により著しく異なるものの如く、概して土壤の濕度高く、排水不良にして土壤表層のクラスト化し易き土壤に發生多きを認め、氣通良好なる土地及酸性土には發生少なし。乾燥せる年には少なく、多雨多濕の年に多し。

防除法 一、土壤の通氣を良好にすること。

二、低濕地には充分排水の設備を行ひ、土壤の乾燥を圖ること。

(ハ) 蓖麻細菌性斑點病

本病は朝鮮及九州地方に廣く分布し、其の被害大なるものなるが、本道に於ては昭和十四年八月、瀬棚郡及檜山郡に初めて發生せるを認めたり。夏季多濕の候に其の被害特に激甚なるものなり。蔓延の防止に努むるを要す。

病 狀 主として葉片に發生するも、莖を侵すことあり。葉片に於ては初め水浸狀の微細なる斑點を生じ、擴大するときは不正多角形となり、中央は淡褐色、周縁は水浸狀暗褐色を呈し、病斑乾燥すれば脱孔し、甚しき場合には主脈を残すのみにて葉肉は殆ど消失す。莖にては單に褐色の病斑を生ずるのみなり。

病原菌 本病はバグテリウム・リチニ (*Bacterium Ricini Yoshii et TAKIMOTO*) と稱する細菌により惹起せらるるものなり。

防除法 一、被害葉は努めて除去し焼却すること。

二、連作せざること。少なくとも二年以上の輪作を行ふこと。

三、發病初期より二、三回四斗式ボルドウ合劑を撒布すること。

乙 昆蟲に關する試験及調査成績

(一) 砒酸石灰液の甜菜夜盜蟲殺蟲效果比較試験成績

甜菜夜盜蟲に對する砒酸石灰液の効果並に其の展着劑による差異を知らんが爲、本場に於て行ひたる試験成績に據れば、前年來の試験成績に一致して、砒酸石灰液は砒酸鉛液に比し殺蟲效果稍劣り、食葉率稍高きも、甜菜に對し藥害無きを以て事情に應じ砒酸鉛に代用し得べく、其の濃度は水一斗に對し二〇匁にても可なりの效果ありと雖も、三〇匁を使用すれば其の效果を増進するを認めたり。尙展着劑として從來のカゼイン石灰に比し大豆粉は遜色なきも、植物性カゼイン石灰は稍劣り、他は實用上價値乏しきを以て、砒酸石灰液に添加する展着劑は大豆粉を適當とするを認めたり。其の成績左の如し

本場試験成績

自昭和十三年
至同十四年

供用品種「本育一九〇號」
(一) 殺蟲效果並に食葉率調査(室内試験)

試験區別	死率(六日後)			食葉率(六日後)		
	昭和十三年	同十四年	平均	昭和十三年	同十四年	平均
(一) カゼイン石灰加用 砒酸鉛二〇匁液區	七〇.〇%	四〇.〇%	五五.〇%	一五.〇%	一一.三%	一三.三%

試験區別	死率(六日後)			食葉率(六日後)		
	昭和十三年	同十四年	平均	昭和十三年	同十四年	平均
(二) 同 三〇匁液區	一〇〇.〇	六〇.〇	八〇.〇	一五.〇	四.〇	九.五
(三) カゼイン石灰加用 砒酸石灰二〇匁液區	九〇.〇	四〇.〇	六五.〇	二五.〇	一四.〇	一九.五
(四) 同 三〇匁液區	七〇.〇	五〇.〇	六〇.〇	二〇.〇	一五.四	一七.七
(五) 松脂展着劑加用 砒酸石灰二〇匁液區	九〇.〇	三〇.〇	六〇.〇	三〇.〇	三三.四	三二.七
(六) 同 三〇匁液區	九〇.〇	五〇.〇	七〇.〇	三〇.〇	二二.二	二五.七
(七) ロッシンソープ加用 砒酸石灰二〇匁液區	九〇.〇	〇.〇	四五.〇	二五.〇	二一.〇	二三.〇
(八) 同 三〇匁液區	一〇〇.〇	三〇.〇	六五.〇	二〇.〇	五三.九	三七.〇
(九) ヘリオゲン加用 砒酸石灰二〇匁液區	七〇.〇	—	(七〇.〇)	三〇.〇	—	(三〇.〇)
(一〇) 同 三〇匁液區	七〇.〇	—	(七〇.〇)	三五.〇	—	(三五.〇)
(一一) 三共展着劑加用 砒酸石灰二〇匁液區	九〇.〇	—	(九〇.〇)	三五.〇	—	(三五.〇)

試 験 區 別	昭 和 十 三 年	昭 和 十 四 年	平 均	昭 和 十 三 年	昭 和 十 四 年	平 均	昭 和 十 三 年	昭 和 十 四 年	平 均	昭 和 十 三 年	昭 和 十 四 年	平 均	無 害	展 示 状 況
(一) 三共展着劑加用 硫酸石灰三〇勿液區	九〇〇	九〇〇	九〇〇	九〇〇	九〇〇	九〇〇	九〇〇	九〇〇	九〇〇	九〇〇	九〇〇	九〇〇	三〇〇	(三五〇)
(二) 植物性カゼイン石灰加用 硫酸石灰二〇勿液區	五〇〇	五〇〇	五〇〇	五〇〇	五〇〇	五〇〇	五〇〇	五〇〇	五〇〇	五〇〇	五〇〇	五〇〇	一六五	(一六五)
(三) 同 三〇勿液區	五〇〇	五〇〇	五〇〇	五〇〇	五〇〇	五〇〇	五〇〇	五〇〇	五〇〇	五〇〇	五〇〇	五〇〇	一六七	(一六七)
(四) 大豆粉加用 硫酸石灰二〇勿液區	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	一六三	(一六三)
(五) 同 三〇勿液區	六〇〇	六〇〇	六〇〇	六〇〇	六〇〇	六〇〇	六〇〇	六〇〇	六〇〇	六〇〇	六〇〇	六〇〇	一六六	(一六六)
(六) 無處理標準區 (二區平均)	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	一四五〇	一五六五

備考 一 供試畝数は一〇頭、昭和十三年は大型シャイレにて飼育し、同十四年は小型シャイレに一頭宛飼育せり。
 二 カゼイン石灰、植物性カゼイン石灰及大豆粉は水一斗に付四匁、松脂合劑及ロジンソープは〇・五合、ヘリオゲンは一六匁、三共展着劑は一二匁を加用せり。
 三 硫酸石灰は日本農藥會社製「ニホナート」、植物性カゼイン石灰は横濱植木會社製「ウエキ印植物性カゼイン石灰」、大豆粉は全購聯製「久美愛カゼイン」を使用せり。
 四 食葉率の査定は目測により、昭和十三年は全葉を用ひ、同十四年は葉の切片を各シャイレに入れ一〇枚平均を以て示せり。
 (二) 被害、藥害並に展着狀況調査(圃場試驗)

試 験 區 別	昭 和 十 三 年	昭 和 十 四 年	平 均	昭 和 十 三 年	昭 和 十 四 年	平 均	昭 和 十 三 年	昭 和 十 四 年	平 均	昭 和 十 三 年	昭 和 十 四 年	平 均	無 害	展 示 状 況
(一) カゼイン石灰加用 硫酸鉛二〇勿液區	五八	六二	六〇	四三	三三	三八	二〇	一七	一九	七〇	七二	七一	無し	良
(二) 同 三〇勿液區	六九	六九	六九	四八	三三	四一	一八	一六	一七	六〇	六〇	六〇	同	同
(三) カゼイン石灰加用 硫酸石灰二〇勿液區	六八	七三	七〇	二九	二二	二六	一八	一六	一七	六〇	六〇	六〇	同	同
(四) 同 三〇勿液區	八三	七三	七八	二九	二二	二六	一八	一六	一七	六〇	六〇	六〇	同	同
(五) 松脂展着劑加用 硫酸石灰二〇勿液區	八三	九八	九〇	二九	二二	二六	一八	一六	一七	六〇	六〇	六〇	同	同
(六) 同 三〇勿液區	一〇一	九三	九七	二二	一五	一九	一八	一六	一七	六〇	六〇	六〇	同	同
(七) ロジンソープ加用 硫酸石灰二〇勿液區	九三	一〇三	九八	一六	一七	一六	一八	一六	一七	六〇	六〇	六〇	同	同
(八) 同 三〇勿液區	九三	九六	九五	一四	一四	一四	一八	一六	一七	六〇	六〇	六〇	同	同
(九) ヘリオゲン加用 硫酸石灰二〇勿液區	一五四	一五四	一五四	一四	一四	一四	一八	一六	一七	六〇	六〇	六〇	同	同
(一〇) 同 三〇勿液區	一四三	一四三	一四三	一四	一四	一四	一八	一六	一七	六〇	六〇	六〇	同	同
(一一) 三共展着劑加用 硫酸石灰二〇勿液區	一三三	一三三	一三三	一四	一四	一四	一八	一六	一七	六〇	六〇	六〇	同	同
(一二) 同 三〇勿液區	一八九	一八九	一八九	一四	一四	一四	一八	一六	一七	六〇	六〇	六〇	同	同
(一三) 植物性カゼイン石灰加用 硫酸石灰二〇勿液區	一三	一三	一三	一四	一四	一四	一八	一六	一七	六〇	六〇	六〇	同	同

(四) 植物性カゼイン石灰加用 硫酸石灰三〇多液區																								
(五) 大豆粉加用 硫酸石灰二〇多液區		八六	八六	(八六)		九三	九三	(九三)		二八	二八	(二八)		九五	九五	(九五)		二八	二八	(二八)		三二	三二	(三二)
(六) 同 三〇多液區		八六	八六	(八六)		二八	二八	(二八)		九五	九五	(九五)		二八	二八	(二八)		三二	三二	(三二)		九五	九五	(九五)
(七) 無處理標準區 (二區平均)		四二九	五〇〇	四六五		二四五	三三三	二八四		九五	一四	三五		三五	三二	一六三		一九七						

備考 一 被害状況調査は各年共第一回發生期には被害僅少なりし爲施行せず、第二回發生期に就きて施行せりも、例年に比し被害輕微なりき。
二 被害率は調査株五株の總葉數に對する被害葉數の歩合を以て示し被害葉の査定は次の標準による。

- 被害多 一葉面積の六〇%以上被害せるもの
- 被害中 三〇%以上六〇%以下被害せるもの
- 被害少 五%以上三〇%以下被害せるもの
- 無被害 五%以下被害せるもの

(三) 收量調査 (圃場試験)

試験區別	隔年可製糖量			隔年葉根數量			根中糖分			純糖率		
	昭和三 十三年	昭和同 十四年	平均	昭和三 十三年	昭和同 十四年	平均	昭和三 十三年	昭和同 十四年	平均	昭和三 十三年	昭和同 十四年	平均
	(一) カゼイン石灰加用 硫酸鉛二〇多液區	五二五	四八三	五〇四	九一六	三五八	二九二	三二八	一六三	八七三	九〇八	八九九
(二) 同 三〇多液區	五五〇	四六六	五〇八	一〇一九	三五九	二九二	三三三	一七三	八八八	九二七	九〇三	
(三) カゼイン石灰加用 硫酸石灰二〇多液區	五八一	四九八	五四五	一〇二二	三八九	二八四	三五七	一七〇	八八五	九二六	九〇六	

(四) 同 三〇多液區			四二六	四七三	九〇六	三六二	二四一	三〇一	一六六	一八七	一七九	八六三	九二〇	八九二
(五) 松脂展着劑加用 硫酸石灰二〇多液區			四九七	四七三	九〇七	三五〇	二六一	二九二	一七三	一八一	一八三	八七三	九〇五	八九五
(六) 同 三〇多液區			三七三	四二九	八二二	三三三	二六八	二七〇	一七五	一八一	一七四	八七三	九〇八	八九六
(七) ロジンソープ加用 硫酸石灰二〇多液區			五〇五	四七三	九〇八	三五六	二九三	三〇二	一七五	一八三	一八一	八八〇	九〇四	九一五
(八) 同 三〇多液區			四九〇	四八七	九二八	三六四	二八八	三〇一	一七五	一七五	一七五	八八三	九二三	九〇三
(九) ヘリオゲン加用 硫酸石灰二〇多液區			五五三	(五五六)	(一〇三)	三四九			一七六			八八三		(八八三)
(一〇) 同 三〇多液區			四九〇	(四九九)	(八〇四)	三二九			一七六			八七九		(八七九)
(一一) 三共展着劑加用 硫酸石灰二〇多液區			四六九	(四九九)	(九〇五)	三三八			一七五			八七三		(八七三)
(一二) 同 三〇多液區			五六三	(五六三)	(一〇三)	三六七			一七四			八八三		(八八三)
(一三) 植物性カゼイン石灰加用 硫酸石灰二〇多液區			四三九	(四三九)	(八〇一)	二四九			一八七			八八七		(八八七)
(一四) 同 三〇多液區			四四五	(四四五)	(八一九)	三二六			一八〇			八八〇		(八八〇)
(一五) 大豆粉加用 硫酸石灰二〇多液區			五〇四	(五〇四)	(一〇三)	三九四			一八六			八八六		(八八六)
(一六) 同 三〇多液區			四二八	(四二八)	(八五八)	三二九			一八二			八八八		(八八八)
(一七) 無處理標準區 (二區平均)			四九八	五二四	一〇〇〇	三三三	二四七	三三九	一七五	一八六	一八〇	八八七	九二六	九〇三

備考 收量に於て薬剤撒布の效果現れず室内試験の結果と一致せざる處あるは、夜盜蟲の發生少なきに因るべく、本場甜菜圃に於て施行せ

る夜盗蛾發生豫察調査の成績に據れば、昭和八年より同十二年に至る五箇年平均誘殺數四〇五頭に對し同十三年は一三二頭、同十四年は一九八頭にして、幼蟲による被害も極めて少なく、特に第一回發生期には兩年共無處理區に於ても殆ど被害を見ざる状態なりき

(二) 櫻桃翅斑實蠅防除試験成績

櫻桃翅斑實蠅(櫻桃實蠅)は近年本道各地の櫻桃栽培地帯に發生し、漸次蔓延の徴を示しつつあるに鑑み、適當なる防除劑を案出せんが爲、昭和十年以降天鹽國増毛郡増毛町農會に委託し、各種防除劑に關する試験を施行せり。則ち昭和十年及同十一年に於て各種消化中毒劑、同十二年に於て各種接觸中毒劑、同十三年に於て地中に在る蛹に對する各種接觸並に瓦斯中毒劑、同十四年に於て除蟲菊石鹼液に關する試験を行ひたるが、其の試験成績に據れば、消化中毒劑の撒布並に蛹の藥劑的處理に關しては、各種藥劑共其の效果顯著ならずして實用的價値乏しきを認めたり。然るに成蟲に對する接觸中毒劑中、除蟲菊石鹼液は撒布方法を適正に行ふときは有效なるものと認め、昭和十四年各種濃度の本劑に對する成蟲の抵抗力に就き精密なる試験を行ひたるに、其の調合量は水一斗に對し除蟲菊粉二〇匁、石鹼一五匁の割合の最も適當なるを明にし、更にこの調合量を以て實地撒布を試みたるに極めて好成績を擧げ得ることを確め得たり。

〔註〕 本試験成績を基礎とし櫻桃翅斑實蠅の防除法を考案するに次の如し

- 一 成蟲が産卵を開始する約一〇日前(地方に依り多少の差異あるも大體六月一日前後)より産卵開始期(六月十日前後)に互り一日又は二日を隔て數回除蟲菊石鹼液(水一斗に對し除蟲菊粉二〇匁石鹼一五匁のもの)を早朝又は夕刻、或は曇天冷涼の日等、成蟲の活動の餘り敏活ならざる時刻に撒布すべし。撒布量は成木にありても一回約三升を以て足る。尙、噴霧器を二臺又は夫れ以上使用し、樹の周圍より一齊に撒布すれば一層效果的なり。
- 二 本種は山櫻にも發生し、又成蟲が附近にある櫻桃以外の果樹にも靜止し居る場合尠からざるを以て、事情に應じ是等の樹木にも同種藥劑を撒布すべし。
- 三 發生著しき地帯に於ては藥劑撒布のみにては防除の完璧を期し難きを以て、被害果は悉く之を摘採處分すべし。其の方法としては熱湯

を以て煮殺するか、又は肥料溜に投入する等適宜の方法によるべきも、特に注意すべきは其の時期にして蛆が老熟して被害果より脱出する以前、即ち普通六月二十日前後より開始し、一週間乃至一〇日置きに少なくとも三回實施すべきものとす。
 四 藥劑撒布並に摘採處分等本蟲の防除は發生地帯の各戸一齊に實行せざれば效果乏しきを以て、この點特に注意を要す。
 其の成績左の如し

本場委託試験成績 昭和十四年

試験 番 號	試 驗 區 別 (水一斗に對する調合量)	六時間後に於ける殺蟲効果		一二時間後に於ける殺蟲効果		二四時間後に於ける殺蟲効果	
		死 蟲 率	假 死 蟲 率	死 蟲 率	假 死 蟲 率	死 蟲 率	假 死 蟲 率
一	除蟲菊粉五匁、粉石鹼一〇匁	一〇〇%	一〇〇%	四五%	九〇%	九五%	九五%
二	同 一〇匁 同 一〇匁	一〇〇%	一〇〇%	七五%	九〇%	一〇〇%	一〇〇%
三	同 一五匁 同 一〇匁	一〇〇%	一〇〇%	九〇%	一〇〇%	一〇〇%	一〇〇%
四	同 二〇匁 同 一〇匁	一〇〇%	一〇〇%	九五%	一〇〇%	一〇〇%	一〇〇%
五	同 二五匁 同 一〇匁	一〇〇%	一〇〇%	九五%	一〇〇%	一〇〇%	一〇〇%
六	同 三〇匁 同 一〇匁	一〇〇%	一〇〇%	九五%	一〇〇%	一〇〇%	一〇〇%
七	同 五匁 同 一五匁	一〇〇%	一〇〇%	八〇%	九〇%	一〇〇%	一〇〇%
八	同 一〇匁 同 一五匁	一〇〇%	一〇〇%	八〇%	九〇%	一〇〇%	一〇〇%
九	同 一五匁 同 一五匁	一〇〇%	一〇〇%	九五%	一〇〇%	一〇〇%	一〇〇%
一〇	同 二〇匁 同 一五匁	一〇〇%	一〇〇%	九五%	一〇〇%	一〇〇%	一〇〇%
一一	同 二五匁 同 一五匁	一〇〇%	一〇〇%	九五%	一〇〇%	一〇〇%	一〇〇%
一二	同 三〇匁 同 一五匁	一〇〇%	一〇〇%	九五%	一〇〇%	一〇〇%	一〇〇%
一三	標準 (無撒布)	〇	〇	〇	〇	五	一〇
一四	除蟲菊粉五匁 (比較)	一〇〇%	一〇〇%	四五%	九五%	九五%	九五%

一五	除蟲菊粉	一〇匁 (比較)	二〇	二〇	四〇	五〇
一六	同	一五匁 (同)	三〇	四〇	四〇	五〇
一七	同	二〇匁 (同)	〇	六〇	七〇	一〇〇
一八	同	二五匁 (同)	〇	六〇	七〇	一〇〇
一九	同	三〇匁 (同)	〇	五〇	九〇	一〇〇
二〇	清水	(同)	〇	〇	一五	五〇

備考 一 本試験は野外に於て施行せるものにして、其の方法は果樹園に於て、櫻桃翅斑實蠅成蟲を採集し、直に之を直径一〇種、高さ二〇種の圓筒形金網に放飼し、各區共小形噴霧器を以て一定の距離より二―三秒間散布せり。散布後供試蟲を濾紙を敷きたるシヤレ内に移し、爾後其の生死を調査せり。

二 本試験に於ける供試蟲生死の標準はピンセットにて孰れの部分に觸るるも肉眼的反射運動を起さざるものを死蟲となし、死蟲率を求めたるも、更に實用上、脚、觸角及口吻等に反射運動を起すも自力にて翅の振動又は歩行、反轉をなし得ざる麻痺状態のものにして而も蘇生の見込なしと推定されたるものを假に加へて射に率を求め之を假死蟲率となせり。

三 供試頭数は試験番號自第一四區至第一九區は一〇頭其の他の各區二〇頭なり。

四 試験施行期日は昭和十四年五月三十一日にして當日の天候は快晴無風、試験施行中の氣温は攝氏一七・八度乃至二二・二度、試験施行場所は増毛郡増毛町字善寒澤、藤原新太郎氏果樹園なり。

三 昭和十四年本道に於て發生せる特に注意すべき害蟲に關する調査成績

昭和十四年の氣候は融雪期遅れ五月下旬一時低溫なる等春季不順なりしも、其の後高溫となり、六月下旬より七月上旬に互り低溫多濕に陥り、又八月中旬氣温の低下を見たる外は概して高溫多濕に經過せり。斯る状態にありしを以て各種の害蟲交々發生し、又本年新に害蟲として加害せるものもありたり。今、例年に比し發生多く、若は特殊の發生をなしたる害蟲を列擧すれば左の如し

- 水稻及陸稻の害蟲 「イネザウムシ」、「オホトゲシラホシカメムシ」、二化性螟蟲、「ヒメササキリ」
- 麥類の害蟲 「アハヨタウ」
- 大形禾穀類の害蟲 「アハヨタウ」、「アハノメイガ」
- 菽豆類の害蟲 「キタバコガ」、「タネバヘ」、「アハノメイガ」、「エンドウザウムシ」
- 甜菜の害蟲 「ヨタウガ」
- 荳科牧草の害蟲 「ウリハムシモドキ」
- 葱頭の害蟲 「タマネギバヘ」
- 苹果の害蟲 「モモンクヒガ」
- 櫻桃の害蟲 「ウチイケアウトウハバチ」、「モンクロシヤチホコ」、「アウトウハマダラミバヘ」

以上の諸害蟲中特に注意を要すと認むるものに就き略説すれば左の如し

(イ) 「イネメイガ」(一化性螟蟲) Chilo simplex BUTLER
 昭和十三年に於て例年に比し、發生多かりし本種は本年の氣候高溫なりしに因り八月以後空知、石狩兩支廳管内にその被害甚しく、後志、檜山、膽振等の各支廳管内、上川、網走支廳管内の一部にも亦、例年に見ざる發生あり。特に近年普及せる温床苗栽培のものに被害多き傾向を見たり。今後之が防除には特段の注意を必要とするものにして、從來奨勵し來れる低刈を行ひ、藁を處理し、又は密閉して越年幼蟲の殺滅並に脱出を防止するに努むべし。被覆の際其の材料として筵は用ひざるを可とす。夏季加害初期に於ける被害莖の摘採處分も亦必要なり。

(ロ) 「オホトゲシラホシカメムシ」 Eusarcoris lewisi SCOTT
 六月中旬頃より石狩國上川郡鷹栖村の一部に發生して水稻を加害せるものなるが、調査の結果、稻作害蟲として從來記録せられたることなき本種なることを明にせり。これが被害稻は草丈の伸長を殆ど停止して異常分蘗をなし、出穂すること能

はざるに至る。當業者の觀察によれば一兩年前より多少の発生を見たるも、本年急に発生を増せりと言ふ。被害は特に畦畔の株に多きを見る、恐らく年一回の発生をなすものの如く、越年成蟲の産卵による仔蟲が、莖葉の汁液を吸収加害するものなり。七月下旬には概ね成蟲に羽化する。本種は樺太、北海道及本州(山地)に分布を知られたるものにして、從來其の成蟲が雑草中に見出さるゝに過ぎずして、食餌植物等不明のものなりき。之が防除法としては除蟲菊石鹼液、硫酸ニコチン石鹼液等の如き接觸中毒劑の撒布並に成蟲、卵塊等の捕殺を適當と認む。

(ハ) 「アハヨタウ」(粟夜盜) *Cirphis unipuncta* HAWORTH

七月上旬より本道西半部一帯に「アハヨタウ」大發生の徴ありしを以て當場に於ては直に警戒警報を發せるが、果して同月中旬より下旬に亘り、渡島、檜山、後志、石狩、上川、留萌、宗谷等の支廳管内、特に利尻島等に夥しく發生し、燕麥、大麥、玉蜀黍、禾本科牧草等に大害を與へ、老熟せる幼蟲は附近に移動して家屋内に侵入し來れる場合さへありたり。その第二回發生のものは稻に來る處ありしを以て大に警戒せるが、幸にして局所的發生に止まれり。本種は毎年大發生をなすものにあらざると雖も、發生多きときは忽ちにして大害を惹起するものなるを以て、常に警戒を怠らざるを要す。

(ニ) 「アハノメイガ」(粟螟蟲) *Pyrausta nubilalis* HÜBNER

八月より九月に亘り、前種と同様本道西半部に發生多く、渡島、檜山、後志、石狩支廳管内に於ては小豆、後志支廳管内に於ては菜豆のうち「大福」に著害をなせり。本種は從來屢大害をなせる雜食性害蟲なるが、茲兩三年其の害多きを以て特にこれが防除に注意を要す。

(ホ) 「ウチイケアウトウハバチ」*Eriocampoides limacina* FERTIUS

札幌市並に其の近郊に於て兩三年前より櫻桃、櫻、梨等に發生して葉を網目狀に食害し、樹をして殆ど枯死に瀕せしむる害蟲出現し、本年特に其の發生甚しく、急速に蔓延の兆あり。調査の結果「ウチイケアウトウハバチ」なることを確めたり。本種は本邦にありては大正十三年福島縣に於て被害著しきことを發見、其の後山形縣の一部に發生せるも其の他の地方には

全く分布を見ず、歐米に於ては古くより知られたるものにして、本邦に於ける發生は恐らく輸入に基くものと想像せられつゝあり。本道に於ける發生系路は未だ明ならず。札幌地方に於ては年二回の發生をなし、六月成蟲出現、同月下旬より七月中旬に亘り幼蟲加害、同月中下旬地中に蛹化、七月下旬より八月上旬に亘り羽化、八月下旬より九月下旬に亘り再び幼蟲加害、後、地中に入り結繭しその儘越冬す。成蟲は葉肉内に産卵し、幼蟲は體黄色なるも楊色の粘液を以て覆はれ、其の狀恰も「ナメクジ」狀をなす。福島縣に於て發生を見て以來著害を被りし先例に鑑み、今後特に警戒を要する害蟲なり。之が防除法としてはデリス石鹼液、ネオトン石鹼液の如きロテノール系統の接觸中毒劑の撒布を有效とすべし。消化中毒劑に依らんとするときは、硫酸石灰は效果劣るを以て硫酸鉛を用ゆるを有利とす。但し、砒素劑は往々藥害を見ることがあるを以て應用上深甚の注意を要す。

四、蠶桑に關する試験及調査成績

(一) 春蠶一代雜種比較試験成績

本場に於ける試験成績に據れば、新品種 ×(日八九號及 ×(支二〇九號の兩種は、從來の品種 ×(日八號及 ×(歐一九號に比較し特に飼育容易なるを認めたるを以て、前二品種に代へ奨勵せんとす。其の成績左の如し

本場試験成績 自昭和十三年 至同十四年

品 種 名	飼 育 日 數	飼 育		減 量 歩 合	同 功 歩 數	對 立 歩 數	對 立 歩 數	對 立 歩 數	對 立 歩 數	對 立 歩 數	對 立 歩 數	對 立 歩 數	對 立 歩 數	對 立 歩 數	對 立 歩 數	對 立 歩 數	對 立 歩 數	對 立 歩 數	對 立 歩 數	
		温 度	温 度																	
日八號支一七號	三五日二二時間	二・三度	七〇・三%	三〇・五%	六八	三〇	四三	一六	八七	八四	〇・三五	三・三五	六六	六六	六六	六六	六六	六六	六六	六六

歐一九號×支一七號	三五日一九時間	三三度	七三%	一五六%	五九%	七	二八瓦	四〇瓦	三〇%	八六〇瓦	四二瓦	六五瓦	六%	普通
日九號×支一〇八號	三六日二時間	三三度	七六%	一〇三%	四三%	六	二九瓦	三六八瓦	一九〇%	八二〇瓦	三九瓦	六三瓦	六%	普通
支三號×支一〇九號	三六日二時間	三三度	七六%	一六〇%	八三%	六	二九瓦	四〇〇瓦	二〇〇%	一七九七瓦	八三瓦	七三瓦	六%	普通

尙前記品種の原蠶種飼育成績左の如し

品 種 名	飼 育 日 數	飼 育		減 步 合	同 功 合	一 立 數	對 一〇〇 重 重 層	對 對 立 收 量	粒 殺 量		一 蛾 數			
		溫 度	濕 度						殺 量	纖 度				
日 八 號	三九日一時間	三三度	七三%	一五六%	五九%	七	二八瓦	四〇瓦	三〇%	八六〇瓦	四二瓦	六五瓦	六%	普通
歐 一 九 號	四〇日〇時間	三三度	七六%	一〇三%	四三%	六	二九瓦	三六八瓦	一九〇%	八二〇瓦	三九瓦	六三瓦	六%	普通
支 一 七 號	三八日一〇時間	三三度	七六%	一〇三%	四三%	六	二九瓦	三六八瓦	一九〇%	八二〇瓦	三九瓦	六三瓦	六%	普通
日 九 號	三九日四時間	三三度	七三%	一五六%	五九%	七	二八瓦	四〇瓦	三〇%	八六〇瓦	四二瓦	六五瓦	六%	普通
支 二 〇 號	四〇日一時間	三三度	七三%	一五六%	五九%	七	二八瓦	四〇瓦	三〇%	八六〇瓦	四二瓦	六五瓦	六%	普通
支 一 〇 八 號	三七日一時間	三三度	七三%	一五六%	五九%	七	二八瓦	四〇瓦	三〇%	八六〇瓦	四二瓦	六五瓦	六%	普通
支 一 〇 九 號	三七日一時間	三三度	七三%	一五六%	五九%	七	二八瓦	四〇瓦	三〇%	八六〇瓦	四二瓦	六五瓦	六%	普通

(二) 新用途繭用夏蠶一代雜種比較試驗成績

本場に於ける試験成績に據れば、昭和十四年度農林省配付の新用途繭用蠶一代雜種×(新日一〇〇一號及×(新支一〇〇二號)の兩種は稚蠶期に對桑育、壯蠶期に無除沙平飼育をなせるが、兩種共飼育容易にして×(新日一〇〇一號は特に繭層歩合多く、×(新支一〇〇三號は蟲質甚だ強健なるを認めたり。其の成績左の如し

本場 試験成績 昭和十四年

品 種 名	飼 育 日 數	飼 育		減 步 合	同 功 合	一 立 數	對 一〇〇 重 重 層	對 對 立 收 量
		溫 度	濕 度					
新日一〇一號×新支一〇二號	二九日二時間	三三度	八三%	二〇〇%	一〇〇%	一〇六	一五四瓦	二七八瓦
新支一〇二號×新支一〇三號	二八日五時間	三三度	七三%	一〇三%	六八	一三三	一四三瓦	二六七瓦

五、農産加工に關する試験及調査

(一) 罐場詰用莢菜豆收穫期試験成績

罐場詰原料莢菜豆の收穫適期を知らんが爲、蔓性軟莢種「サットンストールシユガー」及矮性硬莢種「エバグリー」の二品種に就き、莢の伸長程度と品質との關係に就き本場に於て試験せるに、前者にありては莢の長さ一二種乃至一三・五種、後者にありては一〇・五種内外に伸長せる時、色澤、形状、硬度共に良好にして、罐場詰原料として適當なるを認めたり。其の成績左の如し

本場 試験成績 昭和十三年

供 用 品 種	收 穫 期 に 於 ける		色 澤	形 状	
	莢 の 長 さ	一 個 重 量		太 さ	曲 直
蔓性軟莢種 サットンストールシユガー	一〇・五(三・五)	二・二八	濃 綠	極 細 彎 曲	無 筋 又 硬 度 無

蔓性軟莢種	一・二〇	三・三	極細	曲	無
サットンストールシユガー	一・三・五	四・四	細	直	同
同	一・五〇	六・〇	同	同	同
同	一・六五	七・五	太	曲	同
同	一・八〇	九・二	同	同	同
矮性硬莢種	八・五	一・五五	極太	直	同
エバードリ	九・〇	二・三四	同	同	同
同	一〇・五	二・九六	同	同	同
同	一二・〇	四・二	同	同	軟
同	一三・五	五・四	同	同	同
同	一三・五	五・四	同	同	硬

(二) 罐詰莢菜豆褪色防止法試験成績

本場に於て莢菜豆罐詰製造に際し、加熱殺菌に依る褪色を防止すべき方法を知らんが爲硫酸銅溶液を用ひて、其の濃度、定着所要時間及定着後の水漂所要時間を試験せるに、色素定着に適當なる硫酸銅溶液の濃度は〇・〇五%にして、其の定着所要時間は莢の熟度により異り、極若莢は五分内外、若莢は七分内外、稍熟度進みたるものは九分内外を適當とし、定着後の水漂は四時間乃至六時間を適當と認めたり。其の成績左の如し

本場試験成績 昭和十三年

(一) 硫酸銅溶液の濃度と製品の色澤	定着湯通時間	製品の色澤
硫酸銅溶液の濃度	定着湯通時間	製品の色澤

〇・〇一〇	五分	褪綠色
〇・〇一〇	五分	稍褪綠色
〇・〇二五	五分	同
〇・〇五〇	五分	鮮綠色
〇・〇五〇	五分	同
〇・〇七五	五分	同
〇・〇七五	五分	同
〇・〇七五	五分	青綠色

備考 一 供試品種「サットンストールシユガー」莢の長さ一四種内外。

二 色素の定着は沸騰せる硫酸銅液中に行ふ。

三 右の色澤は色素定着後四時間水漂を行ひたる罐詰製品の色澤なり。

(二) 莢の熟度對色素定着時間

熟度	莢の熟度		定着液の濃度	定着時間	
	太さ	長さ		二分	四分
極若	極細	一〇・五(三・五)	硫酸銅液 〇・〇五	帶黃綠色	鮮綠色
若	細	一三・五(四・五)	同 〇・〇五	帶黃綠色	鮮綠色
稍過熟	稍太	一六・五(五・五)	同 〇・〇五	褪綠黃色	鮮綠色
				褪綠黃色	鮮綠色
				帶黃綠色	鮮綠色
				帶黃綠色	鮮綠色
				鮮綠色	青綠色
				鮮綠色	青綠色
				鮮綠色	青綠色

備考 供試品種「サットンストールシユガー」

(三) 色素定着後の水漂時間

水漂時間	漂水換回数	水漂直後の色	罐詰製品の色	風味	液汁の色澤	液汁の清澄度
二時	同	鮮緑	鮮緑	良	帶綠淡黄色	稍濁濁あり
四時	三	同	同	同	淡黄色	清
六時	四	同	同	同	同	同
八時	五	鈍斑を生ず	同綠及帶黃綠の斑有り	稍淡	同	同
一〇時	五	同	同	同	同	同
一六時	五	同	同	同	同	同

(三) 莢菜豆罐詰注入液調味法に関する試験成績

本場に於て莢菜豆罐詰製造に當り、注入液の適當なる調味法を知らんが爲、調味料の種類竝に配合割合を異にして製造試験を行ひ、製品の品質を比較せるに、注入液としての食鹽の濃度は二%を適當とするも、食鹽單用にては風味淡白なるを以てグルタミン酸ナトリウムを〇・一五%又は白砂糖一%を加用するの適當なるを認めたり。尙、グルタミン酸ナトリウムの加用は水漂過度に行はれたるものに對し、特に效果大なるを認めたり。其の成績左の如し

本場試験成績 昭和十三年

試験區別	注入液(水一立に對する加用量)		眞空度	上空部	固形量	液量	莢菜豆		清澄度	P.H	食鹽含量%
	食鹽	砂糖					色澤	硬さ			
第一區	一五	一五	二〇時	〇四	五五三	三〇	鮮綠	適	清澄	五五	〇四八九
第二區	一五	一五	二〇時	〇三	五七六	二九三	同	同	同	五四	〇五六三
第三區	二〇	二〇	一三〇	〇三	五五八	三〇〇	同	同	同	五六	〇七三三

備考	第一供試品種「サットンストールシユガー」		第二供試罐型「二號罐」		眞空度	上空部	固形量	液量	色澤	硬さ	風味	清澄度	P.H	食鹽含量%
	第一區	第二區	第一區	第二區										
第一區	二〇	二〇	一〇	一〇	七五	〇三	五五九	三〇八	同	同	優	同	五六	〇六八九
第二區	二〇	二〇	一〇	一〇	八五	〇三	五六八	三〇〇	同	同	良	同	五四	〇六七二
第三區	二〇	二〇	一〇	一〇	九〇	〇三	五八五	二八五	同	同	稍濃厚	同	五四	〇六八三
第四區	二〇	二〇	一〇	一〇	一三〇	〇三	五五三	三〇三	同	同	鹽味稍多	同	五四	〇九二五
第五區	二〇	二〇	一〇	一〇	一一〇	〇三	五八二	二八八	同	同	同	同	五四	〇八七四

(四) 罐詰原料梨「身不知」追熟に関する試験成績

本場に於て梨「身不知」罐詰製造に適當なる追熟期間及製造期間を知らんが爲、十月十二日及同月二十二日收穫のものを供用して試験したるに、罐詰製造に適當する追熟期間は、十月中旬收穫のものにありては收穫後五日頃より十一月下旬に至る約一箇月にして、最も好適するは十月下旬より十一月中旬に至る期間なり。又十月下旬收穫のものにありては收穫後直に罐詰に供し得らるるも、其の適期は十一月下旬迄の約一箇月にして、最も好適するは十一月中旬迄なり。則ち罐詰製造の適期は收穫の早晩に依りては差異なく、十一月下旬迄にして、十二月下旬に至れば香氣、食味、硬度共に低下し、罐詰原料に供し難きを認めたり。其の成績左の如し

本場試験成績 昭和十三年

調査期日	收穫期日	調査期日	收穫期日
十月十二日	十月十二日	十月二十二日	十月二十二日
同 十六日	同 十六日	硬度適、食味稍劣	硬度適、食味佳

十月二十一日	同	硬度適、食味良	硬度適、食味佳
十月二十六日	同	同	硬度適、食味良
十一月五日	同	同	同
十一月十五日	同	同	同
十二月二十五日	同	硬度適、食味佳	硬度適、食味佳
同	同	硬度稍適、食味稍劣	硬度稍適、食味稍劣
同	同	同	同
同	同	硬度稍不適、食味劣	硬度稍不適、食味劣

備考 供試原料 本場産、一箇重量三〇〇—四〇〇瓦

(五) 罐詰原料梨「身不知」の果實の大きさ對果肉歩止及品質に關する試験成績

本場に於て梨「身不知」罐詰製造上適當なる果實の大きさを知らんが爲、果實の大小に對する果肉歩止及其の品質を一箇重量一五〇瓦乃至四五〇瓦のものに就き調査したるに、果肉歩止は一箇重量二二五瓦乃至三七五瓦のもの八〇%以上を示し、最も高く、それより大きさを増減するに隨ひ漸減の傾向にあり。品質は三〇〇瓦乃至三七五瓦のもの肉質、香味共最も優良にして、二六三瓦以下二二五瓦迄は食味の點に於て稍劣るも罐詰原料として差支なきを認め、四一三瓦以上のもは香氣、食味は共に適當なるも肉質稍粗にして、且罐詰原料としては大形に過ぐるを認めたり。之を要するに、罐詰原料としては一箇重量二二五瓦(六〇匁)乃至三七五瓦(一〇〇匁)のもの好適するを認めたり。其の成績左の如し

本場試験成績 自昭和十二年 至同十三年

試験區別 (一箇重量)	果	肉	果	皮	果	芯	肉	質	香	氣	食	味
一五〇(四〇)匁		七七 ³ / ₃		二二 ⁹ / ₉		九 ⁸ / ₈	緻	密	少	なし	劣	
一八八(五〇)		七八〇		二二 ⁴ / ₄		九 ⁶ / ₆	同	同	同		稍	劣
二二五(六〇)		八〇 ¹ / ₁		二〇 ¹ / ₁		九 ⁸ / ₈	稍	密	有	り	稍	良
二六三(七〇)		八〇 ¹ / ₁		二〇 ¹ / ₁		九 ⁸ / ₈	同	同	同		同	良
三〇〇(八〇)		八 ⁰ / ₀		二〇 ³ / ₃		八 ⁷ / ₇	同	同	同		同	良
三三八(九〇)		八〇 ⁷ / ₇		二〇 ⁷ / ₇		八 ⁶ / ₆	同	同	同		同	良
三七五(一〇〇)		八 ³ / ₃		二〇 ² / ₂		八 ⁵ / ₅	同	同	同		同	良
四一三(一〇)		七八 ³ / ₃		二二 ⁵ / ₅		九 ³ / ₃	稍	粗	同		同	良
四五〇(二〇)		七六 ⁵ / ₅		二二 ⁶ / ₆		一〇 ⁹ / ₉	同		同		同	良

(六) 梨「身不知」罐詰殺菌法試験成績

梨「身不知」罐詰製造に際し、適當なる殺菌温度並に時間を知らんとし、湯通區及生詰區に就き試験したるに、梨「身不知」罐詰の殺菌は頗る容易にして、攝氏一〇〇度一五分間に於て完全に殺菌の目的を達し得られ、製品の品質は湯通しせるものは生詰に比し、色澤及硬度に於て優るを認めたり。尙殺菌温度一〇〇度二〇分未滿は果肉硬きに過ぎ、又同温度三〇分以上は軟に過ぎ且色澤を損するを以て、梨「身不知」罐詰の最も適當なる加熱殺菌法は攝氏一〇〇度にて二五分乃至三分間なるを認めたり。其の成績左の如し

本場試験成績 昭和十三年

區別	處理法	殺菌		真空度	果肉量	液量	液糖度		P.H	果汁色澤	肉色	硬位	硬位	品質	變敗
		溫度	時間				スプリック	度							
第一區	生湯通	100.0	15分	70	28.5	200	20.7	4.50	同	淡黃白	一	過硬	三	無	
第二區	生湯通	100.0	15分	60	26.2	205	23.3	4.50	同	淡黃白	二	稍硬	三	無	
第三區	生湯通	100.0	20分	90	27.5	190	21.0	4.40	同	同	一	適硬	二	同	
第四區	生湯通	100.0	25分	90	29.4	170	20.7	4.40	同	同	一	同	一	同	
第五區	生湯通	100.0	30分	100	31.1	170	20.2	4.60	同	同	三	同	一	同	
第六區	生湯通	100.0	35分	110	32.8	175	21.2	4.70	同	同	二	同	二	同	
第七區	生湯通	100.0	40分	120	34.5	155	18.5	4.55	同	淡褐黃白	四	稍軟	三	同	
第八區	生湯通	100.0	45分	130	36.2	155	18.5	4.50	同	淡赤黃白	五	同	五	同	

備考 一 湯 通 原果其の儘を攝氏五五度の温湯にて一分間湯通せり。
 二 注入糖液 水一立に對し砂糖五〇〇瓦、枸橼酸二・五瓦溶解
 三 脱氣温度 罐内中心温度攝氏七〇度
 四 供試罐型 平一號罐

(七) 梨「身不知」罐詰注入液試験成績

本場に於て梨「身不知」罐詰製造上適當なる注入液の糖度及酸度を知らんとし、水一立に對し砂糖四〇〇瓦乃至六〇〇瓦を溶解せるもの、及之に枸橼酸二・〇瓦乃至五・〇瓦を加用せるものに就き試験したるに、製品の液汁糖度は砂糖四〇〇瓦溶解區はブリックス一七度内外にして稍少なく、五〇〇瓦溶解區は一九度内外にして適當と認められ、六〇〇瓦溶解區は二一度内外にして稍多なるを認めらる。酸味は枸橼酸加用區は孰れも概して良好にして、就中五・〇瓦加用區最も適當と認められ、色澤は各區共淡黃白色にして良好なるを認めたり。之を要するに梨「身不知」罐詰の注入液は水一立に對し砂糖五〇〇瓦に枸橼酸五・〇瓦を加用するを適當と認めたり。其の成績左の如し

(一) 注入液の調製

本場試験成績 自昭和十二年 至同十三年

區別	水一立に對し加へたる量	砂糖	枸橼酸	ブリックス糖度	H.P	滴定酸度
第一區	400瓦	500	2.0	27.5	5.90	1.425
第二區	400瓦	500	2.0	28.5	3.25	1.425
第三區	500瓦	500	2.5	33.0	6.50	1.335
第四區	500瓦	500	2.5	33.5	3.10	1.335
第五區	500瓦	500	5.0	35.2	3.05	2.670
第六區	600瓦	500	5.0	35.8	6.30	2.670

備考 滴定酸度、注入糖液一〇〇延を中和するに要せし規定苛性曹達液量

(二) 製品調査

第七區	第六區	第五區	第四區	第三區	第二區	第一區
六〇〇瓦	三〇〇瓦	三七〇度	三一五	一五・二〇		
糖	糖	糖	糖	糖	糖	糖
度	度	度	度	度	度	度
液	液	液	液	液	液	液
度	度	度	度	度	度	度
汁	汁	汁	汁	汁	汁	汁
度	度	度	度	度	度	度
果	果	果	果	果	果	果
度	度	度	度	度	度	度
色	色	色	色	色	色	色
澤	澤	澤	澤	澤	澤	澤
順	順	順	順	順	順	順
位	位	位	位	位	位	位
澤	澤	澤	澤	澤	澤	澤
香	香	香	香	香	香	香
味	味	味	味	味	味	味
順	順	順	順	順	順	順
品	品	品	品	品	品	品
位	位	位	位	位	位	位
質	質	質	質	質	質	質
四	五	一	二	三	四	五

備考 一 供試罐型 堅二號罐、肉詰量五五〇瓦
 二 製造方法 原果四ツ割、剥皮、除芯後一・五%食鹽水に浸漬し果肉の酸化を防ぎたるものを肉詰す。脱氣温度は罐内中心温度攝氏七〇度、殺菌攝氏一〇〇度、三〇分間

六、農具に関する試験及調査成績

(一) 赤クローバー種子の脱粒に関する試験成績

本場に於ける試験調査の成績に據れば、赤クローバー種子の脱粒方法は岩田式剝機（七〇〇—七五〇廻轉）、北農式燕麥精穀機（七五〇廻轉）、フート式燕麥精穀機（九五〇廻轉内外）、フェードグラインダー（五〇〇—七五〇廻轉）、尾上式粉末機（一七五〇廻轉）、藤瀬式脱穀機（八〇〇廻轉）等を使用し、夫れ夫れ二、三回連続反復掛を行ふを適當と認め發表せるが、其の後各機の廻轉數並に連續反復掛回數の變化に伴ふ種子脱粒歩合及損傷（碎け）歩合を調査せるに左の如し

- 一、尾上式肥料粉末機及白部の新しきフェードグラインダーを除く各機の適當なる脱粒歩合に達する回轉數並に反復掛回數は前回の成績と同様なり。
- 一、各機共廻轉數及反復掛回數の増加に伴ひ脱粒歩合並に損傷歩合の増加するを認めたるも、尾上式肥料粉末機及白部の新しきフェードグラインダーを除けば各機共特に廻轉の高速なる場合は概ね損傷歩合僅少にして一%以下なり。
- 一、尾上式肥料粉末機及白部の新しきフェードグラインダーは他機に比し損傷多く、廻轉數及反復掛回數の増加に隨ひ損傷歩合の増加著しく大なり。

一、尾上式肥料粉末機及白部の新しきフェードグラインダーを使用する場合は、連續反復掛を行はず一回毎に種子を選別し、尾上式肥料粉末機は一、〇〇〇廻轉内外、白部の新しきフェードグラインダーは四〇〇—五〇〇廻轉にて使用するを適當と認めたり。其の成績左の如し

本場試験成績 昭和十四年

機名	廻轉數	脱粒歩合						損傷歩合						
		一回掛	二回掛	三回掛	四回掛	五回掛	六回掛	一回掛	二回掛	三回掛	四回掛	五回掛	六回掛	
岩田式剝穀機	九五〇	八九・七三	九八・九七	九七・八三	九八・六九	九五・七三	〇・三六	〇・三九	〇・七七	一・九六	四・〇九	一・〇〇	四・三二	〇・〇〇
	七五〇	八四・八七	九五・九五	九八・六六	九八・六九	九八・六九	〇・六六	〇・三九	〇・六七	〇・六七	一・〇〇	四・三二	〇・〇〇	〇・〇〇
	五五〇	六四・六〇	八七・八一	九四・二七	九四・三三	〇・〇〇	〇・〇三	〇・〇四	〇・〇三	〇・三三	四・三二	〇・〇〇	〇・〇〇	〇・〇〇
北農式燕麥精穀機	四八九	四八・六一	五二・五〇	五三・三四	五七・〇四	八〇・三三	〇・〇三	〇・〇三	〇・〇三	〇・二二	〇・二二	〇・二二	〇・〇〇	〇・〇三
	六三二	五九・六六	六五・七四	七二・二〇	八一・一五	九〇・三三	〇・〇七	〇・一三	〇・一三	〇・三三	〇・三三	〇・三三	〇・三三	〇・三三
	七三三	六一・四四	八四・五四	八五・五九	九六・七九	九五・七七	〇・〇三	〇・〇六	〇・一四	〇・一四	〇・一四	〇・一四	〇・一四	〇・一四
フーフト式燕麥精穀機	五五〇	九四・五八	九六・三三	九六・四八	九六・四八	〇・〇三	〇・〇三	〇・〇三	〇・〇三	〇・〇三	〇・〇三	〇・〇三	〇・〇三	〇・〇三
	七五〇	九三・六五	九六・五〇	九七・三七	九七・三七	〇・〇三	〇・〇三	〇・〇三	〇・〇三	〇・〇三	〇・〇三	〇・〇三	〇・〇三	〇・〇三
	九五〇	九二・九〇	九五・八四	九七・九八	九七・九八	〇・〇三	〇・〇三	〇・〇三	〇・〇三	〇・〇三	〇・〇三	〇・〇三	〇・〇三	〇・〇三
フキードグラインダー(白新)	五五〇	五七・七三	六三・〇〇	六四・四六	七二・一八	〇・〇〇	〇・〇八	一・三三	三・〇六	三・〇六	三・〇六	三・〇六	三・〇六	三・〇六
	七五〇	四二・三三	五五・一八	五八・七三	六八・〇〇	〇・〇〇	〇・一〇	一・八〇	一・八〇	一・八〇	一・八〇	一・八〇	一・八〇	一・八〇
	九五〇	三〇・六五	四七・四二	五七・九四	六三・二六	〇・〇〇	〇・二六	一・五九	二・五九	二・五九	二・五九	二・五九	二・五九	二・五九

機名	廻轉數	脱粒歩合						損傷歩合						
		一回掛	二回掛	三回掛	四回掛	五回掛	六回掛	一回掛	二回掛	三回掛	四回掛	五回掛	六回掛	
フキードグラインダー(白古)	五五〇	八三・〇五	八四・一四	九三・九九	九三・三六	〇・〇四	〇・〇四	〇・〇三	〇・〇三	〇・〇三	〇・〇三	〇・〇三	〇・〇三	〇・〇三
	七五〇	五四・八六	七〇・〇九	七二・三五	七九・七七	〇・〇七	〇・〇七	〇・〇三	〇・〇三	〇・〇三	〇・〇三	〇・〇三	〇・〇三	〇・〇三
	九五〇	四七・四二	五七・九四	五八・七五	六三・三二	〇・〇六	〇・〇六	〇・〇七	〇・〇七	〇・〇七	〇・〇七	〇・〇七	〇・〇七	〇・〇七
尾上式肥料粉末機	一、〇〇〇	七五・三三	七八・八〇	八九・六〇	八九・七一	〇・〇六	〇・〇六	〇・〇三	〇・〇三	〇・〇三	〇・〇三	〇・〇三	〇・〇三	〇・〇三
	一、五〇〇	八四・五七	八五・八五	七七・四五	五七・五九	三・九二	一・〇八	一・〇八	一・〇八	一・〇八	一・〇八	一・〇八	一・〇八	一・〇八
	二、〇〇〇	六五・八二	六九・二四	五〇・八一	三三・三九	三・七五	一九・八八	二七・〇九	四六・七三	六四・八九	九〇・六八	〇・〇〇	〇・〇〇	〇・〇〇
藤瀬式脱穀機	四〇〇	三六・三三	四三・五二	五三・〇四	六三・八四	六四・二二	七〇・八〇	〇・〇七	〇・〇七	〇・〇七	〇・〇七	〇・〇七	〇・〇七	〇・〇七
	六〇〇	六三・一〇	七九・四六	七九・四七	九〇・四八	九三・三四	九四・七九	〇・〇三	〇・〇三	〇・〇三	〇・〇三	〇・〇三	〇・〇三	〇・〇三
	八〇〇	八二・八三	九五・六二	九六・九二	九八・〇九	九八・四二	九八・九二	〇・〇三	〇・〇三	〇・〇三	〇・〇三	〇・〇三	〇・〇三	〇・〇三

(二) 一頭曳麥類刈取機調査成績

備考 脱粒歩合及損傷歩合は、脱粒精選種子並に損傷(碎け)種子と機械により脱粒せざりし種子との總和を一〇〇として算出せり。

本道に於て従来多く使用せらるる麥類刈取機(リーパー)は、二頭曳にして且相當多くの牽引力を要し、一般的に使用すること困難なる實情にあるを以て、一頭曳程度の刈取機を昭和十四年本場に於て試作し、其の使用を試みたるに其の成績左の如し

一、本機はドリル播を行ひたる麥類の刈取に恰適するも、従来の慣行栽培法のものにも使用し得るを認めたり。

14
801

一、本機の牽引は強馬一頭にて可能なるも、連日使用の場合は別の耕馬を以て半日交代に使役するを適當と認めたり。
 一、功程は一日二町歩を示し(機械を運搬せず一圃場にて使用する場合)、其の刈取状態は稍良好にして、集禾の多少は適當に調節するを得たり。
 一、本機は追風の場合に使用するときには刈取状態良好ならず、特に倒伏せる作物の刈取には殆ど使用不可能なるを認めたり。
 一、本機を使用し刈取りたるものは小束に結束せず、投込脱穀機、自動送込脱穀機等を使用し脱穀するときには特に労力の節約を行ひ得べし。

機名	總重量	全長	幅	高さ	刈幅	牽引	刈取状態	一日功程
式一頭曳麥類刈取機 (リバー)	二九三 斤	四八五 米	二七五 米	一・〇五 米	〇九八 米	強馬一頭	稍長	二・〇〇 町

備考 本機の價格及製作所左の如し

價格 五〇〇圓
 製作所 札幌市豊平三條六丁目 豊平機械製作所 關野太一

昭和十六年一月十七日印刷
 昭和十六年一月二十日發行

北海道農事試験場

(札幌郡琴似村)

印刷者 札幌市北一條四三丁目二番地 山中次郎
 印刷所 札幌市北一條四三丁目二番地 合名會社文榮堂印刷所
 電話一六〇・八五一番